

幼兒の教育



第十四卷 九月號 第八九號

東京女子高等師範學校
日本幼稚園協會

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編 (五版)

改訂 系統的保育案の實際 増補

定價 金壹圓參拾錢 送料 金六錢

初版以來廣く參考の資料とせられた本書は、時局下幼兒保育の再認識と、特に國民學校の新制に對する用意の必要とから到底舊版のまゝに止まることを許されなくなりました。全體に互る改訂と増補を以て茲に此の新版を供する次第であります。

日本幼稚園協會編

幼稚園談話集 (四版)

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編

觀察の實際 (再版)

幼兒の教育 (月刊)

菊判一三〇頁 定價金壹圓
送料東京市内金六錢 其他金九錢
郵版三五〇頁 定價金壹圓五拾錢
送料地方・北海道・臺灣・朝鮮・滿洲 金拾五錢

菊判一三〇頁 定價金壹圓
送料東京市内金六錢 其他金九錢

一ヶ月 金參拾五錢 送料金一錢
一ヶ年 金四圓貳拾錢 送料共

居芝紙育保の秋

内容

◇オトキ列車 ヲドモ科學の玉手箱、色刷寫眞の芝居です。ちつぽけなくせに本當の汽車と同じに出来てゐるオトキ列車の進むにつれていろ／＼愉快なものがとび出します。

◇コザルノキヨクゲイ 見せ物小屋の小猿さん、ヒヨイとぬけ出してみると、之は／＼仲々面白い、子供は仲よしおセンベイをあげませう。でもすぐ目付かつて連れ戻される。何回でもくり返へす事が出来る特別紙芝居。

◇ヒヨコノモダチ・ダレトダレ ビヨビヨビヨ、ひよこの散歩です。豚さん、羊さん、牛さん、カラスさん、蛙さん、コンニチワ、可愛い、散歩は數のお勤定のおけいこです。きれいな色とりどりの繪。

◇オ山ノトナリ組 エートントンの巻——お猿の三ちゃんかねねしてゐると、トントンと叩くものがあります。オンヤと出ても誰もあません。チエツとねんねして朝見ると、なんといか栗さんが山のやうにつんである。

◇新ちゃんとおとんぼ 新ちゃんは赤トンボを糸でしばつて遊びました。ところが保育所の先生がトンボは益虫だと仰言るのです。新ちゃんは糸をつけたまゝとんで行つたトンボを心配します。

全五巻 一組 函入
定價 八圓 (送共)

*九月廿五日一齊發送
 *御申込みはなるべくお早く
 必ず前金で願ひます



舞臺

紙芝居の實演には絶対にこの舞臺が必要で、是非一臺お備へ願ひます。

標準型	定 價	四 圓
荷造送料		八十八錢
特製型	定 價	八 圓
荷造送料		五十錢
桐 製	定 價	拾 圓
荷造送料		一圓十八錢
豪華版	定 價	拾五圓
荷造送料		七十錢

日本教育紙芝居協會入會御案内及
作品目錄申御送第次

日本教育紙芝居協會

東京電話 東橋區銀座四丁目一〇番地
 東京電話 東橋區銀座四丁目一〇番地
 東京電話 東橋區銀座四丁目一〇番地

倉橋惣三編 (新刊)

新體幼稚園唱歌

四六倍判
定價 (送料共)
金七拾錢

目 次
日本の旗日の丸の旗
倉橋惣三 作詞
小松耕輔 作曲
井上武七 作詞
倉橋惣三 作曲

いうびんやさん
倉橋惣三 作詞
弘田龍太郎 作曲
渡し場の船頭さん
倉橋惣三 作詞
中山晋平 作曲
火消しのなちさん
倉橋惣三 作詞
小林つや江 作曲

日本幼稚園協會編 (新刊)

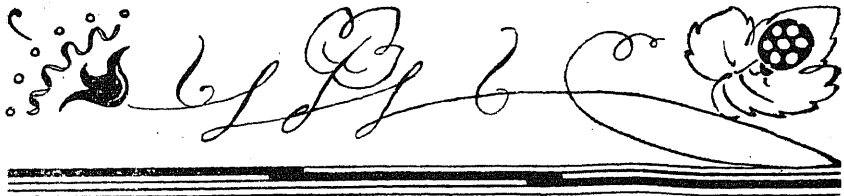
幼稚園新唱歌

四六倍判
定價 (送料共)
金五拾錢

目 次
か
山崎耕輔 作詞
小松耕輔 作曲
杉山米子 作詞
小松耕輔 作曲

ほたる
青山綾子 作詞
小松耕輔 作曲
ふしん場
氏原銀 作詞
小松耕輔 作曲

○この二つの新刊幼稚園唱歌集は、幼稚園の爲に新しい歌曲を求めて居らるゝ方々に必ずや充分歓迎せらるゝことを期待してゐる。



號九・八第 育 教 の 兒 幼 卷一十四第

——(次 目)——

國民幼稚園の名に於て(七)	倉橋惣三(一)
幼稚園の健康保育の實際に就いて	齋藤文雄(二)
幼稚園の遊具	佐々木等(六)
保姆養成に關する意見の調査	愛育研究會(一〇)
秋の家庭蔬菜園	大岩金(一五)
幼兒の音楽教育に就いて	みぎり會音楽研究部(一八)
影 繪——誘導保育の主題——	須子啓子(三〇)
躰・母の指導・について(回答)	赤岸幸輔(四)
赤さんぼのはなし	安村ふさ(四三)
或る幼兒の生活の一端について	小山田節(四七)
各地保育會の活動	小林良子(五)
關東州保育會の現況	月刊「幼兒の母」に就いて
時局と子供	幼兒の母
月刊「幼兒の母」に就いて	誌上保育講習
國民學校と幼稚園保育の實際	倉橋惣三(五)
國民學校國民科指導の精神	竹下直之(六)
國民學校藝能科音楽に就いて	小松耕輔(七)
幼稚園遊戯	戸倉ハル(八)
幼稚園手技	及川ふみ(九)

倉橋惣三著
育ての心
定價 一、五〇〇、一四
送料

東京、神田區駿河臺三丁目六
刀江書院

倉橋惣三著
幼稚園保育法眞諦
定價 二、八〇〇、一六

東京、神田區神保町一丁目六七
東洋圖書株式會社

倉橋惣三共著
新庄よしこ著
日本幼稚園史
定價 三、八〇〇、二〇

同上

倉橋惣三著
幼稚園雜草
定價 二、五〇〇、一四

東京、日本橋區、大傳馬町
内田老鶴圃

日本幼稚園協會編
幼兒に聽かせるお話
定價 三、八〇〇、一四

同上

日本幼稚園協會編
幼兒の楽しむお話
定價 二、八〇〇、一四

同上

最新 幼稚園唱歌集

定價 六一錢
發行所 日本幼稚園協會

目次

- 一、コッキフレ 倉橋惣三作曲 十二、たんぼぼ 大森敏子作曲
- 二、幼稚園のお庭 倉橋惣三作曲 十三、すずめ 三雲當泰子作曲
- 三、だるまさん 井上正武作曲 十四、チュリップ 久保紀子作曲
- 四、お洗濯 相田多雄作曲 十五、春が来た 池田孝二作曲
- 五、汽車 中山晋平作曲 十六、貝拾ひ 宅富貴子作曲
- 六、雲よ降れ降れ 辻喜子作曲 十七、うさぎ 高城富貴子作曲
- 七、煙 津村孝二作曲 十八、七五三 土田千草作曲
- 八、てんとう蟲 清水あきま作曲 十九、鬼ごっこ 高城富貴子作曲
- 九、春 小林つや江作曲 廿一、お母さま 高城富貴子作曲
- 十、お窓の雨 井上トミ子作曲 廿二、てんてん 高城富貴子作曲
- 十、お窓の雨 伊藤逸子作曲 廿三、おんまり 宅孝二作曲
- 十一、小鳥のおはなし 杉山龍太郎作曲 廿四、春の野花 高城富貴子作曲

最新 幼稚園唱歌集の第二版が出来ました。本會宛てて
作曲 御註文下さい。御注文の際は是非前金にてお申し込
み下さい。
日本幼稚園協會



繪と切紙との綜合では、どの部分をどつちにするかは、小さな藝術家のいつも苦心するところでせう。また、苦心させていゝことです。この作品でも、窓掛けをこそ切紙でとも考へられるし、それは背景だから、たゞの色にして置いた方が、肝心の前景が浮き上るといふ考へ方もありませう。わたしはいつか、小さい藝術家が、暫くの間可愛いゝ頭をかしげた後で、兵隊さんの帽子の徽章一つだけを切紙にして、つんとすましてゐるのを見て感心したことがあります。又、汽車全體を重々しく貼り繪にして、煙だけすうつと墨にしても満足さうにしてゐるのを見て感心したこともあります。—斯うなると、繪だけとか切紙だけとかでは得られない、勘の教育、とでもいつたものが出来る譯ですね。これは、すべての綜合工作の教育効果の一つです。

國民幼稚園の名に於て

國民教育者としての養教 (七)

倉橋惣三

國民幼稚園が國民幼稚園としての充實した内容をもつために、最も大切なことが、保母自らの國民教育者としての自覺であることはいふまでもない。しかも、その自覺が、實際に日々の保育を通して、幼い心を涵養し得るためには、保母が常に國民教育者として必須な教養を貯へ、その教養を絶えず新鮮潑刺ならしめてゐることが必要である。

苟も皇國の保母たり、國民精神は胸に漲つてゐる。たゞ、その國民精神は、精神的熱き力との外に、充分なる内容を具へなければならぬ。理解といふだけでは言葉が足りないが、日本の文化全般に亘つて、又、今日の日常生活の全面に亘つて、國民精神的解釋と批判と選擇とが出来る内容をもつてゐなければならぬ。教育は氣を以て發するが、導き育てるには氣だけでは出来ない。是非とも精密にして豊富な教養内容を要するからである。

このために、保母は、たえず此の方面の教養に有效なる教養を怠らぬやうにしたい。兒童研究も、教育研究も、各保育項目の研究も、何れも極めて必要であり、これなくして、日々の保育を誤りなく行つてゆくことは出来ないが、それと共に、それ以上に怠つてならないのは、國を知り、國を解し、國に感ずる教養の深さである。幸にして近時、この方面の教養の途は、甚だ手近かなところに多くなつた。講演にも、著述にも、隨所にその最もよきものを得られる。たゞへば古事記を精讀しようではないか。それも幼兒に碎いて聽かせるためといふよりは自分のためにいふ深さで、だから、保育資料として直接に用ゐられ得るものに限らず、自分のために、古典でも、新書でも、史傳でも、文學でも、日本の教養を高め深めて呉れるものは、國民教育者の心の糧として、休まず研究味としやうではないか。殊に文部省は、さきに「國體の本義」を刊行し、又今、「臣民の道」を刊行して、教育者の必讀を奨めてゐる。日本全國の學校教育者は皆之れを急ぎ繕き、繰りかへし精讀してゐる。たゞ從來としては之等の研究に對し、幼稚園が多少學校の如くでなかつたかの風がないでもない。教育者の經典で、保育者ではないが、決してそうはつきり意識してゐる譯ではないが、切實感に於て多少差があつたことも見られ得る。假りにも果してそうならば、大に遺憾であり、甚しき倦怠である。國民幼稚園の保母は國民教育者である。その自らを國民教育者として教養することに於て、一點の差もあつてはならない。

幼稚園健康保育の實際

愛育研究所 齋藤文雄

吾國に於て國民保健云ふ問題が今日の様になり大きき取り上げられた事はいかなる時代にも曾つてなかつた事である。勿論この問題は單に壯丁や正にこれから壯丁にならんとする者だけの問題では無く、子供も壯者も老年者も皆な齊しく取り上げられなければならない。青年以後にあつては自らの自覺があるから鍊成も樂である。國民學校乃至は幼稚園に於てはそうは行かぬ。指導者の意志一つによつて之を鍊成しなければならぬ。

指導精神。 そう云ふ意味で今日では單に病氣に罹らない様な子供の身體を作る云ふ丈では、指導精神としては少し不足な所がありはしないか。同じ筋肉の力を養ふにも背筋力や握力計の高い事ばかりを目指すべきでは無い。艱苦に耐へ得る體力、これこそ指導精神として大切な事では無からうか。艱苦に耐へ得る體力は肉體の強力な力が無ければ駄目である。同時になに藁三頑張る鋼鐵の様な堅い精神力が必要である。肉體と精神が相まつて築き上げる艱苦

に對する忍耐力、これを目的としてこそ健康保育は本來の意味をもつもの云へるのではあるまいか。所が悲しい哉幼稚園児にはこんな指導精神等のみ込める者は一人も無いのである。すべては保母が誘導してゆかなければならないのである。その意味で園児の健康保育の成功する否は一に保母自身の精神力にかゝつてゐる。即ち保母が充分に指導精神をのみ込んで、根氣よく園児を積極的に導いてゆく事だけが唯一の健康保育なのである。

指導方法。 それでは保母はさう云ふ方法によつて實際的な効果を擧げる事が出来るであらうか。健康保育であるから醫者の指導に依るのが最も安全な方法であらうとは誰しも一應は考へられる所であるが事實は必ずしもそうでない。餘りに醫學的知識ばかりに頼り過ぎて足元を忘れる様では困る。たゞ一寸の隙も無い様な用意周到さで建てられた専門醫の計畫であらうとも、それが運行上保母の重荷になる様では困る。結局どんな彈丸でも通らぬ様な立派な

鐵兜を冠つたが扱て重くて歩けない云ふのでは困る。御馳走を澤山戴いても消化しなかつたら駄目なのであるから結局簡単な醫學的知識で保母自身が消化しきれる程度のもので充分に健康保育の目的は達すべきであり又達し得ると思ふ。單に一時の物珍らしさから、單に報告のための醫學的統計を取らんが爲めの健康保育なら初めから行はない方がよい。

扱て然らば指導方法の目安をさう云ふ所に置くべきであらうか。

第一。自然に親しめ。その第一として私は自然に親しめよ云ひたい。幼稚園の多くが今日では鞆繩を持ち、遊動圓木を持ち、ジャンゲルヂムを持ち、砂場を持つ。然し乍らこれが幼稚園の體裁であつてはならない。要は施設よりも工夫にありはしないか。お天氣のいゝ日にわざ／＼室の中でお唱歌の稽古をする様な事はせず、天氣がよかつたら子供は成るべく戸外で暮させたい。國民學校と違つて餘り混み入つた日課は無いのであるから必ずしも屋内でやらなければならぬ課業ばかりとも考へられない。暑さ寒さに應じて日光を適當に取り入れる。埃りの少ない外氣を餘計吸はせてやる云ふ事は勞せずして子供を丈夫にする。課業等七曜表で決めなくともお天氣で決める様な譯にはゆかないものかきつく／＼思ふ。出来るだけ自然を利用して健康

指導をする云ふ意味で最少し遠足を奨励したい。春と秋ばかりが遠足の期間を考へるに無理が出来る。暑からうが寒からうが遠足はやつてゆき度い。こうして絶えず足を鍛へておく。いざ避難云ふ時でも子供が／＼獨りで歩いて呉れたら保母さんもお母さんもぎれ丈け助かるか解らない。足の鍛鍊から初めて段々手の筋肉や背中の筋肉云ふ風に遊戯から鍛鍊へ色々運動を工夫する。多少疲れが来る迄はぐん／＼續ける。疲れたら休む。又初める云ふ風に順を追つて段々運動の量も種類も増加してゆく。

鍛鍊云ふ事は一步先を願ふ云ふ事なのであるから努力なしには出来ない。切角努力の途中心ない親の甘やかしの爲めに逆もどりさせられる事は呉々も警戒すべきであらう。

第二に榮養の問題がある。この問題はさの子にも當てはまるには限らないが、時を決めて量も充分に、質も充分に、即ち色々な種類のものを必要量食べる。これだけで充分である。従つてこゝでは偏食が最も問題になる。偏食のある子は家庭と連絡を取つて極力矯正しなければならぬ。

第三に疾病豫防云ふ事がある。これはさうしても醫師の手を煩はさなければならぬ。よく現在行はれてゐる様な年一回の體格検査等凡そナンセンスである。發育の旺盛な、しかも色々な傳染病に犯され易い幼兒を年一回診てそ

れですつかり判る様な醫師は先づ居ない。それで満足する様な幼稚園當局であつては心細い。いやしくも囑託醫を置くなら毎日診察して貰ふ様にする。それが無い場合でも年四回位は是非とも必要だ。傳染病の豫防法を講ずるにしてもこれ位の回数がないと完全には行かない。これからの幼稚園は施設を誇りとする様では駄目で、いかによく家庭と連絡を取り、如何に屢々醫師の檢診をうけてゐるかの二つこそ眞價を決めるささへ考へる。

園児何人中今月の出席日數何日、無缺席者何人、病氣で休んだ者何人、家庭の都合で休んだもの何人云ふ様な事が家庭通信の第一主要記事でなければならぬ。若し通信簿のある幼稚園なら先づそう云ふことや、子供の發育やらを先づ一面で大きく取り上げる事、手工がさう、お唱歌がさう云ふ事はその次であつてよく無いか。そしてその月最も出席日が多く元氣であつたものには次の一ヶ月間一人には限らぬがきれいな健康章をつけさせる。來月は又改めて檢査の上優秀なものにつけさせる。そうするに子供もつけたいから努力して出席する。つけた者も取られたく無いから更に頑張る云つた工合にお互ひに努力する様にならう。要は家庭の御都合缺席を防止したい爲めであつて、切角保姆が骨折つて鑢へてくれても突然休まれては又元の黙阿彌になつてしまふ。兎に角防げる病氣は出来るだけ防ぎ

健康空路は直接航路であつて欲しい。病氣をされるさよくつても足踏み、悪ければ逆もさりするのであるからこの項目は輕視出来ない譯である。

次に第四の問題は健康教育である。先づ自分達の周圍から、お家から幼稚園迄必ず歩いて行く事、雨が降つても歩く事、汗をかいたら薄着にする事、度々手を洗ふ習慣をつける事、お晝寢は靜かにする事、お便所に行つたらよく手を洗ふ事等々書いてゐたらきりが無いが兎に角身體の清潔云ふ事を實踐させる様に導くのがこの項目の主眼であらう。

注意すべき事。

以上は健康保育指導の大綱の二三を述べたにすぎないがこれだけの項目でも注意すべき事が二つ三つある。

同じ様に健康保育を行ふにも集團とは云ひ乍ら多少の間外れを認めなければならぬ。先づ弱い子と強い子の事であるが生れつき虚弱な者は同じ量の鍛錬に耐えない。多少の特別扱ひを認むべきである。獨り子や甘やかし子も多少の例外となる。然しこれは性質上例外すべきではない。却つてこう云ふものこそ鍛錬すべきである。その事に關係して自分は何時も保姆の無力さを痛嘆する。甘やかし子が明かに團體生活の統制を破つても黙認せねばならぬ様な立場にある保姆がいかに多い事か。酒囊は締める時には締めてこそいゝ葡萄酒が搾れる。子供にも或る時は鞭が要

る。その鞭を保姆に與へるのは誰か。母親であつて欲しい
ご自分は思ふ。

最後に保姆自身の保健知識の涵養である。既に保姆とし
て身を立てゝゐる以上子供に對する愛のないものは無い筈
である。問題は愛の上に建てられた科擧である。豫々子供
ご云ふものゝ發育榮養ご云ふ様な事に關しては注意して或
程度の知識を貯へる様に心懸くべきであらう。

結論

幼稚園の健康指導ご云ふ事は結局母ご保姆ご園児が三位
一體ごならなければ出来ない事である。そう云ふ意味で母
の會を適當に誘導してゆく事は是非ごも保姆の先づ心掛く
べき事ごなる。先づ保姆が實行する前に母の會にその氣運
を醸成させその風向きを利用して得手に帆を擧げれば十二
分の効果を期待出来るご思ふ。子供にはごの程度の運動量
が鍛鍊ごなるのか、これは未だ文部省からの指示もないの
であるから自ら工夫して漸次その量を増大すべきであら
う。

要するに幼稚園に於ても先づ何を置いても健康ご云ふ事
を主眼ごしてすべての計畫が打ち立てられなければ健康保
育の目的は達せられない。遠足の時、遊戯の時だけが鍊成
の時間であるご考へては間違ひであつて、いやしくも幼稚
園におけるあらゆる行動は健康保育に立脚したものであつ
て欲しい。

文部省 推薦幼兒圖書

タラウサン

〔黒崎義介 著
渡邊哲夫 文〕

富士屋書店(日本橋區馬喰町四ノ九)廿錢

この繪本は、幼兒の健全な生活、明朗な生活を表出した
もので、潑刺とした健康さが滿ち溢れてゐる。四、五歳の
幼兒向きに適切

ゴクラウサン

〔新井五郎 著
萩原博文 文〕

春陽堂(日本橋區兩國四四)十五錢

この繪本は、幼兒の生活の中から、大人への御手傳ひの
場面を取上げたもので、幼い子供達に勤勞生活の大事なこ
とを暗示してゐるところに意義がある。五、六歳から入學
前位の幼兒に適す

發行日遅延のお詫び

時局の波は出版界にもひし／＼と押し寄せて居り、それ
がいろ／＼の形になつて現はれて来て居ります。殊に人手
の不足はなか／＼補ひ難く、遂ひ一日發行の豫定が十日前
後になり、その爲に御叱責の御言葉やら御問合せやらをい
たゞいて恐縮いたして居ります。印刷屋の方でも出来るだ
け補充に努めると申して居りますから、何卒事情御汲み下
さいまして今暫く御容赦下さいませう御願ひ申上げま
す。
(編輯係り)

幼稚園の遊具

東京女子高等師範學校教授

佐々木等

幼兒の生命は何を考へて居りますか、日々園内に生活を捧げて居られる幼稚園の保姆諸君は何んだ話らないことを今時此様に泡を噴いて居る閑な奴も居るものだとお言ひになる方もあるでありませうが、筆者はそんな輕薄な了簡でペンを執つて居るのではありません。事生命に關する限り眞劍なのであります。生命に關して眞劍にならない者は生きざし生けるものではないのであります。もしそれ眞劍になれないとすれば其の人は死んで居るのも同然なのであります。生命に係はる問題に對しては萬人等しく強い興奮を感じるのが常であります。

兵隊さんに慰安の爲文化映畫として淨瑠璃や、浪曲節や、へなくした舞踊や、落語など名人集でも見せた時、皇軍の佛印進駐の勇壯なる光景や、ぶんく喰る荒鷲隊の活躍する光景を見せた時の感情はさうであらうか、前者に對しては大して興奮を感じないのに反して後者に對しては熱狂する程になるのであります。之れは實際的の證明であ

つて、紙上の空想ではないのであります。その熱狂に對する感情の學問的分析は暫らく措いて、こうした事實は何によつて決定されたかといふに兵隊さん達の生命に強い印象を與へるからであります。

それは生命に關したことに對して眞劍なものであるといふ説明の引例であります。幼兒の生命として何を考へてお出になるかを私は尋問したのであります。

しかし、今直ぐ誰も答へて呉れないからぢれつたくなる。さて幼兒の生命は？といふことについて私は『遊』であること極めて明確に斷言するのであります。誰が何と言はうが、私は幼兒の生命は『遊』であること答へるのであります。

此の遊が幼兒の生命であることすれば『幼兒の生命は？』といふ問題は一應解決したわけでありませんが、此の幼兒の遊といふものは決して單純なものではないのであります。遊びの學說なきを引張り出したりますこと夏の日は長いといひますが全く日も尙ほ足りないことなりますからそんなこ

こには塵ほぎも觸れないで、目の前に現はれて居る彼等の遊びはどんな意味を持つて居るのか、又どんな欲求から行はれて居るのかを私の獨斷的な觀點から申述べて見たいと思ふ。

私の獨斷でありますから全部が全部確かなものと思はないで寧ろ疑問を持つて讀んで頂きたいと思ひます。殊に私は既に幼児を扱つて居りませんし、現に家庭に幼児を持つて居りませんから、是迄に目に映じたこと、或はこうあるべきであることふ様なことについて述べることにしたいと思ひます。

只、私は幼児に對して興味を持つて居ること、國家が人口問題を云爲する時に、生めよ殖やせよ、母子を保護せよといつて居る矢先でありますこと、が丁度私の考へて居ること、一致して居りますので、案外樂な氣持でペンを執つて居るのであります。しかし、問題は極めて重大な問題なのであります。

幼児の遊具 幼児の遊具としてどんなものがあるかといふことについては私よりも寧ろ保姆諸君の方が遙かに明るのでありますから、詳しく申述べる必要がないのでありませうが念佛の積りで讀んで貰ひたいと思ひます。

幼児の遊具は春・夏・秋・冬季節の變化によつて使用されるものが違つて來るのが普通であります。尤も、一年中利

用される遊具もありますが概して變化があるものであります。

先づ幼児の最も關心を持つ遊具はどんなものかといふに『二臺』箱の附いた『鞆』登極』などでありませう。

二臺 身體的效果、此の二臺の遊びは全身的の運動であつて、臺に登る爲めには兩手を使つて體を支へながら登つて行かなければならない。階段に登る爲めに一段宛踏みしめて足を上の方へ運ぶのでありますから、これは脚部の發育をはかることなるのであります。ところが、此の脚を上にあげる運動といふのも同時に腹の運動なるのであります。腹筋を強くすることなるのであります。幼児の消化器は大人に比べものにならないほゞ小さなものでありませうがしかし、形は小さくとも數は一人前の内臟諸器官を腹部に臟して居るのでありますから、その臓器をして完全に發育せしめる爲めにはさうしても腹部の運動が必要になつて來るのであります。

こうした腹部の運動によつて内臟諸器官の發育を促進するやうに彼等は有意的に行つて居るのではありません。彼等は發育しなければならぬ自然的の欲求から殆んど衝動的に行つて居るのであります。しかし、彼等を誘導する先達者である保姆諸君はこの事を十分理解して居なければならぬのではないかと思ふのであります。

さてその二臺の運動は兩臂を使つて臺に登つて行く際に、
 どんな體育的效果があるかといふに、臂を使ふといふことは
 彼等の身體を安全に保つといふ爲めなるものであつて、
 所謂生命の保護なのであります。考へて見ますると、
 身體の安全といふことは體育上最も大切な事であつて、
 體育的に考へて身體を毀損するといふほゞ下手なことはな
 いのであります。故に安全に身體を保つことの如何に大切
 なるかといふことは彼等は無自覺的に知つて居るのであり
 ます。

その兩臂を交る々々使つて體を上引上げて行く際に身
 體の舉上力即ち懸垂力が養はれるばかりでなく、脚を上
 あげる時に腹部の體育的效果を期待し得られると同様に、
 此の臂を使用する時は上體即ち胸部の發育を促進するこ
 となるのであります。

胸部の發育といふことは一體どんなことをいふのであり
 ませう。それは胸廓を擴大することとなるばかりでなく、
 胸廓内にある諸臓器の正常なる發達を促進することとなる
 ものであります。又、呼吸などに於ける胸廓の可動性を大
 にするといふことは瓦斯交換を容易ならしむるものとして
 大切なことなのであります。

胸廓は吾々の生命の根源的な活動體の寶庫なのでありま
 すから此の部の發育が良好なることはその生命の伸展を意

味することになるのであります。

そうした意味に於て此の不知不識の間に彼等が行つて居
 る二臺の運動といふものが如何にその個體に取つて意義深
 い運動であるかゞわかるのであります。

又二臺といふことは全身の平衡運動でありますから身體
 的に故障のあるものには出来ないものもあるのでありま
 す。以上は二臺運動の身體的方面的效果について述べたの
 であります。精神的効果については又、諸君の觀察に確
 かな記録が出来て居ることと思ふのであります。これにつ
 いて私の考へを述べて見たいと思ふ。

彼等は未だ嘗て經驗したことはないものに對して直面す
 る時、そのものに對して無難作にやつてのける場合も、い
 やに慎重に立向ふ場合もあることに氣付くであります。
 う。この二臺の好きなものも始めて見た時はどんな様子
 するものであるかといふことについて觀察して見ますと、
 彼等は先づ不安そうな氣持で眺めて居るに違ひないの
 であります。

そこで仲間の誰か經驗者が易々登つて易々二つて行
 く様子を見ては己れもやつて見たいといふ感じを持つに違
 ひない。そして試みることは一段二段三段段々に登つ
 て行く、その時の態度は眞剣そのものであつて、臆病なも
 のは冷汗を流しながら登りつめる。登りつめて先づ々々ほ

つみしたさいふ感じを表現するのを見られるでせう。

幼児はそれでも段を登るこゝは割合にらかな運動らしいのであるが、経験のないさいふこころから不安を持つものらしいのであります。一度臺上に登つて仕舞へば今度は迂るこゝの恐ろしさがこみ上げて来る、容易に迂らうとするものではない。

はたから激勵され、誘導されて漸やく體の重心を低くして迂り始める。それが誠に恐はしい態度であるこゝがわかるのであります。それが完全に迂り下りて、然かも生命に對して安全であるさいふこゝがわかるこゝ、ホツツするらしいのであります。

しかし大抵の子供は、始めて迂臺を滑り下りた時にこんな様子をするかさいふに、必ず自分の迂つて来た方に向つてぢつとそれを見入るのに氣付くであります。

それが二三回試みる間は未だ十分安心しない様子であります、漸次馴れて来るに全く自信力がついて、今度は平氣で登つては迂り登つては迂りする様になるのであります。こうなつて来るに全くらかな氣持でやれる様な自信を持つやうになるのであります。

一體幼児さいふものは、高いこゝろに登るこゝを好むものであります。それは何故であるかさいふに私の考へでは幼児は大人なごゝ比較するに視野が狭いのであります。視

野の狭いさいふこゝは生命伸展の上に不十分な點があるのであります。出来るだけ視野を廣くしたいに念願するものが彼等の本能なのであります。従つて高いこゝろに登りたがるものであるに思ふのであります。又彼等は高いこゝろに登るこゝは上體の發育を必要とする自然的欲求とも見られるのであります。之れはほんの私の獨斷であります。

かやうに彼等は迂臺によつて全生命の伸展をはかつて居るのであるさいふこゝを考へるに、この遊を簡單に片付けられないさいふこゝがわかるのであります。

その迂臺は一體大きな大きさのものがよいだらうかさいふこゝになるのであります、幼児に對しては高さが一米五十糎乃至二米位で、迂る長さは二米から三米位が適當ではないかと思ふ。此の設備ばかりではありませんが新らしい中はよいにしても段々古くなるに破損箇所が出て来るものでありますから、特に手に刺をさしたりするやうなこゝのない様に時折検査するこゝが必要であります。

こうした迂臺を幼児の數二十人に對して一臺位の割につくられたらよいと思ひます。經濟的に多勢一時に迂らせやうにして廣い迂臺をつくつて居るこゝろもあります、あれは子供には感心したものではありません。幼児には一人宛迂る様に設備せらるべきであります。

以上迂臺についての概略を述べました。(八・六)

保姆養成に關する意見の調査

恩賜財團愛育會愛育研究所

保育といふことの役割が、國民教育上、人口政策上いよいよ重きを加へて來ましたことは、吾々直接保育の仕事に參與してゐるものとして、非常に喜ばしいことであると同時に、大きな責任を感じるものであります。

愛育研究所では、茲に保姆養成制度の問題を研究題目として取上げ、各方面の調査研究を致して居りますが、こゝに御報告するものは昨年各講習會に参加された方々に御依頼して、うかがつた意見の結果の概要であります。保姆養成に關して將來の參考となると共に現在保育に當つて居られる方々の御參考にもなることと思ひ、こゝに掲載させていただきます。御回答を寄せられた保姆諸師には厚く御禮申し上げます。

なほ、この種の調査として、同様の趣旨の下に、保育關係の諸家、保育に關心ある學識経験者等に御依頼した分は、本年九月の「社會事業」誌上に發表いたしました。又當研究所と社會事業研究所との共同による保育施設調査中の「保姆」の分は目下吾研究所にて整理中であります。

本調査は、昭和十五年の夏、東京で開催せられた文部省、帝都教育會、佛教保育協會、保育問題研究會等の講習會及び大阪で開催せられた全日本保育聯盟の講習會等に集られた方々に御願ひしたものであります。回答数は残念ながら甚だ少く、一二〇に過ぎませんでした。その内分けは地方別には、府六一、縣五三、外地二、不明四、勤務先別には幼稚園九八、保育所一八、不明四、經驗年數別では三年以上八九、二年以下二七、不明四、資格別では有一〇三、無一七、學歷別では専門學校三五、女學校七五、高等小學二その他六、不明二となつてゐます。

以下その結果の概要を記します。

一、保育上教養の不足と思はれる方面

保育に當つてゐる自己の教養、技能につき自ら反省し、その不足と思はれる方面を大別するに第一表のやうになります。一般的教養に保健方面及び科學的知識の不足が特に目立つてゐますが、一般的教養の内には、現在の社會狀勢や經濟問題のこゝが多數を占めてゐました。

第一表

	地方別				勤務先別			経験年數別			保母の格		學歷			計	%	
	府	縣	外地	不明	幼	保	不明	三年以上	二年以下	不明	有	無	專門	女學	其他			不明
修養	9	3	1		11	1	1	9	1	3	12	1	6	7			13	9.6
一般的教養	13	8		1	18	4		15	7		20	2	9	11	1	1	22	16.8
保健	20	5	2		20	6	1	18	7	2	26	1	12	13	2		27	20.0
兒童心理	7	7	1		12	3		11	3	1	14	1	6	8	1		15	11.1
母性指導	1	1			1	1		1	1		1	1	1	1			2	1.5
生活訓練	3	2			5			3	2		5			5			5	3.7
科學(觀察)	12	16			22	4	2	25	3		26	2	16	11	1		28	20.7
音樂(唱歌)	8	1	1		10			6	4		10		2	7	1		10	7.4
談話	3	3			6			3	3		6			6			6	4.4
圖畫	2	1			3			3			3			2	1		3	2.2
遊戯		2			1	1		2			2			1	1		2	1.5
手技		2			1	1		3	3		1	1		2			2	1.5

第二表

		得意	不得意
音樂	音樂	13 3.7	10 2.9
	唱歌	17 4.9	6 1.7
	樂器	6 1.7	15 4.3
	小計	36 10.3	31 8.9
談話		34 9.8	16 4.6
遊戯		33 9.5	9 2.6
圖畫		10 2.9	28 8.0
手技		22 6.3	9 2.6
觀察		3 0.9	8 2.3
紙芝居		4 1.1	2 0.6
恩物		1 0.3	1 0.3
子供の取扱		9 2.6	6 1.7
問題兒の取扱		2 0.6	1 0.3
大體のものは		2 0.6	3 0.9
無し		15 4.3	4 1.1
無記		16 4.6	12 3.4

ゴヂツクハ百分率ヲ示ス

二、保育の技術について

そこで、さらに技術的にはどんな方面が得意で、どんな方面が不得意か云ふに、第二表の如くで、比較的得意なものとしては唱歌、談話、遊戯、手技等があげられ、不得意のものとしては樂器、圖畫、觀察等があげられてゐます。又得意不得意として反省されたものゝ合計を假りに關心の強さを見れば音樂、談話、遊戯、圖畫、手技等が關心度が高いと云へるかも知れません。

三、保母養成所で習つたことについて

第一問と第二問に關係して、遡つて保母養成所で習つたことの中で、どんなことが役立ち、どんなことは餘り役に立っていないかといふことを、勤務先別に見ますと第三

第三表

	幼稚園		保育所	
	役立つ	役立たぬ	役立つ	役立たぬ
修身	3	4		
宗教			2	
教育・教育史	2	9		1
保育學	17	1	3	
児童心理	15		3	
生理衛生		5		
育兒		1		
兩親教育	2			
遺傳學		1		
博物學	2	2		1
人文		2		
保育實習	8	1		
音樂・唱歌・器樂	21		5	
リズムツク	1	1		
談話	11			
手技・手工	14	17	2	3
圖畫	5	4		
觀察藝	2	2		
園藝	2	1		
恩物	3	3	1	
特殊研究	4		1	
總て役立つ	7			
特になし	5	18	2	4

表のやうになります。(無記入一八)

これだけの結果では、結論としては何も云へませんが、無條件に役立つものは、保育學、同實習、児童心理、音樂、談話、特殊研究等で、役立つとするもの、役立つたぬとするものが相半ばしてゐるのは、修身、博物、手技手工、圖畫、觀察、恩物等があり、役に立たぬとするもの、方が多いのは教育、教育史、生理衛生等になりますが、教育、教育史、生理衛生をはじめ博物、手技手工、圖畫、觀察等、それら重要なものに役立つたぬさいふの多いのは、教授内容又は方法の不整備の故か、受講者の心構の確立せぬ故か大いに検討する必要があると思はれます。

四、保姆養成所で教へてもらひたいこと

それでは保姆養成所では一體さんなこを教へてもらひたいかさいふこを見ませう。具體的な要求を挙げた方がよいかと思ひますので、少々煩瑣になりますが列舉します。

保育の眞の理論(幼一)保育の社會的意義(保二)經營及び管理法(幼四)諸届及び簿記(幼二)保育法の實際の指導(幼六、保一)

實際經驗談(幼二)調査統計法(幼一)

保健衛生(幼二〇、保七)生理(幼三、保二)看護法及び應急手當(幼六、保一)榮養學、榮養食(幼二一、保二)身體異常に對する處置(幼二)兒童心理(幼二、保七)智能検査法(幼三)子供の發達(幼三)性格學(幼二、保一)子供の觀察法(幼一、保二)科學的知識(幼八)子供の生活訓練の實際(幼二)集團をリードする法(幼三)音樂をより委しく(幼六、保二)樂典を委しく(幼二)リズムについて(幼三)伴奏法(幼四、保二)器樂は特に充分に(幼八、保二)季節に應じたる子供らしき歌(幼二)聲樂を委しく(幼二、保二)簡易なる作曲(保一)絶對音感教育(幼二)保育項目に關する勉強(幼三)手技の保育に於ける役割(保一)遊戯

(幼四、保三)ゲーム、團體遊戲(幼二)自由遊びの指導(幼二)觀察の實際(幼七)園藝飼育の實際(幼三)談話法、發音(幼六、保一)童話創作(幼二)良い童話を多く筆記させて欲しい(幼二)紙芝居について總體的に(幼二)繪が簡單に書けるやうに(幼三、保一)幼児畫の指導法(幼三)子供の繪の見方(幼二)手技(幼二)

時局講座(幼二)婦人問題(保一)女子としての教養(幼三)倫理學(幼二)社會學(幼二)經濟學(幼二)文學(幼五)教育史(保一)人類發達史(幼二)音樂史(幼二)音樂鑑賞(幼二)美術工藝(幼三)幼兒の衣服(幼一、保一)

總て理論より實際を重んずること(幼九、保二)人格完成に力を注ぐこと(幼七)教育的信念を確かりさせる(幼二)優れた藝術的、科學的宗教的環境におくこと(幼二)子供の教材のみでなく藝術的なものを身につける(保一)就職後も自由に研究科に入れるやう(幼二)見學を多くすること(幼二)

以上個々の回答数は少ないけれども色々示唆に富んでゐると思ひます。

五、保育實習について

保育實習についても色々御意見がありました、非常に雑多になりますので、期間について丈纏めて見ます、連續的のこいふのが三一、一週數回連續的が二、隔日が二、

隔週が二で、一日について見れば午前中が二三、一日中が一六三なつてゐます。

六、保姆養成の期間

さて、以上のやうな教育をするためにどの位の期間が必要かといふことになりましたが、回答を寄せられた方々が受けた養成は、一年間が七〇名、二年間が一七名、三年間が二名、六ヶ月が一名で、それらの方々が希望する養成期間は、第四表の通りです。

第四表

希望年限	幼稚園	保育所
3年	10	2
2年又は3年	4	
2年	68	9
1年	7	
その他	1	2
無記	8	5

(不明4)

七、保姆として教養を高めるために

不足と思はれる教養を補ひ、さらに之を向上する爲めに、どんな方法がさられてゐるかといふことを見ます。

修養、信仰(幼一九、保

二)讀書(幼五二、保五)講演、講習(幼三一、保二)研究會(幼一八、保五)參觀見學(幼一六)先輩よりの教示(幼八)反省、記録(幼五、保二)子供の家庭、又は他人に接す(幼七)時事問題に注意(幼八)音樂、映畫等鑑賞(幼五)その他保育に關する勉強(幼三、保四)等三になつてゐます。

なほ夏期講習をはじめ各種の講習會にこの位出席されるかといふことを見ましたが、経験年數別にして、二年未滿の人は平均二・七回(以下平均回數にて)二年乃至四年の人は四回、四年乃至六年の人は四・七回、六年乃至八年の人は八・一回、八年乃至一〇年の人は六・一回、一〇乃至一五年の人は八・三回、一五年乃至二〇年の人は八・三回二〇年以上の人は一七回といふ數字が出ました。何しろ全數が少ないので確かなことは云へませんし、又回答を寄せられた方は熱心な方こそ考へることも出来ませんが、これで見ると、講習會の出席といふことは可なり多く、再教育方法或は内容の整備といふことは大いに考へねばならぬことと思はれます。それについて、講習會についての意見や希望をうかがひましたが、大體の傾向は、より深いもの、基礎的理論的なものといふものゝ量より質、新鮮なもの、研究發表、教育的信念をかき立てるもの等、質的向上の要求が多いやうですが、反對に實際に則し、具體的にいふやうなものも可なりあり、親睦的にいふやうな要求も強いやうです。なほ回答者がそれぞれ所屬してゐる研究團體は五七種あり、それらに参加してゐる人員は八九名になつてゐますから、平均して研究會への參加率は七四パーセントになります。

雜誌及圖書についての質問及び、自由意見はここでは省

略します。(三木安正、小溝キツ)

日本幼稚園協會 保育講習會の中止

今夏に於ける本協會主催の保育講習會は、都合に依り中止致しました。

昭和十六年八月

日本幼稚園協會

秋の家庭蔬菜園

東京女子高等師範學校教諭

大 岩 金

暑い筈の土用もすつと雨勝で涼しく、やつと晴れ上つたと思つたのも亦つかの間で、又鬱陶しい天候になつてしまつた。今年の夏は青物わけても葉菜類、果菜類の出来が悪く、可成不自由であつた。こんな時にはいつもながら作り易い蔬菜を家庭園に作つておきたいものゝ痛切に感じる。その一つはツルナである。

一、ツルナ

ツルナは極めて作り易く、このやうに不順な天候の際でも晴間々にはいつでも收穫が出来てゐる。そして六月頃から收穫し續けてゐるものは株の元の方に既に種子が相等多數についてゐるので、根元から數節残して刈り取り、残りの株間^{すげ}に下肥を入れておけば初冬の頃まで引續き收穫が出来る。

二、菠薐草

1、播種期

前號に於て九月始めまでに整地をしておくやうに述べ

たが、この九月十月は丁度播種時であるからなるべく早く地拵への出来次第播く事にしやう。ミ云ふのは九月一杯位に播いたものは、年内に收穫が出来て、霜除の準備がいらぬが、十月も半ば過ぎになつたものは、收穫時が翌年になり、降霜の程度によつては霜除をしなければならぬやうになる。

2、土質

菠薐草は連作を嫌ふので、昨年この地に栽培した場合に、今年^{シユンギク}は休作し、苧蒿^{シユンギク}に代へた方がよい。

菠薐草は又酸性土壤を非常に忌むので瓜哇薯の收穫後消石灰を撒く事は極めて大切であるが、之の出来ない時には、藁灰か、木炭を必ず施用しなければならない。

3、種子

日本種の在來種は刺があり、寒さに對する抵抗力が強いので秋蒔に適する。

4、播種量

坪當四勺もあれば澤山である。

5、播種法

三尺幅の平畦を作り、是に二條播くやうにする。

播く前に一日水に浸しておくが發芽が早い。尚菠薐草には覆土を餘り厚くしない方がよく、播方も粗めにした方がよい。

6、追肥、害虫驅除

發芽後本葉が四、五枚出た頃、尚一、二回、二、三週おきに下肥を施す程度でよい。

害虫としては發芽當時から根際に根切蟲、金龜蟲の幼蟲がつき株毎食切つてしまふから、植つたまゝで萎れた株が見付かつたならば、是を抜き取り、その周りを淺く掘つて見れば大抵の場合その邊にゐるから、捕殺するこよい。

三、苧蒿シロヤブ

菠薐草同様の栽培法でよいが、是は連作しても差支へない。

播種量は前者よりも小粒であるので坪當三勺程で充分である。

四、トマトの後始末

九月も末になるこトマトの着色はずつと悪くなるから後作のため片付ける事にする。

青いものは糠味噌に漬けても食す事が出来る。

莖葉は抜き取つて健全なものは堆積して堆肥とし、病株

は焼却する。

次に雜草を片付ける程度にざつと後地を耕起する。

その表面に消石灰を坪當り百五十匁位の割合に滿面に撒布しておく。

その後機を見てかねて用意しておいた堆肥(塵埃土でも結構である)をすき込みながら精耕してゆく。

是にコカブ、小松菜等を播種する場合には、地拵への出来次第播種すればよく、豌豆、蠶豆ソラマメなどの豆類を播く場合には、十月に入るのを待つてからの方がよい。

豆類は連作を嫌ふここの甚だしいもので、一度作つた土地は五年位は休まねばならない。

基肥としては堆肥の外に灰を入れる事が必要である。米糠も手に入れば用ひたいものである。

五、豌豆

豌豆は莢毎食べられる莢豌豆、實のみ食べられる實豌豆があり、又蔓になるものと、蔓なしの矮性種がある。

友柱にする材料のない時には矮性種が便利である。

空地利用の協同蔬菜園の各戸の境に、かなり色々な材料を用ひてある。中には相當目障りになる感じのするのさへある。こんな時に思はされるのは、折角の協同家庭園で、隣同志お互に親睦の計れる菜園であるから、もつさなごやかに、和らぎのある蔬菜か、觀賞用の花卉にしたい。

れには豌豆などは適當なものである。木の枝や、棒切を立
て、圍してあるものには、蔓性の豌豆を絡ませ、繩張り程
度のものには矮性種を選ぶべきよい。

株間は一尺五寸おきにして、一ヶ所に三、四粒宛播くの
である。

六、蠶豆

すべて豌豆に準じてよいが、是は蔓にならないので、支
柱は要らない。

七、一般の害蟲驅除

度重なるやうであるが、色々の葉菜類や、根菜類を播種
した昨今又害蟲が澤山出て来る。苗が小さく、蟲の發育の
進まぬうちに、早く退治しやう。少なくとも朝夕一回宛は見
廻つてほしい。

土中の害蟲驅除は蒔蓀草の場合と同様にする。

莖葉を害する害蟲に對して注意する點は、

1、葉の裏についてゐる卵(夜盜蟲、紋白蝶が多い)をこ
るこら。

2、葉裏に出たばかりの毛子のやうな夜盜蟲の幼蟲をつ
ぶしこるこら。(靜かにしないさすぐ糸をたれて地に落ち
る)

又孵化當時は葉裏に集つたまゝであるが、やがて方々に
散る。

3、カブラバチの幼蟲で大根、白菜等の葉に黒い蟲がつ
いて、一寸觸れるとさすぐ地上に落ちるのがある。是は泥を
粘つて棒先につけ、是を蟲にそつとくつつけると比較的容
易にされる。

4、心食蟲は菜類の新しい中央の芽の中に食ひ込んでゐ
る蟲で一丈見え難く、捕殺もし難いが、細い割竹の棒のや
うなものを差込んでつぶすべきよい。

5、その外野蟲のつく事もある。なんといつても一番惱
まされるのは害蟲である。藥劑不足の折柄でもあるから、
あまり大面積でない限り、家族の方々の細かな注意のもし
に、早いうち捕殺によつて確實に驅除したのがよいと思
ふ。

◎講習號の中の、理數科(田代順之氏御擔任)は十一
月號より掲載致します。

◎講習號は一冊でも缺けますと、講讀者にまつては
誠に無意味になりますので、例年九月號の追加申
込を見越し、多少餘計印刷してございませう。御入
用の方は代金を添へ本會宛、御申込み下さい。

編輯係り

て就に育教樂音の兒幼

—らか場立の姆保—

部樂音會究研會りごみ

みどり會研究会音樂部

では幼児の音樂教育の重要性に鑑み、昨秋十一月から、弘田龍太郎先生にお願ひして部員の質問疑問に答へて頂くと同時に、幼児の歌の作曲に就いて數回に亘つてお講話を、又リズム遊びの實際を練習致しました。四月からは和聲樂に入りました。が之は紙上だけでは會得し難い點が多いので、此處には主として三月迄の、幼児の歌の作曲と幼児の音樂觀賞に就て研究を略記致し御報告に代へます。

第一回

幼児の音樂教育の目的

は？

それは「情操教育」で

ある。

A、文部省小學校細目(來春實施さる國民學校に於て)

鑑賞 音感(強弱等)リズム

B、幼稚園：基礎的訓練 之は近來非常に重要視されてきた、音樂を幼児の實生活に結びつける、音樂教育の一部、何を叩くか聞いてみさせるこいふ耳の訓練が必要である。

C、小學校と幼稚園との情操教育の相違 年齢が多くなる程豊富になつてゆく、幼稚園時代は未だく範圍が狭い。故に幼児の情操教育にはのびくこしたものを中心にこりいれ度い。時には落ちついたもの、又明るい朗らかなもの等もよい。

曲の選び方は？

1、レコード童謡

曲内容の良否よりも聞いて好ましい感じを受ける曲を選ぶのが普通である。世の多くの母親達は幼児のためにレコードを選ぶ時、そのレコードが如何に教育的であるか等を考へない。

子供のためにこいふのでなく、母なり姉なりが、レコード屋の店頭で、始めの三十秒位きいて、その曲の明るさ朗らかさを決定して求めてしまふ、下品だの上品だのこかまつていないのである。つまり内容が如何に

空つぼでも調子が良く、擬音が多くて面白ければよいとしてゐるので、作曲家もそのつもりで曲を作るのである。故に伴奏に用ひる楽器にはジャズのみに用ひる楽器を使用してゐるのが多い。最近は大分改つて來たがこのところをよく考へねばならぬ。レコード童謡に流行歌は紙一重程の相違である。レコード童謡にジャズ楽器を用ひる事は無論控へるべきである。單にレコードに飛びつくは危険である。

2、歌はせる童謡

作曲家が子供になつて作曲したものが良い。

子供の教育に於ける教育的明るさ。のびのびした氣持は是非必要だ、幼児の生活自體にあるものでなければならぬ。

幼児の歌の導き方は？

指導法は「子供自身が歌ひ出す様に」

幼児の鑑賞教育は？

小學校で大體徹底するのは小學校五年以上六年から高等科一、二年であつて、低學年には少し無理ではないか。まして幼児には徹底した理解は望みにくい、しかし之を行ふ必要はある。出来るだけ解り易い曲、そして出来るだけ解る様に指導する。

第二回

「問答」理論家(弘田先生)實際家(研究員)

弘田 子供が實際習つたものは別として、器樂をきかせる事を喜ぶだらうか

研 始めの二、三分は聞くが、そばにあるものに氣が散つてしまふ

弘田 それは無理のない事だ、放送で效果の上らないのも無理はない、餘り多くを望んではならないわけだ、現在やつてゐる歌(子供の知つてゐる歌)を聞かせる場合はどうか？

研 レコードの音が消えてしまふ程大きな聲で強く歌ふ弘田 さうでせう、それは決して鑑賞してゐるのではない、幼児に徹底的な鑑賞は無理である、尤も鑑賞の對象として一番氣を引かれるものは、部屋を出入する時に用ひるマーチ踊りに付けた曲に興味をひかれるのではないだらうか

研 持ちます

弘田 さうでせう、之が鑑賞です。故に踊りの伴奏を出鱈目に弾いてはいけない、伴奏が鑑賞に一番よいのぢやないか、それが一番忘れられない曲となる、レコードをきかせる事より、毎日のマーチなり踊りの時のピアノである、故に毎日同じマーチを弾くのは鑑賞上餘り良いとは云へない

その一方法としての音楽童話

童話の中にうちこんで勿論音楽を主としてきかせる、
「川に行つたらね白い帆を張つたお舟がゆらゆら流れて
來ましたよ」云ひながらスケーターワルツをきかせ波の
ゼスチュアをして「綺麗でせう、よくききませうね」いふ、
併し之には決して込み入つた筋があつてはならない、
その曲を豫めよく擷んでおいて説明しながら曲そのものに
耳を傾けさせる。

總論として前にも述べたが何度も何度も反復してきかせる
事がくれぐれも大切

第三回

幼児のリズム

- 1、リズム遊びは、僅かな時間でする事、精々五分位
 - 2、同じ物を反復してすること、一月か二ヶ月か三ヶ月も良い
 - 3、少しづつ直していつて最後に気分を出す。
 - 4、始めのうちは先生が指導し先にたつてさせるが次第に子供が主體となるやうにする
- リズムは、簡單に云へば音の時間的相互關係を云ふ。
音楽にリズムはつきものだが一定のリズムが表はれてゐる
るの曲にもあるものである。
リズムは一小節を越えなくてはならない、幼稚園に於け

るリズムは二小節が基本となる位の程度を可とする
こゝで實際に叩いてみる。

切分音 (Synecopation) 同じ音が弱から強へ延ばされること

アクセントが一つ前に移る
するアクセントが前に移る

幼稚園では切分音は小節にまたがつてはいけない

第四回

幼児の歌の作曲

幼児の歌の作曲は専門家の作曲ではない、幼児を知らない者は幼児を客觀的にみるから、作曲家より大人がなれば子供が喜ぶだらうと思つて作曲しても餘りピンミ來

ない場合が多い、だから理想を云へば幼児をよく知つてゐる保姆さん達が幼児の歌を作曲すればそれに越した事はないのである。幼児に歌はせる時何もやかましい伴奏などはなくてもよいのであり、單音で結構。作曲するこいふは大變な様だがメロディを作ればよいのである。

メロディの研究

聲を出して歌ふのだから歌ふこいふ點に重きをおく、樂器に依らないで出来るなら聲で作曲する。出來た後でピアノを弾いて見て音を探り樂譜に現はす。

拍子は $\frac{3}{4}$ $\frac{4}{4}$ に限る。

調子はハ調 ト調 ニ調 ヘ調

(イ調 變口調) ↓ 特別の場合のみ

曲の終りは重複線



小節を區切る時は重線

調號(調子記號)



高音部記號

大譜表



低音部記號

半音 下レミフソラシド

音階 } 長音階 } 幼稚園では必要にしない
短音階

移動下の歌ひ方

下レミフソラ...で歌ふにハ長調ニト長調では下の位

置が變る

固定下の歌ひ方

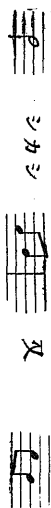
ハ長調をドレミファ…ミ歌ひ、ト長調ではソラシド…ミ歌ふミドが固定してゐる。

國民學校ではイロハで歌ふ事になつてゐる(音名唱法)

第五回

符の書き方

第三線上の音符の符尾は多く下方に著け時には前後の様子によつて上方につける



音階の基礎になる音を主音ミ云ひ(主音は二ヶ所出る)

主音より四度上の音を下屬音ミいひ

主音より五度上の音を屬音ミいひ

主音より七度上の音を導音ミいひ

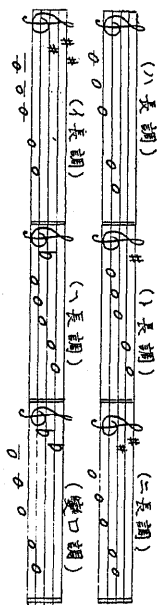
主音に次ぐ重要な音は屬音、次に下屬音導音は主音に進行する性質が強い、従て階段的に主音から下行する場合導音は最早その特性を失ひ、つゞいて階段的に下行する。



五聲音階

以上に記した音階は七個の異なつた音階から成つてゐる

た。しかるに此の七個の音のうち下屬音ミ導音ミを除いたものを五聲音階ミいふ。
五聲音階は ドレミ△ソラ△下

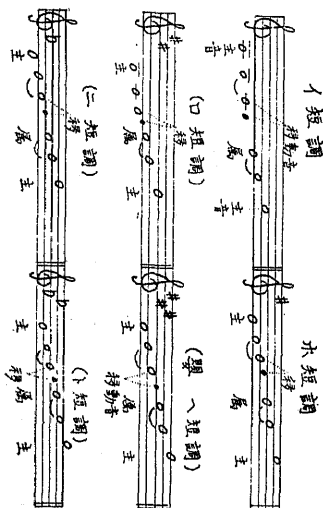


夕空晴れて 一ツフアだけ

ホタルの光 五聲音階だけ

日本人は五聲音階が好きである。幼稚園向だが、餘りこれ許りにするミ單純すぎる。

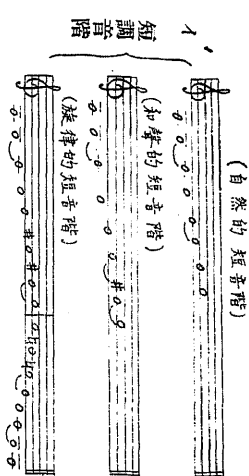
特別ミして幼稚園程度小學校低學年に於ては短音階に



よる五聲音が用ひられる。

第六回

五聲音階でない短音階は次の通りである。



然しながら幼稚園及び低學年に於ては特別として前記の五聲音階を用ひる。

移動音はその何れかの一音を用ひ得る事が出来るので、此の二個の音が並んで表れることはしない。

例へば ラシドミファ

しかし ラシレミファやラシドレミは並べない

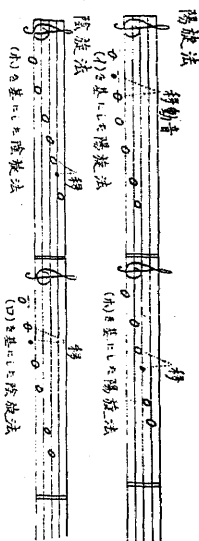
實例として 荒城の月

陽旋法、陰旋法

之は在來の日本音樂の音階で何れにも五聲音階である。之も特別として用ひられる。

幼稚園では 五聲音階の長音階

在來の日本音樂は 三味線 琴 民謡 此の音階に



ついでには尙異説があつて決定されたものではない。

陽旋法 在來の童謡 ホ、ホ、ホタルコイ

陰旋法 六段 東京音頭など ミで終る此の音階は既

におげた種々な調號のものに用ひられる。

第七回

作曲上注意すべきこと

1、音域 一番低い音から高い音、(但音樂上の音域は樂に歌へる範圍)幼兒に不自然の發聲をしないで出来る音、尋一の音域(文部省で決定したもの) 二年頃やつミハ

出ない事はないが異様な聲が出る が出る。出して

幼稚 さいはれてゐたが之ではろくな曲

園で が出るない故に(ニ)から(ニ)迄が

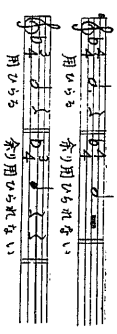
良い(ハ)の下第一線は例外にしたら無難

2 曲中には一切#(シャープ)♭(フラット)を用ひない

3 發想記號を用ひない、強弱をつけない、つまり不自



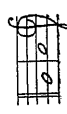
川邊音は用ひず
用ひず
最用る
用ひる



10 歌詞の内容を音によつて明瞭に表現する

- 1、歌詞をよく読み
- 2、調子を選ぶ
- 3、拍子を選
- 4、アクセントによる

11 高い(ハ)又は(ニ)の音
で餘り長くのばしてゐたり又之等の高い音が並んでいたりすることをさける方がよい



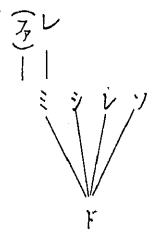
第八回
言葉のアクセント

外國語のアクセントは強弱であるが日本語のは高低關係である。言葉のアクセントに従つて音を配さねばならない。歌詞が數節よりなる場合作曲のアクセントは第一節によるのが普通、しかし三節の歌詞より成る場合には同じ箇所にあるものでアクセントの衝突を來す時は必ずしも第一節の歌詞にのみによらず同一のアクセントを有する歌詞の多い方に従ふ事がある。しかし幼稚園に於ける

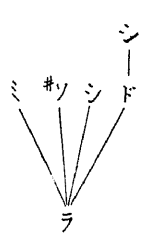
唱歌では歌詞三節以上にわたるものは少ない、歌詞二節三節さいふのが普通。同じ箇所第一節と第二節の歌詞のアクセントが衝突した場合はすでにのべた様に第一節に従ふのもよく、或ひは同じ高さにするのも良い。

曲首の音
長調ではドミ又はソ、弱起の場合にはソに始まる事が多く、其の他ドミなきがある。短調ではラ又はミ弱起の時
はミ又はラ等、
曲尾の音

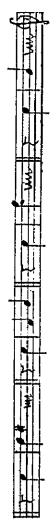
長調



短調



m は前に何のの音符をつける



主音に終止する。終止は樂語であつて單に主音に終るのではなくて、この曲の完結を示す事を意味する。

第九回

作曲の形式

(一)四小節を基礎とする。此の四小節は又二個の二小節に分れてゐるが、それは密接に結合せられて四小節をもつて一個のまままつた小さい音樂的思想を表現して良し。



稀であるが此の四小節の代りに二小節が用ひられる事がある、之を短縮された四小節といふ。



最も短い唱歌は四小節を二個のみ合はせる事である。此の場合は第一の四小節で或一種の思想を起し、第二の四小節でそれをうけてむすぶので、ここにまぢまつた形式をなす。

例 繪本唱歌(テフ〜)

作曲宿題 落ちてくる

南部ゆき緒

一、堅い鋪石 初春の春

枯れ葉ひらひら 落ちてくる

二、ひさめふためこ 羽根をつく

よつてくる〜 落ちてくる

三、にぶい光の お空から

初雪ちら〜 落ちてくる

四、ああ、高いビルの上

凧が舞ひ〜 落ちてくる

お留守番

一、しん〜みぞれの 深い夜

バチツト炭が はねました

二、こんな静かな 寒いよる

戦地の兄さん さうして

三、ひさり留守居の みぞれよる

グリムのお話 よみました

四、窓を明ければ 冷いよる

梅がほう〜香ひます

(二)十二小節
第一形式 4 a 4 b 4 a

第十回

リズム遊びの實際

歌謡

鶴見勝彦

a の四小節で思想を起し b で變化し a' でははじめの a を思ひ出しつゝ終止する。
従つて A ミ A' ミは全く同じ旋律である事もある。變化は前後の A の對稱なるもので曲想が高まつても又低まつてもそれは變化ミなる。

- 一、ぶらんこく　　そーら押せ
青い空を　　つきぬけて
あの雲までも　　つかめそだ
二、ぶらんこく　　そら下つた
庭に黄菊が　　きれいだな
ボチがはねはね　　嬉しさうだ
三、ぶらんこく　　又上つた
戦地の兄さん　　元氣かな
お屋根に日の丸　　たつてゐる
四、ぶらんこく　　又下つた
ああ　母さんだ　母さんだ
窓から僕を　呼んでゐる
（第一形式）

- 三十六 小節
一 第一形式 4 a 4 a' 4 b 4 a'

a ミ a' で第一部分 b ミ a' で第二部分従つて之を第二部形式といふ。a ミ a' は八小節の作曲通りに作られる。b は變化、a' は a' を思ひ出して全曲を曲にする。ミ a' a' は全く同じであり得る。
誕生日では a' で主音に終止してゐるが、天皇陛下では主音に終止してゐない、此の點が異なるが同一の形式で變化の B では決して主音に變化してはならぬ

い。終止せずに最後のa'を呼び出さねばならない。

二 第二形式

a' b a
十二小節の曲(主音に終止)

c 附加(主音に終止)

三 第三形式

a 附加

b' c b
十二小節の曲

四 第四形式

a' a
八小節の曲

b 八小節の曲

b' a
變化せず(内容、節よく似てる)

五 第五形式

b a
八小節の曲

b' a'
八小節の曲

a'はaと同じか又は類似のもの
何れの形式を用ふべきかは歌詞によつて選ぶ

蛙 加野美好

一、やんだよやんだ 雨やんだ

小川の流れも 増してきた

ピョンピョン蛙が のんきさうに

ブツカリブカリミ 流れてる

二、浮いては沈み 又もぐり

お目をきよろきよろ あつあそこ

私のおうちだ さあ歸ろ

ピョン ピョン蛙の 川流れ

一年生

酒井信子

一、櫻の花の咲く頃は

僕も私も一年生

お手手つないで行きませうね

ほんきにほんきに待遠しい

二、もうく揃つたお道具は

お靴もランドも新しい

帽子のきしようが 光つてる

ほんきにほんきに 嬉しいな

三、僕が學校に行く頃は

支那でもお花が咲くかしら

遠い戦地の父様に

ほんきにほんきに見せたいな

此の外に二小節毎に切つてあるのがある。

例 荒城の月

繪本唱歌の曲を區別して見るミ

1 テフテフ(4 a 4 a) 4分の2拍子

- 2 タンボボ $\left\{ \begin{array}{l} \text{ト長調} \\ 4a \end{array} \right.$ 4分の二拍子、
4b 4a' || 第一形式
- 3 ママゴト $\left\{ \begin{array}{l} \text{イ短調} \\ 4a \end{array} \right.$ 4分の2拍子
4b 4a' || 第一形式
- 4 コヒノボリ $\left\{ \begin{array}{l} \text{ハ長調} \\ 4a \end{array} \right.$ 4分ノ3拍子
4a' 4b 4a'' ミアは似てる
- 5 アカチャン $\left\{ \begin{array}{l} \text{ヘ長調} \\ 4a \end{array} \right.$ 4分の二拍子
- 6 マリナゲ $\left\{ \begin{array}{l} \text{ヘ長調} \\ 4a \end{array} \right.$ 4分の二拍子
- 7 オニゴッコ $\left\{ \begin{array}{l} \text{ト長調} \\ 4a \end{array} \right.$ 4分の二拍子
4a' 4b 4a'' || 十二小節の第三形式
- 8 自動車 $\left\{ \begin{array}{l} \text{ヘ長調} \\ 4a \end{array} \right.$ 四分の二拍子
4a' 4b 4a'' (主音に終止) 4b
- 尚今迄の形式では、三小節或は二小節さなり或は反對に擴張されて五小節又は六小節さなる。
- 黒いもの 白いもの 赤いもの 橋本せい

- 一、黒黒黒いもの おつむの毛
黒くて黒くて サラサラ
- 二、白白白いもの お口の齒
白くて白くて ビーカピカ
- 三、赤赤赤いもの ホッペです

- 赤くて 赤くて ツーヤツヤ
ねづみのかくれんぼ 辻 敬子
- 一、ちゆうくくねずみのかくれんぼ
皆で揃つてジャンケンボン
- 二、ちゆうちゆうねずみのかくれんぼ
子猫のねてる間にモーイイカイ
- 三、ちゆうくくねずみのかくれんぼ
子猫の知らぬ間に もういーよ
- 四、ちゆうくくねずみのかくれんぼ
子猫の探す間に ミーツケタ
- おねんねしてゐた チューリップ
みんなお夢を見てるでせう
ボカくぬくいお日様が
ニコく笑つて見てゐます
お目目さましたチューリップ
「お日様お早う」云ひました
青いおつむのチューリップ
もうじき お花が咲くでせう
- ……終止形(一)
……(一)(二)
(以上)
- 酒井信子

影 繪

— 誘導保育の主題 —

東京市麴町區東郷幼稚園

K

S

うちの前の空地も鳥になつた。胡瓜、なす、いんげん、さうもろこしやひまわりが所せましと葉をしげらせて、増産の誇りを朝夕の風と共に吹き送る。

白い夏雲を背景に立ち竝ぶさうもろこしは、懸賞寫眞の選外佳作あたりによく出て来る風景を思はせ、いんげんのつるは、可笑しい程に高く立てた支えの竹の上までのびて、ジャックミ豆の木の話を思はせる。

この鳥の傍を、ゆうべ通つたら、スイーチョ〜と蟲が鳴いてゐた。星座のあの正しさ。あゝもう秋ですねえ、私は誰かに話しかけたくなりながらしばらく會はない子供等のことを思ひ出す。もう直ぐ二學期が始まる。みんな元氣でくるだらうか。色々したいこと、しなければならぬことを考へるに、心がじ〜んと引き締つてくる。そう〜、誘導保育は「お月見」をさつそく始めることにしなければ、ならぬと思ふ。

ゆる〜月を賞でながら、歌をつくる時ではなくなつたし、幼稚園も決して現實の日本の生活に掛け離れた天國ではない。いよ〜の場合相當な試験にも耐えられる強さを子供達に與へて置く必要もあるけれど、一方又「お月見」の主題で子供達に與へる保育も失ふことは出来ない。

ところで、私は未だに誘導保育云ふものに本當の自信を持つてゐない、疑問もある。これが誘導保育でございませうと申し上げる代りに、私の心覺えのノートの一部をそつとおめにかけます云ふ程度で許して頂かう。前置きばかり長つたらしいのも本論の貧しさを少しばかり胡麻かせると思つたからでもある。

お月見は舊曆八月の十五夜と同じく九月の十三夜と二度することになつてゐて、東北地方などでは、どちらを一度缺くのも片月見と稱して、いけないもの、縁起の悪いもの、ましてあつたが、幼稚園などでは一度で済ましてゐて別に

縁起は悪くないものゝ決めてゐる。今年は十月の五日が中秋明月に當るから二期が始まつてゆつくり用意が出来る云ふわけ。まつ何から這入つて行かうかしら。

はなしあひ 九月六日頃。

「お月様はいつも丸いかしら」

「日本の國ばかりではなしにこの國でもごんなごころでも、あのお月様は見えるのね、遠い支那で働いてゐらつしやる兵隊さんもやつぱりあのお月様を見てゐらつしやる。」

そう云ふご子供達は云ふだらう。

「まあな」だ。

「三ヶ月様もあるね」だ。

「日本が夜の時はアメリカはひるだからお月様見えないんだよ」なんて、あの子が云ふかも知れない。

「今夜は、きつごまん丸のお月様が出ますからよく見ませう。忘れないで」私私云ふ。翌日、お月様を見たかどうか聞く、きつごままるかつたご子供等は云ふだらう、見なかつた子も見た様な氣になつて云ふかも知れない。

「では、まんまるくお月様を書いて見ませう、」お月様の色もぬつて帳面に貼ることにする。仲々上手な丸は一度では出来にくいから古い印刷した紙でも白い裏のものを利用して幾度でも丸をかき直し切り直しさせて見様。さうして

も丸く畫けない子には丸いものを探し出させて型をまらせてもいゝ。糊のびんや蓋、のり入れのお皿など探し出すだらうから。「さあ、このお月様が毎晩毎晩小さくなつて、見えなくなつてしまふ。そして又この様になつたらお月見をしませう。お野菜をこしらへたり、お園子をこしらへたり色々お仕事があるのね。AちゃんやBちゃんは粘土で丸くするのでも上手だつたし、Bちゃんはお野菜のぬりゑがうまかつたし、新聞粘土で、又お野菜をこしらへて色を塗りませうか」云へば子供等は仕事への希望に充ちた喜びを現すに違ひない。

そして、私は、時々忘れない様に氣をつけて(お月様のこさばかり考へてゐられない先生はうつかりするご幾日も忘れて過してしまふごころがあるかもしれないから)毎夜のお月様のあり様を、なるべく子供等がそれごなしにでも観察出来る様に助力する。そうしながら、その間に色々お月様に關しての題材を保育の中でやつて行く。

壁の一面に、空色に塗つた紙をなるべく大きく貼る(ポスターか何かの裏を使つて)新月から満月にだんく大きく形をかへて月を貼つて行く。その下に秋草を簡単に貼るゑで共同製作をし様。實物を觀察させながらしたい。子供等の帳面(前)にお月様を貼つたごころ)にも秋草の塗りゑでもさせ様。年長組だつたら、帳面に月を貼る時一枚前に白

い紙をまつて置いて、それに窓を切り込み次頁に貼つた月を戸を明けてのぞける様になさす。窓の下に秋草を、次頁の月の下に兎を印刷してぬりゑさせざるなり畫かせるなりする。

新聞粘土のお野菜、これはごちらでもなさる通り、適當なる根氣ミたんねんさの必要。

幼稚園の鳥の大根やお芋やおまめを十五夜の日にかざられたらごんなによいだらう。私の處では、お芋やおまめは困しいから、せめて二十日大根でも育てたのを上げることにして。おだんご、後で利用するこまが少いもの故粘土でこしらへて白く塗る。かざる時は、十五づゝの單位にしていくつにも分けて置く。「十五夜だから十五上げる」云へば皆のこしらへたのを山に積むよりも何か數的にはつきりしたものを與へる様な氣がする、これは單なる私のひきりよがりに過ぎないが。

かげゑ なご

いつが螢の頃かげゑをした。映畫をする様に暗くした部屋に入形芝居の舞臺をしつらへ螢さりのミころをして見た。實物の螢がピカリ／＼舞臺の上で光る。切り紙の子供が笹や箒を持つて出る。ホーホー螢こいの歌を歌つては螢籠を動かす。子供らの會話少し、それだけだけれど仲々に印象的な劇的雰圍氣をかもし出した。子供らはさて置き

こちらがいき氣になつたりしたのだつたが、その時ビートコ／＼豆の木よミ云ふのもかげゑでやつた。かげゑはよい。ひるま、まつくらな部屋に子供を閉じ込めるこまは映畫の時と同じく私は嫌なのだけれど、かげゑはたくさんのイマジネーションの世界を、持つてゐてよい。これで、十五夜の晩をやつて見る。人形芝居の舞臺に白い模造紙を貼る。光源はなるべくまぎめて繪型のまうしろからさす様に、月は懐中電燈を近くからあてればはつきりするし、遠くからあてるミ大きな月の影がうつる。この丸い月のかげを大きくうつし出してその中で黒い紙の繪型を動せばなか／＼に興は深く嬉しい。これにきれいなレコードをかけやう。兎の手に杵を持たせて動かす造作はよく手技でやる通りにしお分りにならない方は及川先生にお聞きになること。

お月様を小さくして、下に子供の影をうつしお月様の歌をうたはせ様、きつミ子供達は聲を合せてお月様のうたを歌ふだらう。

何かミてもよいお月様のうたを、きなたか知つてゐらつしやいませんの？、

兵隊さんを此處に出して、自然に、いや味なく、そして眞實に、戦ひの野に月を見る勇士の片鱗を幼いものに與へる工夫は無いだらうか。

お月様と兎の物語り、

月の井戸の話

お月様の籠のお話、あれも年少組の子供はさては喜んで聞く。

アンデルセンの月の物語りはこの子供等には一寸奥へにくい。我國の神話にお月様に關するものがあるだらうか。

月明の夜の重慶爆撃行も私は忘れられないが。

與ふるお話も数多いがこれらの「おはなし」から子供らは又何か見出すだらう。月ばかりではなしに星座のあの美しさ正しさも知つて行くだらう。兎がゐると思つてゐる子供もあるかも知れないが、月と兎との關連なき科學的に解釋したら大した意味も無いのだらうけれど、幼稚園の庭の兎への關心やしたしみがふえるのだつたらよいこと。」さあ皆さんで兎になつて、お月様が出たらよろこんでおざりませう「子供達は兎の耳を一生懸命こしらへる。畫用紙や古葉書やらで兎の耳を畫いて切つて、頭の回りに合せて紙にしっかりと貼りつけて頭にかぶる。ピアノに合せてさんだりはねたり、競争したり。力いっぱいさせたい。

月と云ふ主題はさかく文學的方面への發展は豊富にありながら生活的な生産的な面への動きかけが少いのは物足りない。月に關した童話にしろ歌にしろ、それでよいのかしら。

只書き並べた。間口をひろく、發展して行く誘導保育の過程これが一番大切なのに——を書き記す事もしないのは相濟まないしお恥しいのだがこれらを適當に保育日程の中にあみ込んで進める中に又思ひがけないよい問題をひろつたり、よい發展がなされたりするだらうとあてこんでゐる。ものへの關心、したしみから、ものを見きはめ様とする科學の心も生れ、ものゝ美しくさ、よき、にぎけ込む藝術への心も育つて行くことであらうから。

あの男の子達が大きくなつた時に、月を塹壕の中から見る様なことはもう無いだらう。

子供等が大人になり、世の中の爲に力をつくすよい生活をする時に、幼い頃のある時、幼稚園の生活の一頁に於て、月のことについて語り、歌ひ、製作した興味や努力や關心が何かの糧になつたならば、いや、なるに違ひない、ミ私 は思ひつゝ心覺えのノートを閉じよう。

昭和十六—八月

躰・母の指導・について（回答）

〔到着順〕

今夏の保育講習會の折、左の二つの事柄につき多くの方々の御回答を得て、本誌へ掲載させて頂くつもりで居りましたが、中止の事になりましたので、休暇中のことゝ躊躇いたしました。各園におたづね致しました。然るにお休み中ではあり、お暑い折柄でもありますのに、かくも熱のある御回答を頂きまして、感謝の心でいつばいでございます。誌上をかりまして厚く御禮申し上げます。尙ほこれと同時に本誌の編輯方針に對しましての御教示一々有り難く拜見いたしました。これまた厚く御禮を申し上げます。（編輯係り）

（1）御園ではいろいろの躰をなさつておいて、ございませうが、その中で最も大切と思はれるものを五つ順を追つて御列記下さい。

（2）母の指導を如何にしておいてになりますかお知らせ下さい。

東京 富士見幼稚園

山村 さよ

（1）一、子供ながらの氣持に於て皇國民的精神、態度の出

來るやう躰けて居ります。

二、保健的、衛生的方面の躰

三、團體的訓練

四、依頼心をさりのぞくことこの躰（人手をかりず

に、すべて自分の生活は自分で處理出来るやうに）

五、すなほな氣持で命令に服従出来るやうに

（2）一、一學期毎に（イ）保護者會、（ロ）保育參觀、（ハ）懇

談會の開催をして居ります。

二、時々國民學校と共同で學報を稱するニュースの様

なものを發行して居ります。

東京 十文字幼稚園

留岡 よし子

（1）1、正しく、2、強く、3、明るく、4、清く、5、直く、

（2）毎月一回來園を乞ひ保育の實際について懇談、記入カ

ード、プリント等に依る關心の誘發、

講演會、見學、講習、座談會の開催、

東京 双葉幼稚園

新井 ツヤ

(1) 一、皇室、國旗に對する禮を重んぶる事

二、目上の人たごひ女中たりごも尊敬する事

三、自分の事は出来るだけ自分で

四、お辨當はきれいに必ず残さないやうに頂く事

五、物を大事にする事、おねだりをしない事

(2) 當園では色々の都合により母の會と云ふやうなもの
がございませんが、必要の場合刷物にして御注意をうな
がして居ります。

S T 生

(1) 一、ものを拜み得る心に年少時から躰けて行く事

一、ものゝ見方即あわてざる様に

(2) 一、母の會及び個人を招き適當の指導

一、家庭訪問

一、講習會等

東京 城南幼稚園

沼館 正尾

(1) 一、日本の國の子供であることの喜びを誇りを持たせ

たいり

二、日常生活に眞剣味と忍耐力を養ふこと

三、工夫、創造の力を養ふこと

四、喜んで團體生活の出来る子供に

五、實生活に必要な子供の禮儀

(2) 母の會といふ様なものは御座いませんで特別に母の
指導としては致してをりませんが其心組で次の様なこ
とを致して居ります

一、學校で時局の講演、家事衛生音楽等について専門
家のお話し又は映畫等のある場合は父兄を案内しま
す。

一、「幼児の母」を各家庭へ一部宛配布してをります

一、時々母親の參考になることを印刷して各家庭に配
布します。

戸畑市隣光舎

古澤 多實

(1) 一、言葉づかひ

(一) 目上の人に對して
(二) 方言をなるべくなほし標準
語へ馴れさせる

二、後片附をきちんとする事(お仕事及お遊び後)

三、朝の挨拶と共に含嗽を忘れない事(登園してより)

四、返事は「ハイ」きげんきよく

五、お部屋の中は靜かによく歩くこと

(2) 母の會を設け月一回例會を開く事になつて居ります。

會の前週に幹事會を開きます。會は要求により講師を招いたり或は研究會をしたり致して居りますが、子供を引きはなしての説教は喜ばれませんし従つて出席率も少ないので子供と共に成長して延びて行く云ふ事に主眼を置き、共にお話をきいたり、歌つたりしませて楽しい中にも教へられる云ふ様に行事の中に入れる事もございます。それはお節句さか或はお誕生日お祝ひ等ご一諸になる事もありません。

その外幸ひにも當園は専任看護婦に恵まれて居りますので一週の中火曜金曜は病氣の園児宅へ訪問致し看護法或は豫防等健康に注意します。一方偏食も極力直す様にして居ります。保姆は木曜日が訪問日になつて居りまして、問題の兒或は注意していたゞきたい事等家庭で打ち合せる日になつて居り、分擔して雨風の日も訪問し常に家庭との連絡を取り、直接家庭教育の任にあたる母親と協力し共に勵んで居ります。

大連市譚家屯幼稚園

小山田 節

(1) 一、國家精神を三ツ兒の魂に入れるべく皇國の道に歸一し奉るべき精神的躰けをなす。

二、共同生活の精神を培ひ五族共和の實を掲げん爲に

祖國を離れたる地に生ひ立ち幼兒としての躰けを爲す
三、眞剣な子供としての性格指導に躰けの重點を置く
四、子供は子供としての禮儀作法を日本國民として精神を主として形を取り入れる

五、物を粗末にしない習慣をつける(愛護の精神を根本として)

(2) 一、保育滿了幼兒の母姊、在園幼兒の母姊を中心として母會を組織、母の指導・修養・研究・園との聯絡機關とせり

二、毎月一回會合日を定めて集る、講演・講習・懇談・保育參觀日・清遊會・七五三・三五の節句等行事的に開催

三、雜誌書籍の回覽・指導

四、『園のたより』を二週二回位づつ重要なる事項をプリントとして家庭に送り(幼兒に持たす)通信指導をせり

五、家庭訪問指導、多産のお母様方にて母の會に出席出來ざる場分には保姆の時間を得て親しく訪ねて懇談をなす

六、大切な事柄は大連日々新聞家庭欄に書いて頂く事になつて居ります、すつと實行して居りますが是は非常に効果的です

東京 黒門幼稚園

早 塚 文

(1) 一、一定の上着を着用し、右胸にマークをつけ左胸に記名したハンカチをつけさせます。

二、明期で快活な返事をするこゝ。呼ばれた時何か云はれた時素直にハツキリト元氣な返事をするこゝ。

三、自分の事で出来る事は自分でするこゝ。本棚・玩具棚は常に整頓するこゝ。砂場・遊戯室等遊んだ後の片付けは勿論、一旦保育室に入る時は整頓しておくこゝ。お歸りの三〇分前に箱積木その他の物を一定の場所にお片づけするこゝ。机から離れる時は必ず椅子を机の中に入れて立つこゝ。

四、食事仕度、後片付けは幼児がお當番で喜んでしますが、食事に對する感謝の念を深からしめる爲めにお父様・お母様おいしおべんごごうもありがたうございませうと云はせて居ります。

五、便所使用の作法

少ない便所を大勢で使用するのですから亂れがちになります、男兒は一定の場所ですくしく使用すること女兒は必ずノックしてから戸を開けること、使用中ノックされたら大きな聲で返事すること、もし間違つて使用中を開けた時は「ごめんなさい」と挨拶すること。使用後は必ず手を洗ふこと、水を大切にすること。

(2) 入園の際「幼兒の生活狀況調査」を云ふ印刷物を各家庭

に渡して、家庭に於ける生活状態を調査しておきます。四月中に順次數人づゝ母を呼んでこの調査票を主にして、幼兒の様子を知り、保姆の保育方針竝に幼稚園の糕をよく話して母の理解を深めておきます。尙毎日私が玄關に立つて朝の幼兒を迎へますが、その時送り迎へのお母さんご隨時必要な話しを致し家庭との連絡を計つて居ります。

夏休みには「幼兒の生活日記」及「ナツヤスミ」を題する塗繪帳を各家庭に與へて、日課を與へて居ります。お休みの數日前に母の會をなし、お休み中の心得及躰について、これ等の生活票の記入方法をよく話して、母の指導をいたしておきます。又その他折ある毎に必要に應じてお母様方と話し會ふ事にして居ります。

静岡市立静岡幼稚園

金原伸子

(1) 一、皇室尊崇、敬神崇祖の念を養ふ

二、體位の向上を計り健全なる心身の發達につとめる
三、禮儀を正しくさせる(子供としての禮儀作法・朝晩其の他の挨拶或は正しき言葉遣ひ等)

四、團體生活の心を養ふ

五、自然觀察の習慣を養ふ

(2) 一、毎年新入園兒母の會を其の入園前に於て開催し園

の保育方針竝に保護者心得を知らしめ幼稚園竝に家庭との打ち合せをなす

二、第一學期

イ、家庭状況調査をなし指導の参考とする

ロ、各家庭に於ける 幼児の躰状況調査(幼稚園より各種問題を送り)をなし指導の計畫を立て雙方の連絡を計る

ハ、母の會總會開催

三、第二學期

イ、講演會或は講習會開催

ロ、組別母の會(幼稚園の實地保育状況參觀、座談會、個人別懇談會)

座談會には各自話題質問等を持寄する

一例、良習慣の養成、惡癖の矯正其の他躰の苦心談發表等相互研究をなす

四、第三學期

イ、講演會講習會或は見學等適宜に一回開催

ロ、組別座談會

五、其の他

イ、静岡市聯合母の會の出席、或は各方面適切なる

講演會講習會等出席獎勵幹旋

ロ、月別保育豫定躰要項を前以つて各家庭に配布、

努力點につき母親に理解をもたせ共に其の研究をさせる

ハ、保育参考印刷物配布(適當なるものある時)其の他母としての讀物「幼児の母」を始め有益なる參考圖書等の紹介竝に購讀方幹旋

六、母親指導に關し保母の教養の必要を痛切に感じ特に保母の修養研究に努力

大阪 汎愛幼稚園

藤 本 ツ キ

(1) 一、宮城遙拜ミ朝の挨拶

二、物事に感謝し粗末にせぬ

三、食事の作法(特に完全なる咀嚼)

四、正しき姿勢

五、便所の清潔

(2) 時局柄母の指導を受持つ幼稚園の任務は重大で御座います、左の方法

一、保護者會(凡月一回)組別・全體・個人別

二、榮養料理其の他の講習會(凡年八回)

三、幼稚園だより竝に校園機關紙を通じて(月一回)

四、園外保育又は年中行事の際保護者集合の機會を捕

へて

五、家庭調査表の記入をさせ毎月幼児健康調査表のゆ

きかひにより

我が國體 時局 公德 保健ニ衛生 保育の實際 國民學校ニ幼稚園 家庭ニ母 等の題目を目標にこれが實を收めて參つて居ります

臺北 錦幼稚園

竹下ヲル

- (1) 一、強くて良い子は元氣よく遊ぶ
二、強くて良い子は 泣かないで遊ぶ
三、強くて良い子は 友達ニ仲よく遊ぶ
四、強くて良い子は 大きな目をして居る
五、強くて良い子は 自分のことは自分でする

(2) 月に一回位左の如き母親の會合を行ふ記念日を選ぶ

- 一、母の會(懇談會) 二、母の會(參觀) 三、同上講演會
四、子供の會(唱歌遊戲會) 五、運動會 六、個別懇話
例へば七月の會合は七月七日、七夕祭並事變勃發記念日に母の會を催し夏期中の心得につき懇話をなし、兼ねて事變を追懐し、御聖恩の廣大を誠心から奉拜(宮城遙拜)忠勇なる將兵の武運長久を祈り護國の英靈に對し默

禱を捧ぐ。

東京 竹町幼稚園

鎌田しん

(1) 一、稚竹神社(皇大神宮、明治神宮、下谷神社の特別御神符奉齊)に毎朝參拜せしめ皇國に生を享けた喜びニ感謝の念を持たしむ

- 二、何でも好き嫌ひをしないでよくかんで食べること
三、自分の事は自分で出来るやうに
四、協調性のあるすなほに命令をきける子供に
五、子供らしい禮儀作法をわきまへるやうに
(2) 一、毎月一回保育科徴收日を母の參觀日と定め尙幼兒歸宅後お家で困つて居る事につき相談を受ける
二、毎學期一回保護者會を開き講師を囑して母への講話をなし尙座談會を開催する
三、入園個々の母親につき主任保母及擔任保母が幼兒生活調査表により面談の上指導をなす
四、特殊な子供は家庭訪問により又來園を求め相談する。

躡けの要項に就て

四〇

倉 橋 惣 三

編輯部からのお尋ねに對して、お忙しいところ、いろいろご御意見を送つて下さつた方々に深くお禮申し上げます。たゞ、この他、もつと澤山の方からの御回答を期待してゐましたのに……その點は残念です。將來さも、誌上研究會のおつもりで、研究しあひませう。

さて、御意見のいろいろを拜見して、一々御同感のこともみです。躡けの必要はいふまでもないとして、その範圍も極く廣いものですから、要項さなるさ、されさきめることが困難な譯です。また、極く實際さしては、幼兒の一人一人に就て、ねらひ處も異つて來ませう。

御回答の中に多くある「皇國民としての躡け」さいふことが、言葉は異つてゐましても（大切な主要項であることは、申すまでもありません。が、それは多少綜合的ないひひ方であり、謂はゞ、教育全體の目的であるのですから、その目的の爲に、さういふ點々の躡けが必要かさいふ分析が研究上必要なのでありますまいか。分析さいふよりは、その一つ一つの點こそが、躡けの實際の要點になりませう。躡けは、さこまでも實際のこさであり、子さももの生活々動に對してのこさですから。

それに就て、いろいろの研究の方法もありますが、先づ一番手近かな手が、りさして、國民學校の教科書のヨイコトモを精讀してみるこさも有益でせう。勿論、幼稚園さしてあのまゝさいふこさではない點もあるかも知れませんが、一應のねらひを、あすこに置いて見て考究するのも、一つの途ださ思はれます。

さこ所で、茲に一つ申上げて置きたいこさがあります。それは躡けの要項を普遍的に立てるこさゝ、個々の幼稚園で考へるこさゝの關係です。個々の幼稚園さいつても、勝手のこさの許されぬのは勿論です。又、普遍的價値のあるものでなければならぬこさも勿論です。しかし、その普遍の中で、それゝ幼稚園さしての氣の入れ方が各自のものであるさこ所に、躡けに生命のはいる所以でもありません。普遍はいつも普遍ですが、幼稚園には、それゝの現實の條件が、環境的にも、園の傾向さしても、子さもの家庭さしても、また、先生の組立てさしても、いろいろさ意を配らなければならぬこさ起るからです。だからこそ、さういふお尋ねを幼稚園でした譯でもあります。

赤とんぼのはなし

赤 岸 幸 輔

(一)

夕方ちかくなるに、海の方から、赤とんぼが澤山とんできました。新吉が、自轉車に乗つて、走つてゐるに、赤とんぼが、いくつも、いくつも新吉のからだに、衝突しよくつしました。坂にかゝつて、自轉車を押して、踏切ふみきりまで来るに、海が見えました。

赤とんぼは、あこから、あこから崖がけの下から、湧くやうにとんできました。軒のきの下で、夕陽に羽根を、キラ／＼光らせて、ふざけまわる蚊の群を、想ひ出しました。赤とんぼが、とんでくるやうすは、それに似てゐました。忙しさに、わき目もふらずに、町の方へとんでいく赤とんぼもあるし、道草をして、赤くなつた漆うるしの葉のまわりで、おつかげつこしてゐるものもあるし、くたびれて、線路や、枕木や、電線にこまつてゐる赤とんぼもりました。

この赤とんぼたちは、どこで生れて、どこから来たのだらう——海からかしら。

海は、夕焼けでした。

海を見下す崖すいさきの薄は、金色に光つて、とんでゐる赤とんぼの羽根まで光つてゐました。赤とんぼは、夕焼けの海から、とんで来たのだ。夕陽で眞赤になつた西の海の中から生れたのちがひない。だから赤とんぼのからだは、赤いのだ。新吉は感心したやうに、また、得意とくみさうに、ひそりで頷うなづきました。新吉の自轉車の把手はんでるにこまつた赤とんぼは、羽根を、しづかにさげて、首を、ヒョコリ／＼と曲げました。それは、夕陽に赤く照らされた新吉の顔を、見上げてゐるやうでありました。

(二)

五年の男子のきばせんがすんで、いよく、新吉たち二年生のつな引がはじまりました。おんがくに、歩いてを合せて行進してくる赤組の一番せんたうが新吉でした。新吉は、赤かつやうに——、白かつ

やうに——のおうえんのごゑで、ほうごしてしまひました。このさわがしいおうえんのごゑは、夏の海水よくじようのさわがしさに、にてゐるご思ひました。「全たいい、さまれ」先生のごう令で新吉は、白組の山下君を、福田君を向ひ合つてさまりました。むねが、ごきく／＼しました。空を見ました。青くて、高い空でした。赤さんぼが、のんきさうに飛んでゐました。「ようる——」みんなは、つなをしつかりにぎました。新吉は、山下君のほかが、まつ赤になつてゐるので、おかしくなりました。さあドンのピストルがなるぞご思つた時、新吉は、赤さんぼが、つなにさまらうごしてゐるのに氣がつきました。赤さんぼは、新吉の手から、三十糎ぐらゐ先のところまで、つなにさまらうか、ごうしようかご考へてゐるやうに、ちよつごつなに、さわつては、飛び上り、また、つなにさわつては横の方に、にげだしたりしてゐました。ドンのピストルがなりました。運動會は、このつな引がすんで、おひるです。赤かつやうに——白かつやうに——先生たちも、赤はたや、白はたをふつて、おうえんをしました。新吉はおへえす、おへえす、ごごゑをはり上げて、つなを引きました。赤組がおへえす、ごつなを引くご、白組は、少し引つばられ、白組がおへえす、ご引くご、赤組はずご、ご引つばられました。つなの真中に結んである赤いひもが、白組の方についてたかご思ふご、赤組の方にもごされました。だれもむちゆうでした。白組に引かれて、新吉のからだも、ぐご引かれました。負けるものか、新吉は、心の中でさげんで、「おへえす」ご引つばらうごした時、赤さんぼが、新吉がつなをにぎつてゐる手のすこしさきのごころにさまりました。赤組に赤さんぼ、赤組に赤さんぼ、新吉は、「おへえす」ごいふかはりに、赤さんぼへ、ひつくりかへつてしまひました。ピストルが、ドンごなつて、わあごいふさけびごゑが上りました。赤組が勝ちました。新吉は空を見上げました。つなにさまつた赤さんぼは、びつくりしてごごかへにげていつたやうでしたが、さつきごおなじやうに、赤さんぼたちは、いくつも／＼運動會をみてまゐりました。新吉は、赤さんぼのおかげで、赤組が勝つたのだご思ひました。

赤組は、ばんざーいをさけびました。

或る幼児の生活の一端について

附屬幼稚園 安村 ふゆ

Aの事

入園検定の時のメモには、遊びの際約束を守らず他の人を押しつける、おしやべり多し、さあるが此のAが入園當初のはかみを捨て、持ち前を發揮し出したのは入園後三日目であつた。即ち四月十四日の記録には、非常ないたづらぶり、特に注意觀察を要す、さある、その後、友達をぶつつねる、悪口をいふ等の事が印象に強かつたが、四月末には「唱歌の時——同じ場所にちづみしてゐない、南無妙法蓮華經！ きやあ！ さ叫びつゝ部屋中を駆けめぐり、他の幼児達は驚き呆れた顔つきでAの姿を目で追うてゐる。一同Aの爲になりをひそめ、すつかり氣をのまれた形である。一幼児怖い顔だねさ怖しさうに泣く。」さある。瘦せた細い偏食らしい感じの顔かたち、體つき、大きな目の爲に全體を異様に感じさせる顔、興奮の爲か、充血した様な感じの目——その少し容易でない雰圍氣を漂はせてゐるAが細い手をぶらん／＼左右に振り乍らさび廻る様は、私でさへ何か小悪魔さもいひ度い様な様子で、此の子をさうしよう

いふ前に全く呆氣にさられてしまつた、ましてさこも達が怖しいと思ふのもむりのない所であつた。「唱歌の後はりゑをする——全然鋏が使へず模造紙の切れはしをみつけてはりつけようさし、鋏を使つてみ様さいふ意志を示さない、偶々來合せた實習科生に切つてくれさ頼み歩く。」さある。此までも氣つき同日の記録にもあるが、朝送つて來た母親に對しては、「お母様歸つてもいゝのよ、あさでお迎へに來てね、さようなら」さ叮嚀にいひ、ふるまふ。母親が歸つてからの行動さ餘りに違ふので、家庭に於てはこんな様子かさゆかしいが二三日様子をみてからさ具體的に話さなかつた。其の次の遊戯の時には始めから加はらうさせず、遊戯室の中央に寝ころんだまゝで列に入る様に促ささ忽ちさひ起きてかけめぐるのであつた。例の奇妙な恰好である。外遊びの時は、切角友達が誘つても其の子をぶつたり、つねつたりするので大抵の子は敬遠してしまふ。幼稚園に入るまで友達さ遊んだ事がないさこの事で、その爲に特に興奮してゐるものさ思はれるが、凡てにわたつてかうした状態が

續いたので母親に様子を話す。母親は、家には佛壇がないが小さい時から神佛をやたらにをがむ癖があつて、神社、佛閣の前を通る時は、必ず其の眞ん前まで行つてをがまねば承知しない。あのお題目も小さい時から家で始終叫んでしようがない。併し人を罵るこゝばは幼稚園に来て始めて覺えたと思はれるさいふのである。その後毎朝大聲で叫ばないさいふ約束をくりかへし、二週間位で口にしなな様になつた。併しづつ、つねる悪口する等の事は一向に止まず、さうした事をしてゐる時の目つきは何もなく凄味があり、全く可哀想になる。家庭に於ては弟にもかうした意地悪をしないし、むしろ反對に可愛がるこの話に、暫く母親にもかげから様子をみてゐてもらふが、始終彼方此方かけまわつてゐるAなので、何時も母親の姿をみつめてしまひ目的を達しられなかつた。尙、四月の下旬から辨當がはじまつて、こゝも達の樂しみが一つ殖えたが、Aは一寸も喜ぶ様子を見せなかつた。他のこゝも達が食前の手洗ひ、含嗽がすんで、もう兵隊さんありがたうの御挨拶を待つてゐる許りなのに、まだ悠々庭靴を履きかへてゐる様な有様である。食事が始まつても彼方此方見まわしたり、喋つたりしてすぐには食べようこしないのである。それで、そのグループに配當した實習生Mに何時もAの傍にゐてもらひ、促してもらふのであつたが仲々容易には口に入らないのである。

辨當の御飯は大抵結んであつて、小さな、本當に、こゝも一口握りが七つか多くて九つで、副食物は卵か肉類に同量位の野菜一種が普通である。魚、野菜は餘り好まない。他の食物にしても非常に少量で、毎食食べさせるのに骨を折るこの母親の話であつた。間食も大して欲しがるのでもなく、一體に食慾不振の様子、これでよくあの元氣が出るものさ感心するが、叔こんな瘦せてゐてはさうしたものか三案じられた。その中實習生Mも困りぬいてゐる様子なので、私がAの傍につきつきで食べさせる工夫をする。全然放つておけば一時間半かゝつても二口は入らないだらうと思ふ程、彼方此方見廻したり喋つたりする。そこで黙つてよくかんで頂く事、御飯さお菜を代る／＼、食べる事を毎日々々、くりかへして話す。それから約四十日になるがこの數日前からやつこ御飯丈は全部頂く様になつた。でも一寸もおいしさうに頂かないので強ひて食べさせていゝものか、三疑問に思つてゐた所、今日不圖したはづみで食前に辨當を床にひつくりかへしてしまつた。今時分こゝもに食べさせてよい様なパンも附近には賣つてゐないし、家がごく近くなのだからすぐ歸つて食べた方が安心ぢやないかと思ひ、その事を話すこゝ、急に悲しさうに泣き出し、「僕お家にかへるの厭、さうしても幼稚園で食べるの」さいふ。丁度稻荷すしだつたので袋をさつて頂かせたが今日の食事のお

いしさうだつたこも、早かつたこも。稻荷すしにひかれたのか、こぼして却つて欲しくなつたのか、何れにしてもさうしても幼稚園で食べるさいふそのいひ方はこの子も亦お辨當を樂しんでゐる一人である事を示すものと思はれる。明日は果してさうであらうか、好き嫌ひせず何でも食べてもつゝ肥つたこもになつたら、この子の性質も變るのではないかと思ふ。辨當に關してはこんな状態だが行動の方もやはり時の流れは何時でも偉大なもので、此の頃では興奮も大分治つた様子で、目つきもぐつゝよくなり穩かな遊び方をする様になつた。そして自由畫等は大抵單色で汽車ばかり描いてゐるがこもかく一寸の間でも不亂に描く様子も見られる様になつた。他のこも達にも餘り干渉もしなくなつた。此の頃の雨の日の室内では積木のお家ごつこに入つたり、お人形をあやしたり、仲々素直な一面をみせてゐる。遊戯も、此の頃急にスキップが出来て自信がついた故か、漸く列に加はる様になり、萬事がさうやら軌道に乗り出した感じが出て來た。此のAがこまで普通の子さもらしくなるか、それは、全く今後の樂しみであるがさう遠くない事を感じ、のぞみ、待つてゐる次第である。

Sの事

殆ど隔日にしか登園しないS——幼稚園にゐる間は進んで話しかけるさいふ事もないが十分愉快さうに遊んでゐる

のにさうした譯かこ何時も附添つてゐる祖母に聞く。「此の子は下が二人ゐるので殆ど私が育てましたが家では大人が多いのでさうしても大人中心の生活になり勝ちです。それで此の子もすつかり大人びた子になつてしまひました。大人びたもののいひ方等するに祖父が賢い、お譽めるので益々いけなくなりました。私は餘り賢いとか偉いさはいひ度くないのですが、祖父がすつかり壞して終ひます。教育をするのには家中が氣を揃へてゐなければ駄目でございますね。所で此の子は朝六時半に起き七時半にはすつかり仕度が出来てゐます。所が此の子はまだ早いから八時半までトランプをしように申すのです。そして八時半になるに近から十分で行かれるねに申し、あに二十分しように申します。そんな風にしてぐつぐつ、のばし、今日は十時までに行く事にしよう等いひ、お終ひには遅くなつたから今日はお休みにするに申すのです。皆でいろ／＼云ひ聞かせるのですが一旦さういひ出したら絶體に譲りません。そして尙申しますに何時の間にか御近所の家に行つて呼鈴を鳴らして入つて遊んでしまふのです。さうしたらよろしいでせうか——。又先日はこんな事がございました。此の子は小さい時からお金に興味を持つてゐました。別に誰が使つてみせたわけではないのですが十錢呉れさしきりにせがむので仕方なくやります。玩具屋に行つて三品位で十錢になる様な

ものを考へて買ふのです。所で先日女中に五十錢持たせてお豆腐を買ひにやりますと、夫れについて行つて歸りにおつりを呉れさいふのなさうです。女中はお祖母様にお返しするのだからさいふも、お豆腐二丁買ったんなら三十八錢おつりがあるだらう、僕きつとお祖母様に渡すよと、大變確かさうにいふので、女中は渡してしまつたのです。尤も此の女中は近頃來たばかりで家ではお金を持たせないといふ事を教へてなかつたのですが。所で家に歸つてもさうしても私に返さないのです。いろ／＼いひ聞かせても駄目なので一室に閉ぢこめました。始めは非常に悪口してゐましたが母親が氣の毒がつて出してしまつたのです。それで私は今度は靜かな室に連れて行つて此の子の手を握り、お祖母ちゃんはSちゃん可愛いよの、だけきこんな開かないお手は大嫌ひよと申し、いろ／＼靜かにいひ聞かせますと、お金を持つのは早かつたね、と申して返してよこしました。何でも此の調子なのですがさうしたらよろしいでせうか、私がすつかり世話して居りますので一層責任を感じるのですが——」

この話、何かきけば大人つばい返事をするけれど、其の他には他のこども達と變りなく、元氣にジャングルで遊んだり念入りに畫を描いたり友達ともよく遊んでゐても面白さうなのに、何故幼稚園に來たがらないのかしら、又此の二、

三日お休み、例のぐづの篇かそれとも本當に病氣なのかSちゃんさうしたの幼稚園にいらつしやい！、心の中で叫びつゝSの登園を心待ちにしてゐる。

尙、此の二人に共通の點は、音楽を特に好む様に思はれる點である。即ち、Aは、遊戯の際にも、唱歌の場合にも、殆どかけ廻つてばかりるので、一向に興味がなにかと思ふと、自由畫を描き乍ら、又ぬりゑをしながら、いろ／＼なメロデーをよく口ずさむ。幼稚園では其の日はじめて此の子の耳に入つたと思はれるマーチや唱歌のメロデーを、音程も正しく氣持よげに歌ふ様は、別人かと思はれる程である。又、Sの場合は、唱歌の際は——幼稚園では平常でも慨してさうであるが、——極めて、もの靜かな態度で席についてゐて、心から愉快さうに歌ふ。聲は餘り大きく出さず、いはゞ湯上りの心地よさに微吟するさうな感じが受取られる。そして大人むきのレコードにはちつと耳を傾けるさうな態度を示す。

問題の子もさいふのは、結局、保母さんにまつての問題なので、おつしやつた倉橋先生のお言葉をおもひ浮べ、私にはこの子も——問題の子に見える未熟さをかこちつゝ、少しでもこどもの本質を掴みたいもの、ひそかに努め、願つてゐる現在である。

關東州保育會の現況

常任幹事 小山田節

當地保育會の活動について書く様にこの仰せによりましてまだ生れてから三年目、やつと去る七月五日に第二回目の總會を致しましたばかりの會で御座います、仕事も出來て居りませぬけれども概要を申上げて皆様方の御指導ご御批判を頂戴致したいと思ふのであります。

一、會の組織

大連市内十四ヶ所の幼稚園と州内六ヶ所の幼稚園でありまして都合二十園であります。かゝる滿人の幼稚園が二ヶ所御座います。

保姆數は五十三名、滿人幼稚園の方は全部滿人の保姆の方であります。

毎月第三土曜日の午後會合致しまして研究及び相互の發表親睦等を致して居ります。但し三月十二月だけは會合を致しません事になつて居ります。

會の進行には、會長副會長の命を受け常任幹事五名、各幼稚園より一名づゝの幹事を出して居り、相互會議の上實

行に入る事になつて居ります。外に顧問數名と評議員が居られます。顧問には關東州廳内務部長並に學務課長視學官其他各専門的權威者にお願ひ申上げて指導的顧問を頂いて居ります。

二、各幼稚園の内容

官立の幼稚園が一ヶ所ありません。

設立關係は皆異つて居ります。

滿鐵會社立、宗教團體、婦人會、俱樂部、町内共立、有志立、名義上私立になつて居りますが、個人の出資による私立幼稚園は一ヶ所ありません。

保育會としては一二ヶ所の幼稚園が立派な理想的幼稚園に進む事よりも、全部の幼稚園が共に助け合つて行かなければならないと云ふ目標のみに努めて居ります。

設立方針に於ても保育の方法に於ても、皇國の御民をお育てしてお役に立つべき日本人としての基礎教育を致します事に少しも變る事はないと云ふ立場より、保育會として

は各幼稚園の設立關係の方には評議員になつて頂き、會の爲に御助力を願つて居ります。

三、維持經營の法

會員費、各園の幼児數に依りて負擔金、市役所よりの補助金、補助及び寄附金(社會團體より)現在年額七百圓位の收支であります。

四、十五年度の行事について

市役所より六ヶ所の幼稚園に補助金を下附せらるゝ事になつたのであります。

輝しい二千六百年のよき年を會員の心の中に深く銘しました事は五回に渡つて歴史講座を開きました事でありました事や日本童話、遊戲、手技等の研究會を開催致しました事や日本内地より名士權威者の方々來滿の節は、出来るだけ機會を捉へて會員の爲に座談會懇談會等を度々開く機會を得たのであります。其他初等中等學校教育會に於て講演會研究會等開催の節にも保育會員も出席の聯絡を取つて居りますので、都合よき事多く今後とも聯絡を致して行きたいと思ふのであります。

夏期に於ては二名の方々を日本内地の保育講習會等に出席して頂き其報告を會員全部の方へ示して頂く事になつて居ります。

永い間保育の爲に御骨折をせられまして病氣の爲退職せ

られます方々に對して會として表彰狀及び記念品を贈呈致しました。

其他親睦の爲に會合致します事や見學旅行等も致したのであります。

初等中等學校と共に二千六百奉祝大展覽會を一週間に渡つて開催致しました。

關東神宮に記念献木を致しました。

奉祝市民體育大會等に參加市内全幼児の遊戲大會等誠に多くの記念すべき事を残しましたのでありますが、

特筆すべきは會員中より表彰せられる方々三名、猶教育勅語煥發五十週年式典に參列の光榮を頂きましたのであります。

本會長竝に副會長には二千六百年の輝しき式典に御參列遊しました其感想を會員へ御分ちして頂きました。感謝感激は強く、會員の胸を打ちましたのであります。

保育會總會に於て皇國の爲保育奉公の決議も固く宣言決議を致した次第であります。

五、今年度に於ける目標と豫定について

國民學校に改稱せられたる御精神に添ひ奉るべく、保育會に於ても各幼稚園をしても國民幼稚園たらしむべく多くの事業の遂行を相談致して居ります。

幼児の健康増進を積極的に家庭に聯絡を取り進むべき方

策について

先づ健康カードを保育會より各園に配布して專屬醫の巡回的方法等も實行せんとして居ります。

夏期に於ける海濱聚落の實行

第二回總會に於ては關東州に幼稚令に基くべき規則の制定せらん事をお願ひ致します事になつたのであります。

市當局に對し補助増額の件をお願ひ致す事に決議されましたのであります。

母の會を毎月定例会合、聯合母の會開催等についても考へられて居ります。

研究としては音感指導を揚げられて居ります。紙芝居・ラジオ劇、童話、幼兒唱歌等であります。

保姆の爲に合唱團を作り親睦しつゝ音樂の妙味を合せ行かんを存じて居ります。

六、希望として

殊にさゝやかなる保育會の一本立ちはおぼつかないと思ふのであります。

東京を中央の一本の木に仰ぎ私共は其一枝としてお指令をお力を頂き進歩の道をたざりたいを存じます。大東亞の建設を云ふ大なる目標の下に全國の保育會の團結を和合、國家の爲、上御一人の御爲に御奉公申上たいと思ひます。此赤心は全國の皆様も同じ思ひを存じます。各地

保育會皆様方の御指導を御協力をお願いします。

關東州保育會規約

第一條 本會ハ關東州保育會ト稱ス

第二條 本會ハ幼稚園保育ノ向上進歩、發達、普及ヲ圖リ諸機關トノ聯絡保育者ノ親睦及研究修養ニ資スルヲ以テ目的トス

第三條 本會ハ關東州内ノ保姆並保育關係者ヲ以テ組織ス

第四條 本會ニ入會セムトスルモノハ住所、關係幼稚園名及氏名ヲ記載シ本會ニ申込ムベシ

第五條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク、其ノ任期ハ二ケ年トス

會長 一名
副會長 一名
顧問 若干名
評議員 若干名
幹事 若干名

第六條 會長、副會長ハ評議員會ノ議決ニヨリ之ヲ推戴ス
顧問ハ會長ノ推舉ニヨル
評議員ハ會員ノ互選ニヨリ之ヲ定ム
幹事ハ會員ノ中ヨリ會長之ヲ依頼ス

特ニ本會ノ事業ヲ贊助スルモノヲ賛助員トシ會長之ヲ推舉ス

第七條 役員ノ任務左ノ如シ
會長ハ本會ヲ代表シ會務ヲ統理ス
副會長ハ會長ヲ輔ケ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス

評議員ハ本會ノ事業並豫算、決算等ノ重要ナル會務ヲ評議ス

幹事ハ本會ノ事業計劃並實行ニ關スル事務ヲ掌リ會計及庶務ヲ分擔ス

第八條 本會ハ第二條ノ目的ヲ達成スルタメ左ノ事業ヲ行フ
 研究會、協議會、講習會、展覽會

其他必要ト認ムル事項

第九條 本會ノ經費ハ會費並補助金寄附金等ヲ以テ之ニ充テ會員ノ會費ハ月額二十錢トス賛助員會費ハ一ケ年一口二圓トス

第十條 本會ハ毎年一回總會ヲ開キ本會ノ事業並會務ヲ報告ス
 第十一條 本會ハ事務所ヲ譚家屯幼稚園内ニ置ク

第十二條 本會ノ規約ヲ變更セムトスルトキハ總會ノ決議ヲ經ルヲ要ス

【紹介】

改訂 増補系統的保育案の實際

東京女子高等師範學校 附屬幼稚園編
 日本幼稚園協會發行（東京、小石川 東京）
 女子高等師範學校附屬幼稚園内

定價 一圓三〇 送料六錢

改訂版序の一節：「殊に、時局下に於ける幼稚園保育の深刻なる覺醒と、更に、國民學校の新制に對する就學前教育としての周到の用意とは、到底舊版のまゝに止まることを許さなくなつた。こゝに、材料の選擇と配當の適切とに考慮を加へ、解説の筆をも新たにし、面目一新を以て此の改訂版を刊行することとした。

我國幼稚園保育は、現下國民教育上最大の任務を自覺してゐる。研究刷新すべきことも亦多方面に於て切實である。保育案も亦その最重要なる一つとして、茲に此の新版が、皇國保育界に貢獻するところあらんことを心より希うて已まない。

日本愛國唱歌集

〔倉橋惣三序〕
 小松耕輔編

アルス發行（東京神田區神保町三丁目）
 定價 一圓

現代は愛國唱歌の愛唱熱が高い、昔のものも今のものも、今の人の心を打つ。併し唱はうとしても樂譜がなか／＼揃はないので困ることが多い、本書はこの不自由を考慮せられ、昔のもの、現代のもの、中の愛國唱歌と云はれるものを全部網羅せられたものである。

〔編輯部〕

時局と子供

神戸幼稚園 小林良子

年少組の朱實ちゃんにはお父さんがいない、もう三年程前に戦死なされた。

昨年七月に、園児が家庭から有合せのものを一品づゝ持ちより慰問袋を作った。その時に朱實ちゃんが、「あなたのお父ちゃんにも送つてね」と言つた。

「朱實ちゃんのお父さん、何處へ行つていらつしやるの」
「支那」

「お父さんね、支那で何をしていらつしやるの」
「支那で、あたしの知らんまに粟食べておなかが痛くなつたのや」と答へた。幼ないけれども仲々聰明な子供であるのに、家庭で教へられたものかと思ひ議に思つた。

この朱實ちゃんが、秋の運動會の頃に、靖國神社に合祀されるお父さんに逢ふ爲上京した。子供達も淋しがつたし、私達も何か歸りを待ちわびた。

二週間程たつて歸つて來た朱實ちゃんは、「先生、あなたのお父ちゃんは死んだつたの、そして神さんになつた

の」と言つた。其れ以後私はその話に觸れないし、朱實ちゃんも口にしなない。

この子供が大きくなつた時に、靖國の對面を馳げながら思ひ出して、感激を新にする日もあるのであらうか。

お辨當をいたゞきながら、男の子供の間で、桃太郎と金太郎とどちらが強いかといふ事について、議論が始まつた。
「金太郎の方が力が強いから強い」といふ子供が三四人、
「桃太郎の方が強い、鬼が家來だから」といふ者が二人程、
他の子供達は黙つてゐる。そのうちに、

「そんなにえらさうに言ふのやつたら、僕のうちへ來い、日本刀で切腹してやる。(斬つてしまふのもりである)」「斬つてもろたら恰度いゝ、死んだら神さんになれるから、神さんになつたらいゝよ。天皇陛下さんでも拜んで下さるから」

「子供が死んだつて、神さんになんかなれへんよ、兵隊さんやつたらなれるけど」

「さうや〜 天皇陛下さんの爲に死ぬから神さんになれるんやで」
 「ようや〜」異口同音に讃成した。言ひ出した子供も黙つて聞いてゐる。

西園寺公の國葬の日であつた。朝の集會の時に、園長先生から、國葬の日である事、西園寺公のおえらい事についてお話があつた。

其日の歸りの事である、私は、

「今日はこんな日でした」尋ねた。四十人の顔がじつこ此方を見てゐるが、やがて、

「あのね、西園寺さんのお葬式の日」

「國葬やつたの」等聞えた。

「さうでしたね、西園寺さんはこんな方でした」

「おぢいさんやね」

「えらい〜(大變な)おぢいさんやつたの」

「さうね、そしてこんな事なかつたの」

「えらいお仕事をなさつた」

「あのね、天皇陛下のこまばかり思つこつてやつたの」

「忠義な人やつた」

「園長先生のお話をよく覚えていらつしたのね、西園寺さんは九十二までも長生きをなさつて、天皇陛下の御爲を思

つて、一生懸命お仕事をなさつた方でしたね、貴方達も大きくなつたら、こんなお仕事でもいゝのよ、御商賣しても、軍人さんになつても、なんでもお國のお役に立つ人になりませうね」言ひながら、拜む様な祈る様な氣持になつた。

冬になつて、子供達がオーバーを着る様になつた。一人の男の子供がダブルボタンのオーバーが嬉しくて、暇さへあれば帽子掛から外づして着てゐた。

或日、いゝ事を思ひ付いた。學生帽を斜にかぶり出来るだけ肩をはつて、右手を斜めに揚げ、意氣陽々ミ机の間を縫つて歩いた。他の子供達が「ヒットラー」「ヒットラー」ミ手を叩き歡聲をあげた。赤い頬を輝かし、口を尖らして歩いてゐる彼は、今、世紀の英雄だ。

一人の男の子供が、朝部屋へ入るミすぐ、

「燃ゆる大空、凄いぜ、先生みた、明日見ていらつしやいね、阪急で」

「あのな、頭刈つてたら、集れいふてね、そいで半分黒いまゝ走つて行くんやで」

「凄かつたなあ〜」ミポケットへ手をつゝこんだまゝ、一氣に話した。

そのうちに、

「燃ゆる大空、氣流だ雲だ、

揚るぞ、馳るぞ、はやての如く、

爆音正しく、高度を持して、

輝く翼よ、光を競へ、

航空日本、空征く我等」

が男の子供の好きな歌になった。

それから大分たつた或日の事である、男の子供達が部屋の隅に集つて大評定を始めてゐる。何時もリーダーになる子供が「燃ゆる大空」を見て來たのである。

A 「あのなく、飛行機がな」

B 「あの中尉、ミウ〜死んだな」

C 「急降下ブルンブウン〜」ミ飛行機になつて飛んでゐる。

集團的獨語さいふのであらう。

そのうちに、

「先生お花頂戴」、「先生僕も」、「僕も」ミ手に手に少し測んだ花を持つて大潮の引く様に庭へ飛出して行つた。

「これで、お慕つくろうな、あの中尉のな」ミ砂場へ飛込んで、賑やかな共同作業が始まつた。お互に、「そんなことしたらあかん」ミ言ひながら、砂を四角に盛上げて、その上に花を飾つた。

「まあ、きれいに出來たわね」

「うん、先生、もつ〜きれいやつたで」

誰かゞ、「拜まふな」ミ言ひ出して順々に、にこ〜しなから拜んだ。そして又何處かへ散つて行つてしまつた。

○

此頃、「西住戦車長」つこ〜い遊びが随分長くつゞいてゐる。暫らく皆で戦争ごつこをして後に、西住大尉になつた子供が、「僕がクリークの深さを測つて來ます」ミ言つて棒切を手に用心深く這出して行く。少し這つては止り又進み、お終に、「やられた」ミ叫んで倒れる。他の子供達は飛び出て來て、「しつかりしろ」ミ云ひながら圓陣を作り、そのまゝ抱へて陣地まで運び込み、そして又戦争ごつこである。

時には、「君、支那の女の子になれ」ミ女の子供も仲間に入るこゝもある。

月刊「幼児の母」に就て

幼稚園の家庭教育指導のはたらきの一助にも、昨年一月、月刊「幼児の母」を始めてから、もう二年になります。毎號甚だ不出來ですが、それでも廣く各地幼稚園の御贊同を得て、月々ご保護者へ配つて下さる方が多くなりました。

あんな小さいものですが、従つて内容も簡單至極のもので、毎月一萬數千のお母さんに讀んで貰へると思ふご、大によろこんでゐます。ほんの四頁といふのも、忙しいお母さんの立讀みにもさういふ、初めからの計畫で、手にされる方は皆、讀んで下さるご、これが何よりなのです。

就ては、從來の方々は勿論おつゞけ願ひますし、新らしい方々にも願ひいたします。尙ほ、今までは毎月「幼児教育」で御覽の上の註文を本體に願つてゐましたが、もう大體お分り下さいましたごと思ひますし、月々の御申込みは、皆さんの方にも御手数数の多いごですから、半年分なり一年分なりまとめて御註文下さるやう願ひます。當方でも印刷部数の豫めきまつてゐるごが、時節柄必要になりましたのです。それで新しい幼児の入園から新たに御配布の方も多しと思ひますから、四月を初めとして、四、五、六、七、三四月を一期、九、十、十一、十二、三四月を第二期、一、二、三、三四月を第三期として、まごめ

た方が御便利かと思ひます。一年拂は十一ヶ月分。

申込規程

一、御註文は十部を一單位として、實費を左の通り申受けます。

○十部 金貳拾錢（一部貳錢）

○送料 十部まで三錢 二十以上送料不要

○十部以下の端數はおこごはりします。

一、御註文の節は部數ご何ヶ月分ごいふご、御送り致す宛名を特にはつきりお書き記して下さい。

一、右御註文のお申込みと同時に必ず前金でお拂込み下さい。本會の振替口座（東京一七二六六番）をお用ひ下さるのが御便利です。

一、お申込みお拂ひ込みは、東京市小石川區大塚町東京

女子高等師範學校附屬幼稚園内、日本幼稚園協會宛。

序に甚だ立入つたごのやうですが、御利用の仕組は

(イ)幼稚園が保護者に無料で配布される場合、(ロ)實費を

保護者銘々の負擔ごなる場合、(ハ)幼稚園内の保護者會

或は母の會等が費用の負擔をなさる場合等、その他いろ

いろの仕組があらうご思ひます。

充分御利用下さい。

幼児の 母



昭和十六年

九月

新保育期

國民學校なら新學期といふところを、幼稚園ですから新保育期といひます。さて、九月久し振りの登園で、お子さん達の元氣な顔を見るのは、幼稚園としてどんなに喜ばしいことでせう。それ以上、お子さん達の嬉しさうなこと。待ち兼ねた幼稚園、そら砂場、そらブランコ、皆うづ／＼してゐるやうです。

やけた顔、ふとつた顔、なかには一寸見ちがへるやうな顔があります。上の粗の子なんか、急になんだが、尤もらしい顔になつて、先生を吹き出させたりします。そのいろ／＼の中に、共通なことは、

夏前よりも、幼稚園をわがものと感じ、わが世界として振舞ふ様子の見へることです。この四月新入園のお子さんなぞに、それが特別はつきり見へます。これで見ると、長い間幼稚園を離れたり忘れたりしてゐたのでなく、暫く先生に預けておいて、返して貰つたといつた風です。いづれにせよ、もうしつかりと自分のものになつた幼稚園、これからこそその興味も活動も、うんと充實し發揮されて來るでせう。先生方曰く、「元氣當るべからずよ。」「あの引込み思案だつた子が……。」「皆なつて勢よくなつて呉れたのでせう。」愉快な新保育期です。しつかり力のはい新保育期です。

幼稚園から

○なんと言つても生活のきまりのゆるみがちなお休みでした。しつかりと規律正しい生活のたてなをしなませう。

○「さあまた幼稚園がはじまりましたよ。」といふことは、氣合ひを新らしく勵ますにいゝ機會です。大に利用しませう。

○自分で出来ることに人手を借りる癖がついてゐませんか。先づ此の邊から直してかゝりませう。

○夏前へにあつた、多少でも悪い癖を直させるにいゝきつかけです。朝の仕度のぐす／＼すべての、のろ／＼だら／＼を。

○お子さんの方へばかりでなく、幼稚園のきまりを守ることに、家庭としても新らしく氣をつけて下さい。

○持ちものに名まへがつけてありませうね。保育のお道具がそろへてありませうね。いつもの注意が届いてゐませうね。

母の
講座

わが子を良い子に

七 敬ひ貴む心のある子

倉橋 惣 三

良い子にと申したところで、まだ幼い時です。まだ出来上らせる年齢ではないし、出来上らせたりしたら大變です。そこが、幼児の躰のむつかしいこつです。そこで、善良のあれこれを註文するにしても、その良さのものを望むのですが、

それを、ほゞよく言ひあらはす言葉が見つけにくいことです。お互がふだん使つてゐる言葉、その中でも道徳上の言葉にはどうも立派過ぎる言葉が多いやうです。いはゞ、道徳的に完成してゐる心や行ひをあらはしてゐるもので、幼い子どのの生活、わけても良さのみにびつたり當る言葉がありません。それで、いつも困ります。年度の、敬ひ貴むといふ言葉などは、その中でも甚しいので、こうした字を見つめてゐると、大層高尚な感

じを引き出されます。つまり嚴か過ぎる言葉なのです。幼い子に、そんな嚴かなことが註文出来るとは思へません、まあ、だん／＼發達した後、こうした立派な心になるもとの良さ。その大切な方向へ向いてゐる良さ、と思つて下さい。

さて、ところで、世の中には、敬ひ貴むといふ心の頓んと缺けてゐる人が、何んど多いこととせう。世の中といひました、お互、自分を省みると、われながら充分と言へません。なんと傲慢な心持ちとせう。不謙遜な性質とせう。おとなとして、世の中を渡る禮儀作法の形位は心得て居りますが、心の中を見ずかされたら、随分生意氣のかたまりです。ところで、斯うした敬ひ心の足りないことは、それですぐ世渡りにどうといふ譯ではあ

九月のお八つ

厚生化學研究所
國民榮養部 佐々木 理喜子

蟲の聲に秋が訪れて來ました。秋口は殘暑がきびしく胃腸も多少弱つてゐる時ですから、食へ過ぎぬ様に、未熟の果物を口にせぬ様に致しませう。

(一) 林檎羹

材料 林檎五〇瓦 (約1³/₃)個 甘露一〇〇瓦 (中一本) 砂糖五瓦 寒天

1³/₃本 以上で一五八カロリ

作り方 林檎は軟く煮て裏漉す。甘露は蒸して裏漉し林檎と混ぜ合せる。寒天を煮どかし(水二合に一本の割合)た中に入れて、砂糖、鹽で味を付け、流箱に入れて固め、程よく切る。

(二) みそ松風

材料 メリケン粉三五瓦 赤味噌一〇瓦

砂糖五瓦 ベーキングパウダー小匙

1³/₃ 以上で一六五カロリ

作り方 メリケン粉、ベーキングパウダー、砂糖を混ぜ、みそは水に溶いて加

りませぬ。寧ろ現代のやうなはげしい世間では、押し強い威張り屋の方が、人を乗り越してゆける位でせう。しかし、一寸高尚な心の生活になると、敬ひ心のないことが、どんなに人間を下等にするでせう。高ぶる程卑しいといふことがよく言はれますが、それは、敬ひ心のないために、折角の高いもの、美しいものを感じ、味はふことが出来ないからです。わが子を、たゞ世間的に幸福にしよう。世渡り上手にしようといふだけなら、こういうことはどうでもいゝかも知れませんが、少しでも心の高尚な人間にしようとするには、幼い時から、こうした心の躰をつけてゆかなければなりません。

それにはどうすればよいか。こういう眞に深いところにある心持ちの養ひ方になると、方法や形ではなか／＼ほんとうの効果がありません。どうしても、その子をそうした心持ちの人々の中に置かなければ出来ませぬ。折りに觸れ、事につけ、物に接して、その度び／＼に動く心持ちの底の動き方ですから、外から押しつけてもいけません。はたの人の心持ちの動きを反映させるほかはありません。この心は、少し強い形に置いていへば宗教心ともなります。わたしは茲で、わが子に宗教心を養へど、そう直接に申しでゐる譯ではありませんが、心持ちの奥は同じでせう。ありがたい。もつたいない。つゝしみ深くへりくだる。といった心は、既成宗教の信仰となつてもならなくとも、宗教的な心もちとはいへませう。この、宗教的などいふ言葉でよく言ひあらはせる心持ちは、案外幼い子にこまやかにあるものです。子の宗教は親だといひますが、即ち、こうした心は先づ親に對して養はれませう。それから、親に似たる先生に對して養はれませう。それを通して、親と先生とが敬ひ心を捧げる一切のものに對して養はれませう。——日本で一番敬ひ貴むべきは何かといふことは申すまでもありません。

え、全體をホットケーキを作る時位の軟さにする。フライパンに油を引いて材料を流し入れ、少し弱火で氣永に焼き、途中でフライ返しを用ひて裏返す。味噌が入ると焦げやすいので注意する事。

(三)ゆかり團子

材料 馬鈴薯一三〇瓦 米一〇瓦 砂糖五瓦 ゆかり(紫蘇の葉の粉)少々、以上で一五三カロリ

作り方 之れはおはぎの代りにする、黄粉があれば、ゆかりと二色にする。(ゆかりは夏の内、梅干の紫蘇の葉を干して粉にする)。馬鈴薯を蒸して潰し、御飯を少量まぜる。砂糖と少々鹽で味をつけ、小く丸める。ゆかりにも少 砂糖を入れ、お團子の中に轉ばしてまぶす。但し澤山つけると味がまづくので、少しにする。 以上

× × ×

隣組幼稚園

□隣組では、教へられたり教へたり、助けられたり助けたりに、いろ／＼のことがありますが、互の子どものことも、その大切な目録の一つではありますまいか、折角お母さんを主にしての集りに、これが問題にならなかつたら、よつほど、どうかしてゐる位です。

□一體……と組長さんが咳拂ひなさる譯じやありませんが、子どもの問題は、親同志が近づきになり、ほんとうに心の近所といふことになつて、一寸注意すればうまくゆけるもどが出来たのです。

□それがよくいつた形を、隣組幼稚園とも名づけませうか。「あら、みんなで面白そうですね。隣組幼稚園ね。」なごやかではありませんか。更に進んで、「今日おひるから皆さんうちへ遊びにいらつしやいね。お姉さんが紙芝居を見せてあげますつて。」までいけば、堂々たる認可隣組幼稚園です。それが次々に場所が變つ

て、お庭軒々々の家庭の中だけで片づくものではありません。近所同志心を一つにし、力を協はせあはないとうまくゆきません。たとそれが、以前はなが／＼うまいかなかつたのです。第一親同志が逢つても口をきかないといつた關係では、思ひもよらぬことです。それどころか、互の子どもを、あれはごの子だいいつしよに遊ぶんじやないよ。では、協力どころか排撃、反撃です。それが、隣

組で先づ庭の廣い家ではお庭あそび幼稚園、鶏を飼つてゐる家では動物觀察幼稚園、名所繪がきでも澤山ためてある家では寫眞展覽會幼稚園、蓄音機のある家ではレコード鑑賞幼稚園と、順々に招きあつて、移動式隣組幼稚園が出来上る譯です。あれはごの子だいいとは大層な相違です。

□隣組幼稚園には、そうした子どもの樂しみのほかに、「奥さんお取込みでお忙しいうです。お子さんはお預りしますから、御安心してお出かけ遊ばせ」の留

守預り幼稚園も出来ません。「今日は隣組生産日ですね。お子さん達は宅の方へ集つてゐて頂きませう。」の主婦勤勞手助け幼稚園も出来ません。こうした實用的便宜の上に、或る日の隣組の話題には、子どもの育て方躰け方の苦心談や研究會もあつていゝでせうし、参考になつた育児教育の本や雑誌の貸しあひもあつていゝでせう。そうなると、隣組幼稚園の職員會といふことになりませうか。それがどんなに互の家庭教育を助けることでせう。

□しかも、隣組幼稚園の一番いゝことは、子ども達に隣同志といつた社會的の感情を、豊に養ひ得ることです。子どもの教育が個人主義にならぬやうに氣をつけることは、何より大切なことですが、それは、斯うした手近かな實際からこそ養はれます。——隣組幼稚園のいゝことは、子どもばかりではない。親が先づ、人の子を自分の子と同じく大切に考へる様に教育されてゆくことですね。その肝要は言ふまでもありません。

誌
上
保
育
講
習

今夏中止の保育講習會を、その豫告通りの内容をもつて、「幼児の教育九、十、十一、十二月號に連載して誌上講習とし、八百餘に上る聽講御申込みの御熱意に酬ゆることゝしました。

諸先生方には御繁忙の中にも拘はらず御快諾下さいましたことを茲に改めて厚く御禮を申し上げます。(編輯部)

誌上保育講習目次

國民學校と幼稚園保育の實際	倉橋 惣三
國民學校國民科指導の精神	竹下 直之
國民學校藝能科音樂に就いて	小松 耕輔
國民學校理數科の實際	田代 順之
幼稚園遊戯	戸倉 ハル
幼稚園手技	及川 ふみ

國民學校と幼稚園保育の實際 (二)

倉 橋 惣 三

まへおき。

これは、昨年の夏の文部省主催の保育講習會で講述した「國民學校と國民幼稚園」の再説といつたものである。私はあの講述で、小學校が國民學校に刷新せられんとする前に當つて、就學前の問題も、それにつれて當然刷新せられるべきことを信じ、その總結論を國民幼稚園の名に托して廣く思考した。その大體の内容は、一、序説、二、國民學校概観、三、國民學校の教育方針、四、國民幼稚園、五、幼稚園と國民學校、六、幼児教育者としての國民學校教科の研究、七、我國幼稚園の將來、八、幼児保育者の責務、といつた風に、國民幼稚園の名で考へられなければならぬ各方面に、ひとわたり普く觸れて行つた。しかも、その主旨の中心は、日本の子どもは國民學校に入るを待つて、初めて、皇民教育が始められるべきものではない、といふことであつた。そして、その時豫示せられてゐた國民學校教育の本旨と國民學校の教育方針とに對應させて、從來の幼稚園の本質、方法、及び制度を検討しつゝ、その向ふべきところを論定しやうとしたのであつた。素より未だ精しきを盡してはゐなかつたけれども、爾來、國民幼稚園の名によつて、就學前教育の指針が語られること

の多くなつたのは、當然の發言が當然の同意を得たものといつてよからう。

ところで、いよ／＼本年四月、國民學校令が實施せられてから、幼稚園は果して、どういふ動きを見せてゐるであらうか。素よりそう早速に著しい動きを示し得るものではない。しかし、幼稚園實際家が此の點に持つ關心は極めて切急であつて、深く熟慮し、或は焦慮さへしてゐる。熱意を以て私達に意見をもとめる向きも尠なくない。私達としても亦、國民學校の未だ實施せられてゐなかつた昨年と、既に實施せられた後の今日と、幼稚園に向つて言はんとする點が、おのづから移るところなしとしない。そこで、本年の日本幼稚園協會主催の講習會では、焦點をぐつと保育の實際に引きよせて、所感を講述しようと思つたのであつた。偶々、本年度の全國的講習會の一般的休止の公牒により、親しく會員諸君と相語る機會を得られなくなつたので、誌上講習の形で、要旨を記述することゝした。昨年の主張的態度に比し、本年は、會員諸君と共に、眼を保育の實際に即けつゝ、じつくりと語りたいと希つてゐたのであつた。この記述も亦、その心でお聴き、否お讀み下さい。昨年の講習の筆記は「幼児の教育」、その要約は文部時報昭和十五年に掲載。

第一、國民學校と幼稚園との教育本旨上の一貫性

一、その考へのもち方

大層長い題目であるが、これこそは、幼稚園が終始、基本觀念として、日々の實際の上でも、胸底から離してならぬ、一番大切な點である。國民學校があの精神を以て行はれるのは、日本の國民の教育だからであつて、その國民の教育たるや、學齡中だけのものではない。學齡後に於ても繼續するものであり、同様に、學齡前に於ても存するものである。學齡前は他の本旨で教育せられ、學齡に至つて急にその本旨が適用せられるといふことは、理に於てあり得ない。幼稚園が國民學校の教育本旨と同じ教育本旨で行はれねばならぬことを、國民學校への準備といつた言ひ方でいふのは、實際的にはさういふ結果になるが、本質的には適當な言ひ方でない。さういふ效果上の必要といふよりも、もつと、理論上の必然である。皇國の道に則つて、國民に練成するといふことは、國民學校だけの任務ではない。その基礎的な度や質に違ひはあつても、その目的に變りはない。それ以外の教育本旨は、日本の幼兒教育そのものとしてあり得ないのである。國民學校への連絡の爲さい

ふよりも、もつと深い理由からである。しかも、その結果が、國民學校の斯の教育に、正しき前提となることは言ふまでもない。又、この正しき前行なくしては、國民學校の此の本旨が充分實現せられ難いことも考へられる。たゞ、幼稚園が國民幼稚園としての精神に充實すべきことは、それをも含むそれ以上の理によるものであることを深思したい。それを一貫性と呼んだのである。この一貫性は、たゞに幼稚園ばかりではない。家庭に於て、先づ確乎として存する。日本の家庭教育は、一つに此の本旨で行はれるべきものである。そこに、國民學校と家庭との、縦にも横にもの一貫性が考へられる。而して、それは、日本の家庭の本來の特質から出ることであり、日本家庭教育の必然である。これに比して、幼稚園は教育の一つの施設であつて、種々なる動機から思ひ立たれ、従つて、その本旨とするところも各様であり得る。勿論、日本の幼稚園が、非日本の本旨で行はれ得ることは絶対にないが、その本旨をこの位強く、殊に眞に中心的のものとして確把するかは、日本の家庭が何んとして本來さうである必然とは差があるかも知れない。そこで、特に、此の一貫性の自覺が、今更必要でもあるのである。殊に、幼兒期といふ淡さに於て、尙且しつかりその一貫の本旨を見失はぬことを、怠らず留意する必要があるといへる。

二、一貫するもの

國民學校と幼稚園とは、當然一貫する教育であるが、その一貫する點は、くわしく考へれば何んであらうか。一貫といつて、幼稚園の全面が國民學校と同一なるべしといふのではない。そこで此の題目にしても、教育本旨上の、特にこゝわつて置いた。これはたゞ意味なく使つた言葉ではない。

國民學校と共に、幼稚園もその面目を一新しなければならぬといふ焦慮から、いろ／＼の新考案が工夫せられる結果、時としては相當過激、いふほぎでないにしても、多少度を越えた保育形態や、保育方法が採り用られる危険がないとしない。勿論、そうあつてこそ、その熱意が自己へも満足せられ、他へも徹底させられる譯であつて、その本意の存するところは敬意に値する。しかし、われ／＼が必須とする一貫性は、必ずしも形の上ではない。殊に極端に偏する特殊な形のみではない。それよりも、教育上の本旨そのものである。その本旨は素より方法の上にはあらはれ来る。その本旨に基いて従來を改め、新規を探る必要は起る。たゞ、幼稚園を餘りに特定な形式に局限したり、一方的な方法にのみ重きを置いたりすることは、注意すべきである。國民學校の教育上の本旨は、國民學校令第一條に示されてゐる、皇國の道に則りて國民練成をなすこと

あるが、それは、教育の實際としては、決して狭いものではない。尊き皇國の道はもとより、日本國民の大國民性にしても、決して、文化の狹隘なる局限によつて顯現せられるものではなく、高遠と共に廣範なる文化財の包容によつて生々發展するものである。たゞ、従來の誤りは、徒に廣きを外に求めて、日本自身の文化價値の自識その活用が、往々にして充分でなかつた點である。自識が強くなく、活用が豊かでなかつたことである。従つて、その特色を具し表現する文化資料と實際方法との使用が足りなかつたことである。即ち、要約していへば、他を用ふることに偏して、己れを用ふることに少なかつたのが弊であつたので、他を用ふることにその少なかつたのではない。

いふ、またしても自由な態度をとり過ぎるやに聞えるかも知れないが、決してそうではない。一貫を教育上の本旨そのものに求め、本旨の內面的意義を尊重するが故に、形の變改で事が完ふされたと考へる淺さを避けたいのである。そんな形の上だけで濟まさない程の深さを幼稚園教育の奥底に求めたいからである。

そこで、形でなく、必ずしも方法の上だけでなく、幼稚園そのものにいふ時、その本旨の一番の所在はここであらうか。いふまでもなく、保母その人の保育精神の中である。保母が、その明確な日本保育精神に基いて、一切をそ

れに則らせ、究極の意圖を國民練成に置く時、その幼稚園は、必ずしも武家時代の幼稚園の如く、平安朝の幼稚園の如き態様でなくても、不動の日本國民幼稚園たり得るのである。教育令には目的を記されてゐる。それは、學校なり幼稚園なりの施設としての目的である。しかも、その目的が發動し完遂するものは、教育者その人々の精神である。その精神に生くる性格である。茲に於て、國民學校と國民幼稚園との一貫は、教育本旨上の一貫であり、兩方の國民教育者の性格上の一貫といふことになる。

三、一貫の内容

さてその一貫の内容は、もう更めて説くまでもないが、國民學校令第一條と、同施行規則第一章教則及び細則第一節總則第一條とに示されてゐるところに基いて考へらるべきである。

國民學校令第一條には

國民學校ハ皇國ノ道ニ則リテ初等普通教育ヲ施シ國民ノ基礎的練成ヲ爲スヲ以テ目的トナス

とあり、施行規則には

國民學校ニ於テハ國民學校令第一條ノ旨趣ニ基キ左記事項ニ留意シテ兒童ヲ教育スベシ

一 教育ニ關スル勸語ノ旨趣ヲ奉體シテ教育ノ全般ニ互リ皇國ノ道ヲ修練セシメ特ニ團體ニ對スル信念ヲ

深カラシムベシ

二 國民生活ニ必須ナル普通ノ知識技能ヲ體得セシメ情操ヲ醇化シ健全ナル心身ノ育成ニカムベシ

三 我國文化ノ特質ヲ明ナラシムルト共ニ東亞及ビ世界ノ大勢ニ付テ知ラシメ皇國ノ地位ト使命トノ自覺ニ基キ大國民タルノ資質ヲ啓培スルニカムベシ

とある。素よりこのまゝが、幼稚園教育の本旨とはいへないが、その國民教育として中心本旨はこの他にない。尙ほ文部省から示されてゐる解説要領は、この本旨を一層具體的に明かにしてゐる。

「この三項は國民學校教育の本旨を布衍したもので、國民學校に於ける教育の精神と内容を明かにし教育全般に互る重點を指示したものである。

教育の全般に互りて皇國の道を修練せしめることが、國民學校の要義であることは既に述べたる所によりて明らかなるが、特に團體に對する信念を深からしむることに其の中核をなす。而して、皇運扶翼の大精神も、没我奉公の至情も、一に皇國の道の修練と之による團體に對する鞏固な信念とを基礎とする。而も此の信念の涵養深化は、純真なる兒童の時代を以て最も適當とし、この時代に擧られたるこの信念は國民の一生を通じての世界觀の基調をなすものである」。(後略)

これは言ふまでもなく、國民學校の教育本旨であつて、このまゝ就學前に適用せられないかも知れないが、それは恐らく、徹底度に於ての差違であつて、教育本旨たるの質に於ては、同一の要求に何等の別は存しない。すなはち、これを、幼兒教育としての妥當性に於て正しく實現せしめてゆくことこそ、一貫の内容を盛るものである。殊にこの中には、「皇國ノ道ヲ修練セシメ」、「國體ニ對スル信念」、「普通ノ知識技能ヲ體得セシメ」、「大國民タルノ資質ヲ啓培スル」等の言葉がある。用語上いふ以上に、これらの言葉が用ゐられてゐる内の心が、よく考察せらるべきである。修練のところに理解をいつてない。信念のところに觀念をいつてない。體得のところに會得をいつてない。資質を啓培のところに教養を充實しなまゝいつてない。理解、觀念、會得、教養等であつたら、全く幼兒に適用せられない。修練、信念、體得、資質の啓培をいつても、その度合ひにいろ／＼あり得るが、いづれも幼兒期に於て可能の教育である。素より幼兒の教育は淡い。これに年長兒の教育の濃さを求むることは出来ない。しかし、淡いからさいつても、その本質は決して空虚であつてはならない。淡ければこそ眞に純に、其の本質が含有せられてゐなければならぬ。含有せられ得るのである。又幼兒教育は、その効果が形にあらはれて見られることはむづかしい。それを求める

ことは却つて危険な位である。しかしその芽はちやん／＼存し、その芽の伸びてゆく方向は、誤りなく指向せられてゐるべきである。茲に、前に引用した「……而も此の信念の涵養深化は、純眞なる兒童の時代を以て最も適當とし、この時代に養はれたるこの信念は國民の一生を通じての世界觀の基調をなすものである」といふ意味が確立する。世界觀の基調をいふは大層むづかしくも響くが、つまりは、自分の生活の感じ方、考へ方の方向がつかうことであつて、その方向が、誤りなく國家的、國民的になることが、國民學校とその就學前の教育との共通の一貫の内容でなければならぬのである。

これは、多くの人々にまつては、餘りにも當り前すぎた話である。日本人が日本の子をもを教育するに、このほかの本旨があり得る筈はないのである。たゞ、前にも一寸言つた如く、何しろ幼兒期は極く淡いのである爲に、教育者の方の教育意識も、おのづから極く淡いものになつて、肝要な本旨を取り落すことがないことも限らない。又、幼兒教育の方法上の要諦として考へられてゐる心理的の條件が、それ自らに教育目的であるやうに考へられて、所謂教育上の自然主義、自由主義をいつた傾きに覆はれたりすることにも屢々起る。更に又、教育上の美的主義をいつた主張が、前面に溢れ漲つて、何よりも根基である國民的本旨が後ろ

へかくれたりするこゝも起る。殊に、幼稚園がフレールを中心にして、その説や著作をこゝまでも經典視したりする風が、時に残つてゐて、日本の幼稚園が日本の爲に設けられてゐる本義が、國民學校の場合の如くには確固となつてゐないこゝなきも、時には無ししなかつたのである。幼稚園が日本の子をもを教育してゐるこゝは、國民學校と一毫の差違もない。そこに、教育本旨上の一貫の内容は確乎として動かないのである。

第二、幼兒教育法の特色

國民學校の教育方法

一、從來の實狀

教育本旨の上に於ては、こゝまでも國民教育としての一貫性であつて、こゝちからこゝちを考へるこゝか、こゝちへこゝちをつけるこゝかいふ性質の問題ではない。たゞ今日の動き方としては、國民學校の國民教育意識の高揚につれて、幼稚園にしても反省し、再検討されて、その一貫性に違ふこゝもなく、愈るこゝなきを期せなければならぬ考へたのであつた。そしてそれが極めて必要な考へ方なのである。こゝで、問題を教育の方法の方に移して來るこゝ、その考へてゆく順序が少し異つて來る。先づ極く卒直な言ひ

方をするならば、國民學校の教育方法の方が、幼稚園の教育方法へ近づいて來たこゝいふこゝである。

從來の實狀では、小學校教育法と幼稚園教育法とは劃然たる相違に置かれてあつた。従つて子ぎもは、新入學の第一日から、所謂新入學の第一日から、幼稚園とは全然別個の原則の下に教育せられたのである。小學校の先生もそれを當然として強ひて疑はなかつた。家庭でもさういふものとして敢て疑はなかつた。子ぎもらは、生活の實際の上には恐るべき不自然を感じながらも、その不自然に所謂學校感を味はふこゝをつこめたり、得意になつたりしてゐた。たゞ、幼稚園では、それを、甚だ惱ましい問題として困却してゐた。

この、幼稚園と小學校との教育方法原則の相違の結果、殊にその爲に考へられる學校側からの苦情に基いて、幼稚園と學校との連絡いふこゝが、しかつめらしう問題として取り立てられた。幼稚園と學校とは一連の教育道程である。隔てのない身うち一族である。その間に今更、連絡の工夫なき、まるで兄弟間の意志流通法といった奇怪千萬な話であるが、それがいつも騒然と論じられた。又、論じられる必要が實狀に於ては存したのであつた。そして、その不連絡の攻撃は、いつも年下の方の幼稚園へ向けられたのであつた。たゞ近時になつて、小學校低學年の研究が進む

につれて、その教育方法はだん／＼幼稚園教育法の方に近づき來り、幼稚園と低學年とを同一教育方法原則の下に結びつけようといふ試みさへ行はれるに至つてゐた。しかし、それは極く進歩的な、所謂新教育的主張であつて、一般としては、小學校は小學校として、劃然たる岸壁の上から、幼稚園を眼下の對岸視してゐるのが普通なのである。

これは、われ／＼の久しく憂慮してゐたところである。何も、幼稚園の爲にさいふののではなく、小學校教育の爲に憂慮してゐたのである。さいふよりも、最も眞實には子ども達の爲に憂慮してゐたのである。そして、低學年教育法の改善を、それ自身の爲に(幼稚園との連絡)いふやうなことでなく、永く主張し來つたのである。

國民學校の教育方法要旨は、この問題を原則的に解決して呉れた。低學年に限らず國民學校全體のこゝとして、方法上の顯著な刷新が與へられた。これは勿論、國民學校が幼稚園の方について來たさいふ譯ではない。いふまでもなく、教育方法上の正常さが、兩方の一致を見せしめた丈のこゝである。たゞ、若し、さつちが先きに此の原則を採つてゐたかといへば、幼稚園の方——幼稚園法にもいろいろあるであらうが、少くもわれらの幼稚園方法の方が先きであつた。但し、斯くいふこゝに於て、幼稚園の方が、教育方法の考究に於て進んでゐたなきゝいふべきではない。

い。考究としては、小學校の方にも充分の先覺があつた。たゞ、それを實行するこゝに於て、幼稚園の方がらくであり、簡單でもあつたのである。

兎に角、幼稚園は、國民學校から、教育本旨上に活を入れられたと共に、國民學校の教育方法の新方針を手を拍つて歓迎したのである。

二、國民學校教育方法の方針

然らば、國民學校の教育方法の新しい特色はさう云うこゝであるか、國民學校令施行規則第一章第一節第一條に、前に教育本旨のこゝで引用した三項について、次の諸項が擧げてある。

四 心身ヲ一體トシテ教育シ、教授、訓練、養護ノ分離

ヲ避クベシ

五 各教科竝ニ科目ハ其ノ特色ヲ發揮セシムルト共ニ相

互ノ關聯ヲ緊密ナラシメ之ヲ國民練成ノ一途ニ期セシ

ムベシ

六 儀式、學校行事等ヲ重シ之ヲ教科ト併セ一體トシ

テ教育ノ實ヲ舉グルニカムベシ

七 家庭及ビ社會トノ聯絡ヲ緊密ニシ兒童ノ教育ヲ全カ

ラシムベシ

八 教育ヲ國民ノ生活ニ即シテ具體的實際的ナラシムベ

シ

九 兒童心身ノ發達ニ留意シ男女ノ特性、個性、環境等ヲ顧慮シテ適切ナル教育ヲ施スベシ

十 兒童ノ興味ヲ喚起シ自修ノ習慣ヲ養フニカムベシ

これらの方針は、教育をして局部的や抽象的のものではなく、國民練成に歸著せしめることを中心要義としてゐるが、その教育方法上の特質としては、生活的及び具體的の二大特色に概括出来るものである。茲に一々詳説するまでもないが、その最も主なる項について見ても、心身を一體として、教授、訓練、養護を分離せしめないといふことは、子ぎもの全生活をそのまゝ對象とし、之れに分離的抽象にしない、どこまでも具體的な教育方法を適用してゆこうとしてゐるのである。儀式、學校行事等を重んじ之を教科と併せ一體として教育の實を擧げるといふのも、家庭及び社會との聯絡を緊密にするといふのも、又、大きく、教育を國民の生活に即して具體的實際的ならしむるといふのも、皆同じく、教育方法學的の言葉としては、生活主義、具體主義といはれるものである。而して、これは教育理論としては今更新方針とする迄もなく、極めて當り前のこののやうにも考へられるが、所謂學校式といはれる從來の方法に於ては、之れは反對の方法にあること久しく、方法的に進めば進む程、反對の方へ赴いた風があり、その弊は甚だ憂ふべきにも及んでゐた。國民學校は、それを、教育

方法の正しきに還らしめたもので、確に面目一新の斷行である。國民練成には、そうならなければならぬ。

三、幼兒教育法の特色

翻へつて幼兒教育法の特色を見るに、絶對的に、生活的、具體的である。この問題を茲に詳論するまでもないが、幼稚園に於て遊戯生活を主とし、又製作活動を重んじてゐるのも、つまりは、その生活性、具體性が尊重せられてゐるのである。幼稚園の方法の中にも、いろいろの方法的工夫が行はれて、時には此の肝心の特色から離れてゆく事もあるが、原則としての根本は常にこゝに存するのである。そして、なぜこゝでなければならぬかの理由に就ては、幼兒期の發達が未分化の程度にあるから分化的方法が用ゐられないのだといふ事實もあるが、更に、その全我渾一性そのものは陶冶を重視するといふ教育目的上の意義も大きいのである。一體、教育の方法が生活的全體性や具體性を失ふといふのは、教育の目的の高い方が内容の部分々々に分割せられ、その各々の部分に對して對象を區分せしめそれの對象に對して、方法が分岐せられるといふ順序を辿るのである。即ち、教育の徹底を部分に求めてゐるのであり、その部分的徹底を再び全體の徹底に融合させやうとは考へてゐるのであるが、それがむづかしい。その爲に、方法の分れるまゝに、教育が却つて、生活の全體性を破ることゝ

なる。憂ふべきはそこにあるので、生活主義が具體主義さかひ教育主張も、それに對して出るのである。こころが、教育が實用化せられることの迫つてゐる場合に於ては、その實用の方面々に役に立つ部分的發達が偏り重んぜられて、生活の全體性さいふやうなことが見落される。

又、教育が論理化せられることの高度の場合に於ては、その論理的構成の要素々に即し過ぎて來て、生活の具體性さいふものを見失つて仕舞つたりする。小學校がその弊に陥つたのもこの爲である。それに比して、幼稚園は、どこまでも、その子をその子として、全體的に發達させ、陶冶してゆく教育であり、その弊から遠ざかり得るし、教育目的の個々内容よりも、その子の今の生活の全體性さ具體性さに即して、生活の全體性さ具體性そのことの教育に専心し得るのである。

こゝにいふ譯で、われわれは、國民學校の教育方法上の方針は、豫て幼稚園方法の原理であつたさいふのである。また、小學校の低學年の方法は、幼稚園方法に做つて來なければならぬさ傲語（？）したりさへしたのである。

しかも、これはわれわれの主張する幼稚園方法の特色であつて、幼稚園界の實情としては、此の特色を理解せず、教育方法の工夫さいふ名の下に、折角の此の特色を破棄して所謂小學校型にしてゐるものも、稀さし得なかつた。而

して、それは、幼稚園方法としての本質的錯誤であると共に、學校の方法としても大きな誤謬であるのである。それが、今日の國民學校では劃然として刷新せられた。若し、幼稚園の方で錯誤をつゞけてゐるやうなことが假りにもあつたら、何んさも言ひやうもない失態である。更に、國民學校の方法は幼稚園方法の特色と同じになつて來たさいふ言葉を、その錯誤的幼稚園方法をも、こゝにして用ゐたりしたら、何んさも飛んでもない混亂である。

就ては、茲で一言添えて置きたいことは、國民學校の教育方法の方針、幼稚園の方法と同一原理の下に行はれるやうになつたことは、前に述べた如く、就學前教育と就學後教育の一聯の關係を滑かにする點で大に喜ばしいことであると共に、幼稚園として、此の特色の尊重と發揮が従前よりも一段と肝要になつたことである。前にも言つた如く、現に、此の特色に馳背してゐる幼稚園も無いのではないのであり、それは例外とするにしても、此點に於ける幼稚園の方の研究態度は、まだ充分さいへない。少くも、幼児の生活特色から離れないさいふ、いはゞ消極的態度にはあつても、生活の全體性さ具體性を、幼稚園の實際の上にもつゞく充實させる積極的研究態度はまだ充分さいひ得ないかも知れない。その意味で、幼稚園の人々は、國民學校の研究に大に力を用ひなければならぬ。(つゞく)

國民科指導の精神 (二)

文部省圖書監修官 竹 下 直 之

一
 幼児の教育に奪ひ天職を見出してをられるみなさんにかつて、國民學校に於ける新しい教科としての國民科について、指導精神から内容まで一通り明らかにして欲しい、こいふ編輯の方の御依頼でした。夏の保育講習會でお話をする約束もありましたが、都合でそれが果せなくなつた關係もありますので、いま求められるまゝにこの紙上で、大體のこがらを申し上げて見たいと思ひます。

併しその前に私は先づ、なぜ編輯の方が新教科書をつくるのに忙しい私共を引張り出して、國民學校の國民科といふものについて聽かうみなさるのか、またみなさんにも聽かせようみなさるのか、その意味を考へて見なければならぬ。その意圖されるところによつて、お答への仕方も多少違へた方がよい、と思ふからであります。できるだけ御参考になるやうに、申し上げたいからであります。倉橋惣三教授には國民幼稚園こいふ幼児の教育形態を、御主張にな

つてをられるやうにうかがつてゐます。幼児の教育では、例へばフレーベル流に人間を教育するこいふこが主になるのではなく、具體的に日本國民を保育するこいふこが眼目にならなければならぬ。さうお考へになつてをられるものと思ひます。そこから、直接に國體の精華を明らかにし、國民精神を涵養し、皇國の使命を自覺せしめる教科としての國民科について、理解を求めようされるのでありませうか。

確かに幼児の教育は一方で、就學前の教育として、國民學校の教育と關聯させるこが大切であります。學齡以前に於ける幼児の教育を完成し、家庭と國民學校の中間に在つて兩者のへだたりを緩和し、兒童教育を滑らかに遂行せしめるこが、目的ならねばなりません。既に御承知でありませうが、今般の國民學校制度の實施に先立つて答申せられた教育審議會の國民學校案には、特に次のやうな幼稚園に關しての要綱が、結びつけて述べてあるのであります。

一、幼稚園の設置に付一層獎勵を加ふるに共に、特別の必要ある場合は、簡易なる幼稚園の施設をも認むること。

二、幼稚園の保育に付ては特にその保健並に躰を重視して之が刷新を圖ること。

三、保姆に付ては其の養成機關の整備擴充に力むるに共に、其の待遇改善を圖ること。

四、幼稚園と家庭との關係を一層緊密ならしむるに共に、之に依り家庭教育の改善に裨益せしめ、併せて幼稚園の社會教育的機能の發揮に力めしむること。

この教育審議會の答申要綱は、從來あまり重要視されてゐたことは云ひ得ない。就學前の教育が、國民の基礎教育にまつて極めて大切な意味を有するものである。こいふことを認めて、國家に要望してゐるものと考へられるのであります。審議會に於ける田所特別委員長はこの要綱を説明して、向後國家として一層幼児教育の普及發達に意を用ひ、殊に父母共に勞働に従事する者の多い都會地、ならびにまた農繁期に於ける農村等に對しては、一段の力を注ぐべきである旨を、述べてをられます。しかも同時に次のやうな報告をされました。

「幼稚園の任務は申す迄もなく幼児の身心を健全に發達せしめ、善良なる性情を涵養し、家庭教育を補ふことに在

るのでありますが、將來一層斯くの如き保育内容の刷新を期することとし、純真なる性情の涵養と共に、特に一層幼児の保健養護に留意して、強健なる身體の基礎を作るに力め、知的負擔を多くするが如きは、嚴に戒しむべきであります。又躰を重視して、日常生活に於ける正しき習慣を得しむるに力め、國體に對する敬虔なる心情を啓培し、國體生活を指導する等は極めて大切と考へられるのであります。」

「幼稚園は……家庭を扶けて幼児の身心の適正なる發達を遂げしむるを以て本旨とし、特に社會的乃至教育的理由によつて家庭に求め得ざる發達の機會を與ふるに力めることが大切であります。此の意味に於て一層家庭との聯絡を密接ならしむべき方法施設を講ずることが肝要であります。之に依つて疊に幼稚園の職能を完うし得るのみならず、延いて家庭教育の改善に裨益し、幼児保育の全きを期することが出来るのであります。」

國民學校制度の實施はやうやくその緒につき、文部省では目下のところ師範學校その他の學制改革について慎重審議を續けつゝあるのであります。それらと關聯した幼稚園に關する要綱の答申を中心として、幼児教育の問題にはなほ入念検討を必要とする點が相當にあるものと考へられます。併し、我國はいまや世界新秩序の建設さいふ曠古の大

業を前にして、國家總力の最高の發揚を焦眉の急務としてゐるのであります。幼兒教育の問題を考究するに致しましても、國體に對する敬虔なる心情を啓培し、團體生活を指導する等の點に、問題の焦點を見出すべきであることは、申すまでもありません。さういふことを考へて参りますと、さきの倉橋教授の主張せられる日本國民を保育する、さいふ角度の幼兒教育論もまた結びついて、國民的さいふことから、就學して後に子供達がすぐに遭遇する國民學校五教科の一つ、國民科の指導内容さいふやうなものを、十分に理解して置くことは、幼兒教育に臨まれるみなさんにまつての極めて肝要な問題であるさへ云へるのであります。

編輯なさる方の御意圖が全くこの點に出たものであるか否かは、判明しないのでありますけれども、私はさういふ風に諒承致しまして、大體かういふことを念願に置きながら、お話を進めて行きたいと存じます。勿論こゝには、國民學校低學年の教科指導と幼兒指導とをどんな形で結ぶか、さいふ幼兒教育上の大切な問題が成立するやうに思ひます。併しいまは前置きが大きくなりすぎますから、それらのこゝがらには深入りしないで、お話の途中に機會があつたら、多少觸れるこゝにして、法令の解釋や教科用圖書の内容の解説なきを手蔓にしなから、國民科指導の精神を

明らかにして参ります。

また従來、宗教團體と關係してゐる幼稚園のうちには、幼兒に與へるこゝのできる形で、意識的に宗教教育が行はれて來たやうに見受けられます。國民學校ではいゆはる宗教教育なるものは行はれません。そのこゝとどんなに結ぶべきかさいふことも、國民さいふ概念をはつきりさせないで、決定できないところであらうと思ひます。或る幼稚園園歌のなかに

かしこけれども大君は

我等の父にておはすなり

みめぐみ深きみ佛は

我等の母にていますなり

さいふのがあるさうであります。かうしたもののなかに天皇陛下を父として申し上げるこゝの可否、或はまたそれが假りに幼兒にふさはしい誘導の仕方である、さいふこゝろから生まれたと致しますと、そのふさはしいさいふこゝは、いつたい幼兒中心主義でも申すべき立場のものか否か、等々大きな疑問が續出して参りました、國民學校令のうちにあります「皇國ノ道ニ則リテ」さいふこゝの深い意味を、理解して頂きたくなつて來るのであります。併し國民學校令の解説をして問題の解決を圖つて居りますと、紙數から考へて肝心の國民科の指導内容に觸れるこゝが、至つ

て粗末になる、さういふおそれがありますから、これも亦省略しまして、お話のなかに簡単に織り込んでしまひませう。

二

國民學校に於て國民科を呼びますものは、理數科、藝能科、體鍊科、實業科と共に、新しく教科として立てられたものであります。いづれも「皇國の道に則りて初等普通教育を施し、國民の基礎的鍊成をなす、さういふ目的から生まれたのであります。さうして國民科は特に、國體の精華を明らかにし、國民精神を涵養し、皇國の使命を自覺せしめようとする點で、大切な任務を有してゐるものであります。國民科はこれを分つて、修身、國語、國史ならびに地理といふ四つの科目をなすのであります。なぜこの四科目が國民科といふ教科のなかに區別せられるのか、先づそれらの點を中心として、お話を進めて行きませう。

教育に關する勅語には

朕惟フニ我カ皇祖皇宗國ヲ肇ムルコト宏遠ニ德ヲ樹ツルコト深厚ナリ我カ臣民克ク忠ニ克ク孝ニ億兆心ヲ一ニシテ世々厥ノ美ヲ濟セルハ此レ我カ國體ノ精華ニシテ教育ノ淵源亦實ニ此ニ存ス

ミ仰せられてあること、十分御承知のところである筈であります。國民學校で鍊成することゝを求めてをります皇國臣

民としての道といふものは、すなはちこの教育に關する勅語に於て、教育の淵源としてお諭しになつてをられますことゝ結びつけて、考へぬいて見なければならぬのであります。しかも私共が、國體の精華を明らかにするといふこと、一層積極的なことばを用ひますと、國體の精華を發揮するといふことは、さうも直さず皇國臣民としての道に生きることであります。皇國の道を體得實踐して、億兆一心の實を擧げるといふことにほかならないのであります。

國民精神は、また國民文化と呼ばれ日本教學と呼ばれるすべてのものは、皇國の道に基づいて發揮せられるものであります。皇國の道に生きるといふことは、私たち臣民として考へますと、御奉公のまこと致すといふことであります。御奉公のまことを致し、億兆一心の實を擧げようとするところから、あらゆる精神的なものが、學問をも含めて、發揮されて來るのであります。但し、國民精神と呼ばれてをりますものは、無窮に生々發展して行く皇國のすがたを體現して、あらゆるものを包みこんでゐる博大な精神であるのであります。決してそれを偏狭固陋な、一面的特殊なものとして受取つてはならないのであります。もちろん義勇奉公といふことを中核として活動すべきものではあります。例へば優にやさしい「ものあはれ」を知る心といふやうなもの、このうちにはいるものであります。

し、また外來文化をこり入れて、これをすつかり消化し、いはゆる自家藥籠中のものとして、國民文化を創造し展開させて行く精神も、このうちに考へなければならぬのであります。

この國民精神を發揮し、皇國の道に生きようとするとき、そこに皇國の使命といふものが成立つて参ります。もこもこ皇國の使命は我が肇國の大精神に發源するところの使命であります。随つてこの使命は、我國肇國の事實に基づいて本來道義的のものであります。同時にまた天業恢弘、八紘爲宇といふこころから考へて参ります。それは皇國の生々發展に即して、歴史的のものであり、また世界的のものである、といふこころができるのであります。かうした點を詳しく論じて來ます。哲學的な世界觀上のむづかしい問題になりますから、深入りしないこころに致しまして、兎に角さうした皇國の使命といふものについて、少國民の自覺を促し、更に將來よのなかに出てからの活動に培つて置かうとするこころに、國民學校で國民科を指導する窮極の目的が存するのであります。

こころで、さきに御奉公を致す道に申し上げました「皇國の道」のいふのは、教育に關する勅語のうちにお示しになつてをられます點で考へます。それは「斯ノ道」に仰せられてあるものであります。「斯ノ道」はすなはち、國體の

精華を發揮するこころの道であります。それでこの「斯ノ道」の何たるかをこり上げ、道の教に即して、大御心を奉體して體得し實踐するといふこころが、國民科の任務の一點點になつて來るのであります。これが修身になるのであります。しかも「斯ノ道」に仰せられましたものは、そのまゝ皇祖皇宗の御遺訓であり、皇祖皇宗の宏遠なる肇國、深厚なる樹徳を始め奉りまして、國史的事實に基づいて見受けられる道でありますから、またこの國史的事實に即して、皇國の展開し來つたすがたを明らかにし、皇國の大生命を感得せしめるやうな學ばせ方が大切になるのであります。

この點に國民科といふ教科の内容が有する第二の重點が指摘されなければなりません。そこで國史といふ科目が極めて肝要な位置を占めて來るのであります。

更に國史といふ我國の歴史的展開を分かつこころのできぬものが、すなはち國土であります。それ故に、我が國土國勢を明らかならしめるといふこころによつて、皇國の道を學ばせるこころが大切であります。國民科のなかに地理といふ科目が考へられねばならぬ根本の理由は、まさしくこの點に存するのであります。かうした以上三つの重點を通じて學ぶといふこころから、「古今ニ通シテ譯ラス之ヲ中外ニ施シテ悖ラス」に仰せられました「斯ノ道」が體得されるこころになるのであります。もう一つ大切な重點が指摘されなけ

ればならない。それは國民精神が我が國語によつて表現され、國民の思想感情はみな國語によつて統制されてゐる、
こいふことである。すなはち「斯ノ道」を仰せられたもの、及び「斯ノ道」に基づいて發現する國民性、國民精神、
國民文化など一切が、我が國語を通して理解されるもの
なるのであります。隨つて國民の心の道をゆたかにする
こいふ角度から申しましても、國語の習得をこいふことが、
國民科の重點としてせむきもなければならぬのでありま
す。

かやうにして國民科をこいふ教科は、皇國の道を明らかに
し、これを體得實踐する立場から、自然に以上のやうな四
つの重點を含むのであります、それがそのまゝ、修身、
國語、國史、地理をこいふ四つの科目に分たれる理由なる
のであります。隨つて、國民科が四つの科目に分つてある
こいふことは、みなさんが小學校時代に習得された修身、
國語、國史、地理をこいふやうなものが、ごく無難作に、國
民科をこいふ新しい教科のなかで束ねられたこいふことは、
は、根本的に違ふのであります。一言にして申しますれば、
國民科をこいふ教科の目的をなしこびるための重點として四
つの科目が分れるのであります、飽くまでも原理的に一
貫して、國民的自覺をよび起し、皇國國民としての信念に
培ふ教科であるこいふことを、閑却してはならない。否、このこ

きをこそ十分に洞察されるこいふことが、なによりも大切である
のであります。分化して四科目になりましても、精神に於
て一致してゐるこいふこいふこと、國民科としての指導には、こ
のこいふ見極めがなければなりません。
教則のうちには國民科について、次のやうに定めてゐる
のであります。

一、我が國の道徳、言語、歴史、國土國勢等について習
得させ、特に國體の精華を明らかにして、國民精神を
涵養し、皇國の使命を自覺せしめるこいふこと。

二、皇國に生まれたるよろこびを感じしめ、敬神奉公の
眞義を體得せしめるこいふこと。

三、我が國の歴史、國土が優秀なる國民性を育成したる
所以を知らしめるこいふことに、我が國文化の特質を明ら
かにして、その創造發展につこめるの精神を養ふこいふこと。

四、他教科と相俟つて、政治、經濟、國防、海洋等に關
する事項の教授に留意するこいふこと。

これらのものはみな、我が皇國の大精神を固く守り、皇
國の使命を自覺せしめようとするところから生れて來るの
であります。天壤無窮の皇位を中心とし奉つて、我が國は
一君萬民をか、ないしは君民一體をか申してをります國家
活動をしてゐるものであるこいふ信念、私共は正しく明か
るい國民生活を展開させて行くものであるこいふ信念、限

りなく努力を續けてすぐれた國民文化を創造して來たのだ
こいふこと、ならばにこれからも創造するこいふ態度を堅
持して御奉公を致さねばならぬこいふこの信念、かやう
な國體に對する敬虔なる心情を啓培するこいふことが、大
眼目になつてゐるのであります。

幼児の教育を直接に結びつくことについて申し添へ
ますと、以上のやうな指導の目的は決して一足跳びに達成
され得るものではありません。國民學校でもそこから、兒
童の心身發達をこいふことを十分に見極めて、兒童の生活す
る實際ならびにその生活環境をこいふものと照し合はせなが
ら、段階を遂うて指導を進めて行くのであります。特に幼
兒教育を密接な關聯に在る低學年、すなはち初等科の第一
學年と第二學年とをこいふ時期では、兒童生活に於ける躰

こ國語の初歩的練習を主としてゐるのであります。これ
は理數科でも、また藝能科(圖書、工作がこのなかに入つて
ります)でも、同様な取扱方をしてゐます。この點をよく御
注意になる必要があります。國民科の指導について申しま
す、日常の行ひのなかにあらはれて來ることからについ
てその見方、考へ方、ならばに實踐を指導して、また想像
力を豊かならしめるやうにつまめるのであります。この時
期の國民科教科書が「ヨイコドモ」に「ヨミカタ」にありま
す。

以上順々に國民科の科目について説明し、關聯する教科
用圖書をさり上げながら、問題の焦點に觸れて行くことに
致しませう。

(つゞく)

國民學校藝能科音樂について

東京女子高等師範學校教授

小松 耕 輔

國民學校はいよゝ去る四月より發足いたしました。い
まその内容を調べて見ますと、從來の小學校とは種々の點
に於て大きな變化があります。その指導精神に於ても學科

の内容に於ても著しい變化があります。特に藝能科音樂に
は大なる改革が行はれてをります。順序として從來の小學
校唱歌科について一言して見る必要があります。

我が國に於て初めて學制の頒布せられたのは御承知の如く明治五年であります。これに「唱歌」が初めて加へられました。これが後に明治十二年九月教育令となり、さらに明治十三年十二月改正教育令として發布されました。文部省に音楽取調掛の設置されましたのは明治十二年十月であり、ますから、此の教育令以前後して設けられたのであります。此の取調掛の手で「小學唱歌集」三冊が刊行されました。これが我が國に於ける小學唱歌教材の現はれた初めてであります。その後「尋常小學讀本唱歌」が明治四十三年に、「尋常小學唱歌」六冊が、明治四十四年から大正三年までに出来上り、更にこれに改訂を加へて「新訂尋常小學唱歌」を命名して昭和七年に出版されました。それから昭和十年に「新訂高等小學唱歌」が出版されてをります。

以上は官邊に於て出版されたものですが、此の外民間からも澤山の唱歌教材が出版され、文部省の検定を受けて小學校の教育に用ひられてをつたのであります。

次に小學校令は何時公布されたか云ひますと、明治三十三年八月で、それを更に明治四十年二月に改正したのが本年三月まで行はれてゐたものであります。その法令に於て唱歌はさうなつてゐたか云ひますと、教則第九條に

「唱歌ハ平易ナル歌曲ヲ唱フコトヲ得シメ兼テ美感ヲ養ヒ徳性ノ涵養ニ資スルヲ以テ要旨トス」

とあり、第二項として

「尋常小學校ニ於テハ平易ナル單音唱歌ヲ授クベシ」
また第三項には

「高等小學校ニ於テハ前項ニ準ジ漸ク其程度ヲ進メテ授クベシ又便宜簡單ナル複音唱歌ヲ授クルコトヲ得」
と規定されてあります。これが今度の國民學校に於ては大に改正されてをります。

これまでの小學校唱歌は以上の法文に依つて行はれてゐたのであるが、これは約四十年前に發布されたのであるから、其間一般の音楽教育は非常に進歩し、この法規では不都合な點が澤山出来て參つたので、音楽の實際教授者側からは種々の改良意見が提出されたのであります。その改良の機會を得ず、遂に舊態依然として今日に及んだのであります。

しかるに此處十數年の間に、音楽に對する社會情熱が非常に變つて來ました。これまでいくらか冷遇してゐた一般教育者も國民も、教育上に於ける音楽の地位を大に理解し主要視するやうになりました。特に今次の支那事變以來、出征兵士を送るにも先づ音楽を以てし、また銃後國民の精神作興にも、青年の團隊訓練にも、又國民の厚生運動にも、音楽は今や國民生活の上に大なる存在を以てその姿を現はすに至つたのであります。

しかるに音楽に對して今一つの重大使命が課せらるゝこととなりました。それは高度國防國家に音樂との關係であります。軍隊に於ては此處十數年の間にその兵器が非常に進歩し、特に新兵器として飛行機や潜水艦の如きものが最も活動し出し、非常な重要性を持つに至つたので、兵士の訓練方法も従來とは異つた教育が必要となり、鋭敏なる聽覺の訓練が絶対に必要となつて來たのであります。これによつて敵の飛行機や潜水艦の動靜を最も的確に知り、また機械の故障を知ることが出来るのであります。

猶ほもう一つの重要性は一般産業に音樂との關係であります。今日の産業は昔と違つて機械を用ひることが非常に多くなり、従つてこれに従事するものは鋭敏なる聽覺、敏捷なる律動の感覺等が必要になつて來たのであります。

その他國民の日常生活に於ても、生活様式の變化、生活の機械化と共にあらゆる方面に於て鋭敏なる聽覺が必要となつて來たのであります。

かくの如く音楽は今やその本來の使命の外に更に國防、産業、日常生活の各方面に重大なる役割をもつに至つたのであります。幸にも恰度此の時期に於て國民學校藝能科音楽は、それらの使命を果すべく新たにその發足を見たのであります。

以上申し述べたやうに、國民學校藝能科音楽は、その本

來の使命の外に、社會情勢の變化によつて生じた種々の點を考慮してその内容が決定されたのであります。今舊來の小學校唱歌科に國民學校音楽科との著しく違つた點を上げると次の如くであります。

一、國民學校初等科に於ては、平易なる單音唱歌の外、適宜輪唱、及び重唱を加へること。

二、音樂の鑑賞をなさしむること。

三、音樂の指導をなし得ること。

これらはいづれも多年音樂教育界の輿論として要望されてゐたものであるが、今回改めて法規上に於て發表されるに至つたことは誠に喜ぶべきことであります。更に教授の注意をあげられてゐるのは

一、兒童の音樂的資質を啓發して國民音樂創造の素地たらしむること。

二、聽覺の訓練を重んじ、音の高低、強弱、音色、律動、和音等に對し鋭敏なる聽覺の育成に力むること。

三、學校の行事及び團體的行動との關係に留意すること。

これらのことが従來の唱歌科よりも一層明白に取上げられてをります。先づ聽覺訓練の方法について述べて見ませう。

聽覺訓練の方法は、かなり複雑であり、いはゞ音樂教育

の全般が一ミして聴覺訓練に關係してゐないものはないのであります。一時和音教育や、音高記憶だけを聴覺訓練に必要であるやうに考へてゐた人々もあつたやうでありますが、本當の聴覺訓練、即ち鋭敏なる聴覺の育成はそれだけでは不十分であります。故に一般的に音樂教育の盛んに行はれ、音樂の普及發達してゐる國々の人民は、聴覺も從つて鋭敏になつてをります。これを見ても音樂の全般的教育ミ鋭敏なる聴覺ミの關係がお解りのこミ、思ひます。

しからば聴覺の訓練はいかなる方法によつて行ふか申しますミ、まづ大體次のやうな部門に區別するこミが出来ると思ひます。

- 一、音高の記憶
- 二、律動の知覺
- 三、音色の認識
- 四、強弱の判別
- 五、和音の識別

以上の中、從來の音樂教育に於ては、第一の音高の記憶ミ第五の和音の識別ミに於て猶ほ不十分の點が多かつたと思ひます。しからば音高の記憶は如何にして行ふか云ふミ、從來の教育に於てもこれを行つてゐたが、その方法はまち／＼で方針が一定してゐなかつたので、國民學校に於ては大體次のやうに決定されたやうであります。

一、一音一音名にすること。

二、音名にはイロハニホトを用ひること。

三、全學年を通じて音名唱法を採用し、初等科四年より階名唱法ドレミを併用し得ること。

四、音名に嬰變の附されたる場合、歌唱に不便なる時、

または速度の早い音符を歌ふ場合には嬰變の文字を省略して幹音名によつて唱謠せしむること。

これまで小學校に於ては殆んど大部分は階名唱法を用ひ、ドレミを使用し、調の變るたびにドレミの位置をかへるたのであるが、この方法は音高の記憶ミいふ點からは不適當である。或る一音がいくつもの名前によつて呼ばれるこミは、結局固定した名稱を捕捉するこミが困難になり、兒童の頭を混亂せしめる。そこで一音を一音名とし、これによつて決定的なる音の高さを記憶せしめる必要がある。

次に音名には從來用ひられたイロハの初め七文字をこれに當て、歌ふ時に嬰變のついた場合は、速度の速い時、又は歌いにくい處は嬰ミか變ミかいふ文字を省略して單に幹音名で歌ふこミ、したのであります。これは現在ドレミ唱法に於ても同様な方法が用ひられてをります。

音高の記憶は幼年のうちの方が良好の結果を得るのであるから、國民學校に於ては初等科一年より三年頃までの間に於て十分これを訓練する方がよいのであります。四年以

上も無論その訓練を繼續するのでありますが、此の時期より教授者の考によりドレミの階名唱法を併用してもよいことになつてをります。

次に和音の識別訓練でありますが、元來和聲は旋律律動と共に音楽の三大要素として音楽教育に最も重要なものでありますから和音の訓練は音楽教育上最も大切なものであります。それに音高記憶さいふ點から見ても和音教育は非常に必要であります。音高の記憶は單音で訓練するよりも和音を通して次第に單音に及ぶ方が宜しいのであります。

鋭敏なる聽覺の育成は以上の外鑑賞教育にも大なる關係があります。即ち複雑なる管絃樂を鑑賞することによつて、あらゆる樂器の音色を聽き分け、變化ある微妙なる律動を知覺することが出来るのであります。又樂器指導に依つても種々の樂器を兒童自身演奏することによつて直接にその音高に注意し、律動を體驗し、音色を識別することが出来るのであります。歐米諸民族が鋭敏なる聽覺を有するのはかうした音楽鑑賞や、幼少より自ら樂器を演奏する機會が多いこともその一因であらうと思ひます。

以上の外これと關聯して藝能科音楽に於て行はんことを教授の事項について簡単に述べて見ませう。

一、本譜視唱法によつて、初等科六年迄に二嬰、二變を有する調號までに屬する歌曲を教授し、他は聽唱法に

よる。

二、初等科一二學年に於ては聽唱法を主とし、視唱法に於てはなるべく幹音のみよりなる旋律を使用する。

三、音域は大體文部省刊行の唱歌集の程度による。

四、拍子は主として、 $\frac{2}{4}$ 、 $\frac{4}{4}$ 、 $\frac{3}{4}$ 、 $\frac{6}{8}$ を用ふ。

五、旋法は長音階、短音階、及び陽旋、陰旋、律旋を用

ふ。

六、和音の種類はハ長調の各度の上の三和音、五度の五の七の和音(屬七の和音)及びこれらの轉回和音の範圍にする。但し場合によつては派生音を含む和音を使用することが出来る。和音訓練は他の凡ての基礎訓練と合して一時限十分以内とする。和音は一度に多くを授けずに十分記憶するまで毎時少しづつ、缺かさず、訓練することが必要である。ともすれば一時限の大部分を和音訓練に費してゐるやうな學校を見るが、如斯は甚だ非教育的である。

七、歌曲は初等科一二學年に於ては聽唱法を主とし、單音唱歌を授け、その他五線譜を連關して音名視唱の豫備教育を行ふ。聽覺訓練としては音の高低、強弱、音色、律動、和音の初歩を授け、年級の進むに従つてその程度を高める。

三學年に於ては視唱法を本體とし、以上の外、輪唱歌

または重音唱歌を加へる。

四學年に於ては大體以上により其の程度を高め、階名唱法を加味することが出来る。

五、六學年に於ては漸次その程度を高くする。

八、樂典事項は歌唱に即して之を授ける。六つかしい理論等をさけて出来るだけ實際的に、その必要に応じて授けてこれを授け、高學年に至つてそれを整理して教へる。

九、鑑賞教育はその系統案を作り、つぎめて國民的なるものを採る。同時に東西古今に互り、兒童の鑑賞に適するものを廣く採擇する。その方法として音樂演奏、レコード、ラジオ、音樂映畫等を利用する。

十、器樂指導は初年級は律動を主とする樂器に始まり、追々旋律樂器を加へ、更に和音樂器に進む。

十一、高等科は大體以上に準じて次第にその程度を高める。

十二、教科書は兒童用書と、教師用書の二とし、各巻とも必修教材と、選擇教材とに分ち、必修教材は全國學校兒童に必修せしめ、選擇教材は選擇の自由を認める。教師用書は音樂指導の精神、教材の要旨、歌詞歌曲の解説、伴奏樂譜、鑑賞指導及び器樂指導の方針等を掲げる。

大體以上の方針のやうである。既に初等科一二學年用の生徒用、並に教師用書が文部省から刊行され、教師用には極めて懇切なる指導が掲げられてあるから必ず御一讀を願ふ次第であります。

次に「兒童ノ音樂的資質ヲ啓發シテ高雅ナル趣味ヲ涵養シ國民音樂創造ノ素地ヲラシムベシ」といふことについて一言したいと思ひます。

我が國文化の特徴とするところは、あらゆる世界中のよきものは悉くこれを取り入れて日本化し、それによつて更に高度の文化を創造するにあるのであつて、音樂の進む道もその通りと思ひます。我々が今日有する音樂は悠久の昔より傳はつてゐる處のものに更に奈良平家朝以來傳來した、三韓、隨唐、渤海、林邑の諸國の音樂、即ち今日いふところの東亞共榮圈の全部の音樂が悉くわが日本民族によつて消化され、特徴ある日本音樂となつて我々に傳へられたのであります。更に又明治の初年より西洋諸國の音樂が傳來し、今日の盛況を見るに至つたことは諸君の知らるゝ通りであります。文化に對する我々日本人の消化力は實に驚くべきもので、いかなる高度の藝術的なる西洋音樂も、よくこれを理解し鑑賞し、やがてはこれを自家樂範中のものとすることが出来るのであります。日本は民族的に地理的に東西音樂を打つて一丸となし、更に光輝ある高度の音

樂を打樹てるべき使命を擔つてをるやうに思はれます。

音樂は又生活と共に變遷して參ります。これまでの日本音樂はこの點に於て現在及び將來の日本音樂としては不當な點が多々あります。今日の如く音樂の用途が集團的となり、野外的となり、今や全世界の上に高揚する我が民族の姿を示す場合には藝術的にも社會的にも面目を一新した皇國の新國民音樂の樹立が最も必要であると思ふのであります。

かくの如き國民音樂創造の素地を作る大使命が即ちこの度の國民學校藝能科音樂にあることは實に明白であると思

ふのであります。

最後に「學校行事及團體的行動トノ聯關ニ留意スルコト」であります。これは是迄でも行はれてゐた處であるが、國民學校に於ては特に此の點を強調してゐるのであります。學校に於て行はれる行事にはなるべく音樂を活用し、又團體行進、團體作業、學校體操、團體勤務等あらゆる機會を利用して音樂を用ひ、音樂教育の効果を百パーセントに活用することが此際最も必要と信する次第であります。

幼稚園遊戯

(一)

東京女子高等師範學校教授

戸 倉 ハ ル

今回このに御教へいただきました「ねんどのあそび」は、たまた

つけたの二つは、最近完成された全くの新作詞、新作曲、新振附でございます。歌ひ方にも注意致しませんと折角の氣分

が表はれませんので、戸倉先生の好き伴奏者として、本會の遊戯講習會の折には必ずおいで下され、皆様に唱歌を御教へ下さつてゐた、東京高等師範學校附屬國民學校の小林つや江先生に御願ひ申上げて、歌ひ方をお書き頂きました。(編輯係)

「ねんどのあそび」でお目もじ

皆様お達者でいらつしやいますか。今年はお目にかゝる機會を失つて誠に残念でございます。

いつも七月の講習は、暑さの中で、したゝる汗をしぼりながらの職域奉公が、何と楽しかつた事でせう。せまからぬ體育館を埋めつくした皆様の、あの美しいお聲、和やか

なあのおえまひ、そして子供さながらの、あの軽快な動き、
この中にまげこんで、身も心も一體の私は、限りない感激
で四日間を夢の間に過すのでした。今年もうれしい想像を
めぐらしながら張り切つて居りました。ところが、突然中
止まなつて本當にがっかりしてしまひました。
せめて教材の一、二を通してお目にかかり皆様御健康
を御祈りいたします。

ねんどのあそび

倉橋惣三 作詞
中山晋平 作曲
ビクタ

できました できました
ねんごのたんくが できました
おもたいくるまに きかんじゆう
かたかたかたかた そらはしる
できました できました
ねんごのでんしやが できました
ながいぼーるに ちさいはた
ちんちんちんちん そらでます

〔唱ひ方〕

できました できました
ねんごのうさが できました
まるいからだに ながいみみ
びよんびよんびよん そらはねる
できました できました
ねんごのおにんぎよ できました
かわいゝあんよに くつはいて
おしようかうたつて そらあるく

全體ミして明るく、晴ればれき、
二拍子のアクセントに注意して、
前奏八小節は楽しい遊びに體全體動かしてゐるかの様に
同はれる。
全體にあらはれるスタッカートの弾き方に特に注意をし
て取扱ふ。

符點四分音符を一分間に九十二の速度で、

歌詞 第一節

デキマシタ デキマシタ
ネンドノタンクガデキマシタ
ほんまうに楽しさうに明るく歌はせる

動作

前奏

四呼間——小走で後へゆき、蹲んで両手で粘土を持つ。

四呼間——小走で圓の中心へ粘土を置く。

八呼間——以上の動作を更に一回繰り返す。

(一)

できました できました——全員圓心にむかひ蹲んで、

シャベルで掘る動作を八回行ふ。

ねんどのたんくができました——二呼間に右手を横にま

わし高くあげ、體前で左手を打つ 以上の動作を左・右

交互に四回行ふ。

おもたいくるまにきかんじゅう——兩臂のひじを屈げて

脇にぎり、上から下に廻してたんくの様子を二回行

ふ。

かたかたかたかた——足踏を強く四回しながら立上り、

右を向く。

そらはしる——兩臂を「重たい車に」さ同じく一回まわし

ながら小走に五歩前進する。

(二)

できました できました ねんどのでんしやができました

——(二)の「できました、できました、ねんどのたんく

オモタイクルマニキカンジュウ

重さうに、リズムカルに、

カタカタカタカタ ソラハシル

擬聲音に注意して取扱ふ

歌詞 第二節

第一節と同じ様な心持で歌はせる。

第二節はデンシャがチンチンと動く面白さを味はせながら歌はせる。共に擬聲音の取扱には注意する。

歌詞 第三節、及び歌詞 第四節

第二段第二小節目の「ウサギガ」「オニギョ」の旋律は第一節及び第二節と異つてゐるから注意して歌はせる。即ち「ドラドラ」が「ドレドラ」を「ラ」が「レ」に上行してゐる。

第三節はウサギ

第四節はオ人形

共に幼児の生活に親みの多い題材であるからよろこんで歌ふことが出来ると思ふ。

擬聲音の取扱ひ方はその歌曲の中の生命をも考へられるのであるからよく氣分を出して歌はせることが肝要である。

〔遊戯〕

準備 五人乃至八人で一組の圓を作る。

ネンドアソビ

明ルク・晴々ト ♩. = 92

倉橋惣三 作詞
中山晋平 作曲

Musical score for the first system, featuring a vocal line and piano accompaniment in 2/4 time.

Musical score for the second system, featuring a vocal line and piano accompaniment in 2/4 time.

Musical score for the third system, featuring a vocal line with lyrics and piano accompaniment in 2/4 time.

1.	デ	キ	マ	レ	タ	-	-	デ	キ	マ	レ	タ	-
2.	デ	キ	マ	レ	タ	-	-	デ	キ	マ	レ	タ	-
3.	デ	キ	マ	レ	タ	-	-	デ	キ	マ	レ	タ	-
4.	デ	キ	マ	レ	タ	-	-	デ	キ	マ	レ	タ	-

(二)のできました、できました、ねんごのたんく

ネ　　ノ　　タ　　ク　　ガ　　デ　　キ　　マ　　シ　　タ
 ン　　ド　　ノ　　ウ　　サ　　ガ　　デ　　キ　　マ　　シ　　タ
 ネ　　ン　　ド　　ノ　　デ　　サ　　ガ　　デ　　キ　　マ　　シ　　タ
 ネ　　ン　　ド　　ノ　　ネ　　ニ　　ン　　ギ　　デ　　キ　　マ　　シ　　タ

オ　　モ　　タ　　イ　　ク　　ル　　マ　　ニ　　キ　　カ　　ン　　ジュウ　　—　　—
 マ　　—　　ル　　イ　　カ　　ラ　　ダ　　ニ　　ナ　　ガ　　イ　　ミ　　ミ　　—　　—
 ナ　　—　　ガ　　イ　　ボ　　—　　ル　　ニ　　チ　　サ　　イ　　ハ　　タ　　—　　—
 カ　　ハ　　イ　　イ　　ア　　ン　　ヨ　　ニ　　ク　　ツ　　ハ　　イ　　テ　　—　　—

カ　　タ　　カ　　タ　　カ　　タ　　カ　　タ　　ソ　　ラ　　ハ　　シ　　ル　　—
 ビョ　　ン　　ビョ　　ン　　ビョ　　ン　　ビョ　　ン　　ソ　　ラ　　ハ　　ネ　　ル　　—
 チ　　ン　　チ　　ン　　チ　　ン　　チ　　ン　　ソ　　ラ　　ラ　　デ　　マ　　ス　　—
 オ　　ショウ　　カ　　ウ　　タ　　ッ　　テ　　ソ　　ラ　　ア　　マ　　ル　　ク　　—

【備考】附點四分ノ二拍子。即チ附點四分音符一個ヲ一拍トシ一小節ヲ二拍トスルモノ

ができました」三同じ動作をする。

ながいぼーるにちさいはた——立上り軽く足踏をしながら、右をむき前の者の肩に手をかける。

ちんちんちんちん——兩ひじを屈げ、脇にこり、體側で

二回まわすと同時に膝を二回屈げて伸す。

そらてます——兩臂を脇にこつたまゝ、小走に五歩前進する。

間奏

曲のみのころは、子供の好むものを任意に表現させる。小鳥さすれば

十六呼間——「できましたできました。ねんぎのたんくができました」三同じ動作をする。

八呼間——兩臂を側に舉げ足踏する。

四呼間——右をむき、臂を斜後に伸し、翼を動かしながら前進する。

四呼間——更に翼を動かしながら小走で前進する。

(三)

できましたできました。ねんどのうさぎができました

——(一)の「できましたできましたねんぎのたんくができました」三同じ動作をする。

まるいからだに——兩臂を胸前に交叉して背を丸くし丸

い身體を表現する。

ながいみみ——兩臂で耳を作りながら立上る。

びよんびよんびよんびよん——耳を作つたまゝ、兩足で

四回跳びながら、其の場を右の方から一まわりする。

そらはねる——右に向き、圓周上を兩足で三回跳びながら進む。

(四)

できましたできました。ねんどのおにんぎよできました

——(二)の「できましたできました。ねんぎのたんくができました」三同じ動作をする。

かわいゝあんに——立上りながら臂を腰にこる。

くつはいて——「くつ」で左足を前に出し踵を床につけ

「はい」で左足を右足に揃へる。「て」は右足で同じ動作をする。

おしよつかうたつて——右向して右手を口許にこり左上

を眺め、左手を後にびん三伸して、踵から著床して四歩前進する。

そらあるく——その姿勢のまゝ、更に五歩小走で前進する。

後奏

十六呼間——前奏に全く同じ動作を行ふ。

ばつたみつけた

倉橋惣三 作詞
服部正作 作曲
ビクター

ばつたみつけた くさのなか
しづかにだまつて そをつみねらつて

あ あ さんだ
ばつた さんでいつちやつた

〔唱ひ方〕

バツタミツケタ

ばつたをみつけた喜びを感激をもつて

「バツ」ミ「タ」ミの間の一拍の休符ははつと思つた心持を出すので正しく歌はせる。

「ミツケタ」の「タ」の次の八分休符は正しく休む。はぎれよく歌ひ終り、次に歌はれる言葉を呼び起す心持で。

クサノナカ

八分音符並列の「クサノナ」はなだらかに「カ」は二分音符を十分に保つて。

シヅカニ

しづかに落ちついて歌はせる。

ダマツテ

「ダ」は八分音符でマルカートに、

「マツ」は切分音であるから「マ」を強く、「テ」で落ちつかせる。

ソート

ネラツテ

共に「ダマツテ」の「リズム」を受けつぎ發展させてゐるので歌の心持をよく味はひながら歌はせる。

アア トンダ

「アア」ミがつかりしてしまつた心持で

「トンダ」の「ト」の附點八分音符を十分にのばして、はづませて。

バツトトンデ イツチャツタ

バツタのさんでいつたリズムをそのまま用ひてあるの
で面白く歌ふこゝが出来らうであらう。

バツタをみつけた最初の感激からにがしてしまつた幼
兒の心持を卒直に面白く表現してゐる。可愛らしい歌
曲である。

〔遊戯〕

準備 二人組となり 自由の隊形に配置する。

動作

一

前奏八呼間——靜かに聴く。

バッタミツケタ

倉橋惣三 詞
服部 正 作曲

First system of the musical score. The vocal line (treble clef) begins with a forte (*f*) dynamic and contains the lyrics: バ ッ タ ミ ツ ケ タ ク サ ノ ナ カ シ ャ ヅ. The piano accompaniment (grand staff) starts with a forte (*f*) dynamic and includes a piano (*p*) section at the end.

Second system of the musical score. The vocal line (treble clef) contains the lyrics: カ ニ ダ マ ー ツ テ ソ ー ト ネ ラ. The piano accompaniment (grand staff) continues with chords and a bass line.

Third system of the musical score. The vocal line (treble clef) contains the lyrics: ッ テ ア 、 ト ン グ バ ッ ト ト フ イ ッ チ ャ ヅ. The piano accompaniment (grand staff) concludes the piece with a final chord and bass line.

ばつた——兩臂を口許にきつて、膝を曲げ二人互に呼び合ふ様子をす。

みつけた——體前で拍手を一回して其の手を下におろす。

くさのなか——「ばつたみつけた」と同じ動作をす。

しづかにだまつて——兩臂を體前から上に舉げ横にまわす動作を三回行ひながら忍び足で左足から三步前に出る。「あつて」は右足を前に踏出したまゝ、上體を前に傾け耳を澄す様子をす。

そまつとねらつて——左足に體重をかけ、體を後に倒し、兩臂を前から上に舉げる。「て」の時、兩臂を床についで、かがんで捕える様子をす。

ああ——立上りながら、二人は顔を見合せて體前で拍手を二回する。

とんだ——更に拍手を三回續ける。

ばつととんで——兩臂を後下へ伸し翅を作り、兩脚で二回跳びながら前へ進む。

いつちやつた——翅を作つたまゝで、右脚を後に舉げて左脚で三回跳びながら、更に前に進む。

(二)

レコードの曲のみのまごころは ばつたを巧く捕へ得た歡びの様子を表はす。即ち

八呼間(ばつたみつけた草の中)——兩臂を開いて、上體をやゝ前に傾けながら左足から八步前進して、自由の方向にばつたを尋ねる様子をす。

十六呼間(靜かに黙つてそつとねらつて)「しづ」で左足を前に踏出し「かに」で右足の膝をまげ股を前に舉げ、左臂を前に右臂を後に伸す。此の動作を左右交互に七回行ひ、ばつたの居るまごころへそつと忍び寄る様子をす。「あつて」で右足前に踏出し、それに體重をかけ「て」で拍手一つして掌中にばつたを捕えた様子をす。

四呼間(あゝ 跳んだ)——(一)の「あゝ跳んだ」と同じく體前で拍手を五回行ふ。

八呼間(ばつと跳んでいつちやつた)——更に拍手を續けながら。其の場を左に廻り、喜びの様子を表はす。

幼稚園手技 (二)

東京女子高等師範學校保姆 及 川 ふ み

今年の四月から國民學校が實施せられて以來、我々保育界のものに一段國民學校に對する關心が深められると同時に、幼稚園の保育自體についても大いに反省の好機を與へられたのはいふまでもない。

國民學校の新しい教育精神については、實施前すでにラジオ、新聞、講演等によつて周知の事であらうが、この國民學校の兒童の新しい學校生活の實際については我々保育者としては尙更に熟知しておきたいものである。しかしながら幼兒は寸時も難れておられない我々保姆の日常から考へて、國民學校の實地授業の參觀の時を得る事は容易の事であつて又度々許されるものでもない。たゞ初等科一二年生の實際授業は直接關係に最も我々の保育の上に近いものであるから是非とも參觀の時をつくつて實際保育の上の考資料にしなければならぬことである。

國民學校實施にともなつて、幼稚園としての幼兒の生活指導の全般については倉橋先生の昨年の夏期の講習に引きつゞき、本年の幼兒の教育誌上において、適切なる御指導

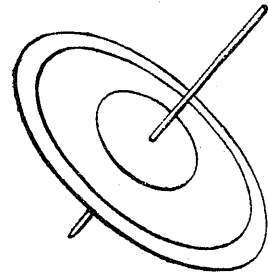
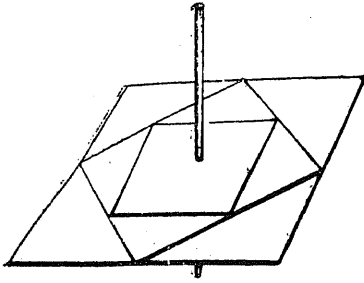
を仰ぎ、これによつて我々保育の實際にあたるものはその指針の、もこに細かく立案して新時代に即應する保育の道を進めなくてはならないのである。

尙この誌上に保育の各項目についてそれ／＼造詣深い各先生方の御高見を伺ふことによつて保育の實際指導の上一段の糧を得ることの出来る事は誠に斯道の爲同慶の至りである。たゞおこがましくも其の中に手技の一項をわけていたゞいた事は自分として誠に光榮なことであるがたゞ讀者の諸賢に對して御期待に添はれない事を豫めお許しをいたゞきたい。

さて手技の實際指導についてこの際、切に痛感する事は一 簡單な方法によつて作られるもの

これが第一に強調したい事である。幼兒たちが出来るだけ自分自身の力だけでつくり上げられるもの

これは手技が、保育項目の多くが、外より與へられるものを受ける生活に對して、内より作り出す生活として尊重せられるところに生命があることを常に考へてゐなければ



ならない事である。
この意味から云つても、大人が自分自身の満足する結果を、決して幼児に期待してはならない事である。つまり出来るだけ簡単なものを、ごままでも幼児自身を動かさせて作らせるのであるから、大人の満足出来ない場合も多々ある事である。これは一應當然の事として誰にも直ちにうなづかれる事

であるが、今尙保育の實際として保姆が幼児の作品の修正に多くの時間を費されるころもある様である。これは或一つには習慣性にもなり、或は家庭(保護者)との關係もあつて容易に實行出来にくい向もあるかもしれないが、この點のみ慮つて幼児そのものゝ指導の方針を誤つてはならないのであるから、この實際保育の改新の好機に是非ごま

實行されたいものである。

こゝに一言つけ加へておきたい事は、幼児の特技製作は本體としては幼児自身の手によつて作られるものであるが、こゝに幼児の欲求する製作品があつたとしても、幼児自身の力だけでは出来ない場合なご實際の幼稚園生活としてはしばしばある事である。かかる場合なご保姆の手傳の必要なことは當然すぎる事である。たゞ初めから幼児の興味を全々無關心な材料を、しかも程度の高いものを、ほんご保姆の手によつて修正さ

れてゆく位大きな徒勞はないと思はれる。

二 出来上つたもので遊べるもの

作りあげられたものをもつて遊びの中に役立たせられるものであつて、そこに始めて製作の喜びを味ふと同時に、その作り方の不備の點なきを見つけてつくり直す事によつて、一段の手技の價値が高められるのである。製作品を單に飾つておく事のみにならない様にありたいものである。

この二つが最も手技の材料として價値のあるなしを選ぶ大きな條件ともいふべきものである。

三 次に製作に必要な材料について

自然物使用

四季折々の草木の花、葉、莖、實等、これは地方地方によつて特種のもので材料とする事が出来て面白い

例へば園庭の一部に麥を植ゑて、幼児と共に培ひて、その麥わらの利用等、或は秋木々の實のおちる頃、さんぐり、梧桐の實なき拾ひ集めておいて材料にする等

物資厚生

空箱(木箱、紙箱)包紙、端書、水引、紐等

時局柄容易に得られるものを材料とする事に心がけておく事

次に實際的の材料を一二あげる事にする

頸かざり

古はがき 二枚

水引 一本

麥ワラ 一本

古はがき縦一四センチのうち二センチ切り落して、残り四つ折り(三センチづつ)にし、横三つ折り(三センチづつ)に折目をつけておく、これは保姆の方で用意する

折目のついた二枚のはがきをひろげて、一枚の片面だけ赤く、一枚の片面を黄色にぬる

この頸かざり一本を作るのに數回に亙つて作り上げるこいふ事を最初から考へて作つてもらひたい。二枚のはがきを塗る事が一度の仕事の分量として充分である。従來製作の出来上りを急ぐせが幼児にも保姆にもあつた。急ぐ爲に製作の部分くが相末にさりあつかはれた。はがきの一枚や二枚をぬりつづすこは幼児の仕事としては容易なこさである。この容易なこさを丁寧にするところに價値のあるところを考へてもらひたい。

次に色の塗つてない側を見て、折目通り三センチ四方のもの一枚の端書から十二切りおさす。あの切りおさすのも折目に沿つて出来るだけ丁寧に切らせる。切りはなす事も一度か或は二度の仕事の分量に充分である。

次に三センチ四角のものを色の塗つた部分を内側になる様に、四つの角を中心へ折り、さらに外へ半分折りかへし

する。折目を充分つけてから外へ開く様にする。一度に三つ出来るか四つ出来るか幼児の程度に應じて花をつくらせるよ。出来る上つた花は大人の作るほき精確に出来ないがそれで結構で、一々折り直すなごさいふ事はしないよにする。花の中心には錐で穴をあけておく。

麥わらは一寸位の長さに切る。麥わらを切る前に少時間水にひたしておく。麥わらが割れなくてよい。

水引に花と麥わらをはるく、挿してゆく。この時、花の向を一つおきに挿す。裏表がなくてよい。

はがきこま

挿圖の如く一枚の端書に七センチ四方、五センチ四方、三センチ半四方の四角を三枚まつて、大は黄、中は赤、小は黄といふ様に三枚の四角を一つおきに同じ色にクレヨンでぬつておく。

三枚切りはなして、大の上に中の四角對角線に貼つてゆく。中の上にさらに小の四角も亦對角線に貼る。今までも書用紙でこの種のこまは作つたことがあるが端書を三枚重ねるまゝところにこのこまの丈夫さが出来て、幼児がくりかへしく廻して遊ぶこまが出来るのである。中心に穴をあけて、ヒゴ或は小楊子をさしこむ。中心の穴は出来るだけ小さくあけて、さす棒がかたくさる様にする。

四角こまと同様の方法で、大中小の三枚の圓形を一枚の

はがきからまつて、二色或は三色に塗りわけて、三枚はり合せて作る。こまを丈夫にする爲に中心を三枚重ねるのであつて形や、色は各目に考へて作らせ、幼児を指導していただきたい。

幼稚園遊戯講習會

今夏の講習會に豫定されて居りました戸倉教授の幼稚園遊戯實習は、是非速かに受講したいといふ多数の御希望がありましたので、その御熱心に應じて左記の通り開催することに致しました。既に幼稚園が始まつて居る時でありますが特に休日を選びましたから、皆様お誘ひ合せ御來會を切望します。

一 講師 東京女子高等師範學校教授 戸倉ハル先生
 一時 日 九月二十三日(秋季皇靈祭) 午前九時—午後四時まで

九月二十八日(日曜日) 右同

一場 所 東京女子高等師範學校體育館
 一會 費 參 圓

一 申込期日 九月二十日 日本幼稚園協會宛

昭和十六年九月十五日

東京市小石川區大塚町三十五番地
 東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

日本幼稚園協會

日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長

東京女子高等師範學校長

下村 壽

主幹

東京女子高等師範學校教授
附屬幼稚園 主事

倉橋 惣三

日本幼稚園協會規則

第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス

第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ケ

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ

第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ

第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得

第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ

一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査

一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習會ノ開催

一、雜誌發行(毎月一回)

一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行

一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介

一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認ムタル事件

會ノ開催

一、雜誌發行(毎月一回)

一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行

一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介

一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認ムタル事件

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 一名 會務ヲ總理ス

主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス

幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス

評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス

第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス

第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ケ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス

第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ

第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

定價

一ヶ月分	金參拾五錢	特等面一頁二等面一頁
半年分	金貳圓拾錢	金貳圓拾錢
一年分	金四圓拾錢	一等面一頁一頁以下
拾貳冊送金四圓拾錢	共	神田區駿河臺ヨリ
拾貳冊送金四圓拾錢	共	廣告社に御申込下さい

昭和十六年八月二十八日印刷納本
昭和十六年九月一日發行
幼兒の教育 第四十一卷 第八・九號

不許複製 禁止轉載

編輯者 東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
發行所 倉橋 惣三
印刷者 柴山 則常
印刷所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地
會社 杏林 舍

發行所 日本幼稚園協會

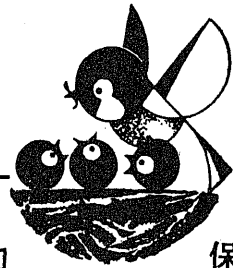
東京市小石川區大塚町三十五
東京女子高等師範學校附屬幼稚園內
振替口座東京一七二六六番

注 文 規 定

- 一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます(郵券代用の場合は是へは換替一割増)
- 一、御送金の場合はなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます
- 一、送金の筋には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし
- 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。
- 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたします。其節は早速御送金を願ひます。
- 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

目書行發館ルベール

書導指たき生るけ於に育教兒幼
書良つ立役に直に上育保の際實



保 育 叢 書

倉橋惣三先生監修

四六判總布本綴
各册定價金一圓
送料六錢

第一編 幼兒の 人形芝居脚本

菊池ふじの先生
徳久 孝子先生 共著

第二編 自然物おもちゃ

膳 眞規 子先生著

第三編 幼稚園の 手技製作

及川 ふみ先生著

第四編 實驗 保 育 學

和田 實先生著

幼兒 性行 評定 尺度

淡路圓治郎先生著

定價 金 一圓
送料 金 六錢

農繁 託兒 所の 經營

淡路圓治郎先生著

定價 金 一圓
送料 金 六錢

實地 踏査 に基づく フレーベル 全傳

倉橋惣三先生 共著
吉田 虎彦先生

定價 金 三圓
送料 金 廿錢

幼稚園 律動 遊戲 曲譜 集

高市 慶雄 先生著

定價 金 一圓
送料 金 六錢

附 記憶 感覺 競争 遊戲・動作 篇

大阪市 保育 會編

定價 金 二圓
全冊

構成 々分を 主としたる 幼稚園 遊戲の 保育 要諦

大阪市 幼稚園 共同 研究 會第六 區編

第一卷 動作 集 (金二圓)・第二卷 曲 譜 集 (金二圓)

子 供 の 舞 踊

石井 漠 先生著

定價 金 二圓
送料 金 十錢

シル エツト の 作り 方

鈴木 重章 先生著

定價 金 一圓
送料 金 六錢

館ルベール 株式會社

本社 東京・田神・神保町二丁目 (33) 電話 三六六二番
大阪・東區・後備五丁目 (24) 電話 八三九七番
本出張所

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可

昭和十六年八月二十八日印刷納本

臨時定價 七拾錢